

知 床 白 書

平成20年度 知床世界自然遺産地域年次報告書(案)



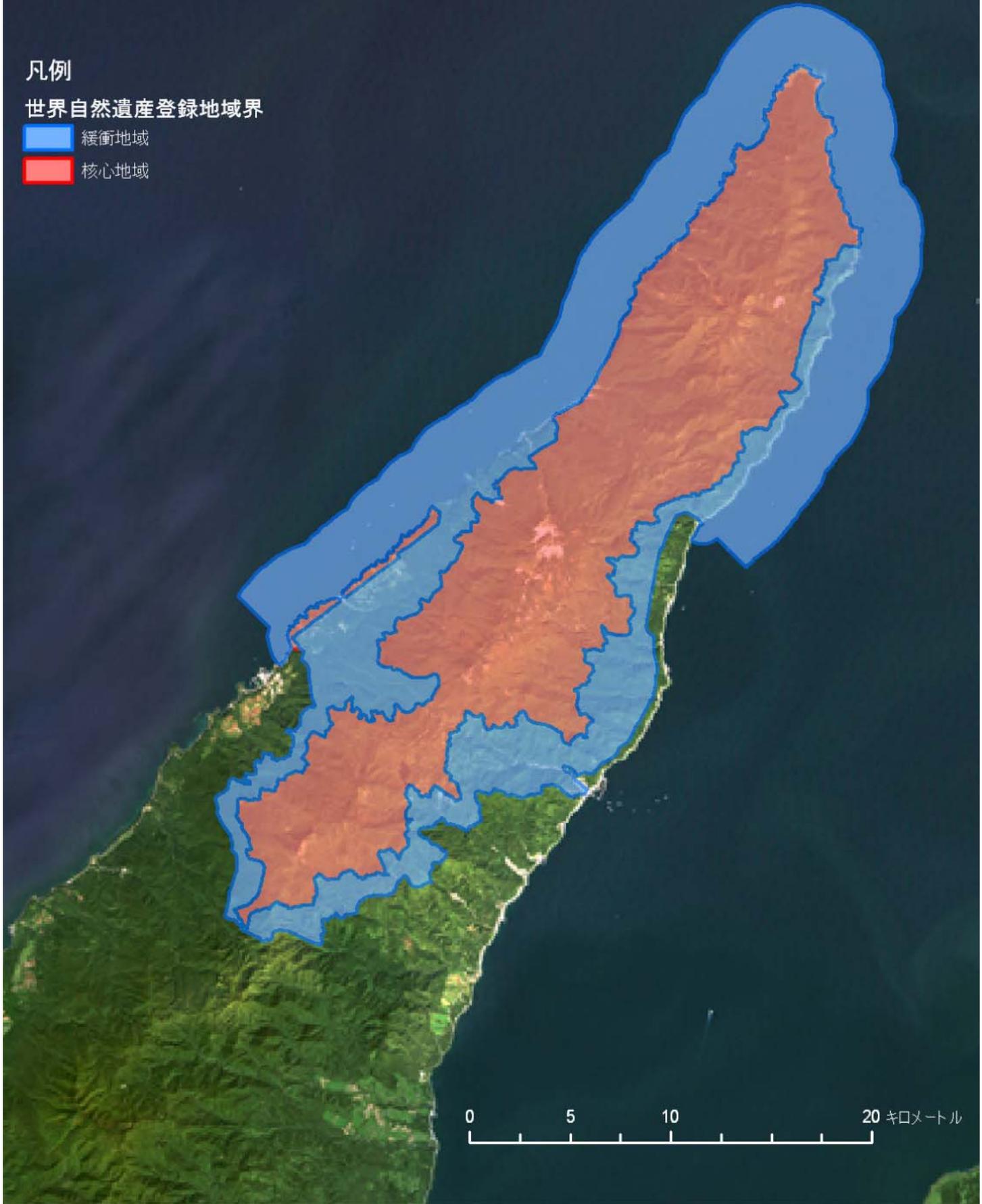
この案は、知床世界自然遺産地域科学委員会および知床世界自然遺産地域連絡会議での議論のたたき台として環境省がとりまとめたものである。



凡例

世界自然遺産登録地域界

-  緩衝地域
-  核心地域



0 5 10 20 キロメートル

目 次

I 知床の自然環境

1. 地形・地質	I - 1
2. 気候	I - 1
(1) 降水量	I - 2
(2) 気温	I - 2
(3) 風速	I - 3
(4) 風向	I - 3
(5) 日照時間	I - 4
(6) 雪	I - 4
3. 海水	I - 5
4. 植生	I - 7
5. 野生動物	I - 8
6. 景観	I - 9

II 知床を取り巻く社会環境

1. 土地利用・土地所有	II - 1
(1) 地目別面積	II - 1
(2) 土地所有	II - 1
2. 人口	II - 2
(1) 人口と世帯数の推移	II - 2
(2) 年齢別人口構成	II - 2
3. 産業	II - 3
(1) 産業別就業者数	II - 3
(2) 農業	II - 4
(3) 森林・林業	II - 6
(4) 漁業	II - 7
(5) 商業	II - 9
(6) 工業	II - 9
4. 観光	II - 10
(1) 入込総数の推移	II - 10
(2) 月別入込数	II - 10
(3) 宿泊施設	II - 10
5. 交通アクセス・交通量	II - 11
(1) 交通アクセス	II - 11
(2) 交通量	II - 11
(3) 野生動物と交通	II - 13
6. 保護地域	II - 14
7. 人文歴史	II - 15
(1) 指定文化財	II - 16
(2) 発掘調査	II - 16

Ⅲ 知床世界自然遺産地域の利用状況

1. 利用の概要	Ⅲ-1
2. 利用状況データ	Ⅲ-3
(1) 公園全体の状況	Ⅲ-3
(2) 知床半島中央部地区の利用状況	Ⅲ-4
1) 知床五湖地域	Ⅲ-4
2) カムイワッカ地域	Ⅲ-7
3) ホロベツ地区	Ⅲ-8
4) 知床連山地域	Ⅲ-9
5) 羅臼湖地域	Ⅲ-11
6) 羅臼温泉地区	Ⅲ-12
7) 知床峠	Ⅲ-13
8) その他	Ⅲ-14
(3) 知床半島先端部地区の利用状況	Ⅲ-15
1) 知床岬、知床沼、知床岳地域	Ⅲ-15
2) 観光船	Ⅲ-17
3) シーカヤック	Ⅲ-18
4) 河口部	Ⅲ-19
(4) 施設利用状況	Ⅲ-20
1) 知床自然センター駐車台数（マイカー規制実施期間）	Ⅲ-20
2) 知床自然センターダイナビジョン利用者数（団体・個人）	Ⅲ-21
3) 羅臼ビジターセンター利用者数	Ⅲ-22
4) 道の駅（ウトロ、斜里、羅臼）	Ⅲ-23
5) 森林センター・ボランティア活動施設	Ⅲ-24
6) 知床博物館	Ⅲ-25
7) 知床世界遺産センター利用者数	Ⅲ-26
8) 知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数	Ⅲ-27
3. 遭難・事故等の発生状況	Ⅲ-28

Ⅳ 知床地域の施設整備・維持管理の状況

Ⅴ 知床地域の保全管理の状況

1. 各種調査の実施状況	V-1
2. 巡視活動の状況	V-9
(1) 環境省	V-11
(2) 林野庁	V-13
(3) 北海道	V-13
3. 野生生物との共生と適正利用に関わる保護管理の状況	V-14
(1) ヒグマの出没状況とヒグマ対策活動の実施状況	V-14
1) ヒグマ出没状況	V-14
2) ヒグマ対策活動	V-14
3) 有害捕獲個体	V-15
4) 知床五湖遊歩道の状況	V-16

(2) エゾシカ管理の状況	V-17
1) エゾシカ管理の概要	V-17
2) 平成20年度（H20シカ年度）知床半島エゾシカ保護管理計画実行計画	V-17
(3) 鳥獣による農林水産業等に係る被害状況	V-19
(4) 稀少猛禽類の収容状況	V-19
4. 各種会議等の実施状況	V-20
(1) 知床世界自然遺産地域連絡会議	V-20
(2) 知床世界自然遺産地域科学委員会	V-21
1) 科学委員会	V-21
2) エゾシカワーキンググループ	V-22
3) 海域ワーキンググループ	V-23
(3) 知床国立公園利用適正化検討会議	V-24
(4) その他関連する会議	V-25
1) 知床永久の森林づくり協議会	V-25
2) 知床エコツーリズム推進協議会	V-27
3) 知床五湖の利用のあり方協議会	V-28
4) カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会	V-29
5) しれとこ100平方メートル運動地森林再生専門委員会	V-30
6) カムイワッカ湯の沢利用対策連絡協議会	V-31
7) 羅臼町・知床世界自然遺産協議会	V-32
5. 法令に基づく管理の状況	V-33
(1) 自然公園法	V-33
(2) 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律	V-34
(3) 自然環境保全法	V-37
(4) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）	V-37
(5) その他	V-38
1) 森林法	V-38
2) 文化財保護法	V-38
3) 漁業法及び水産資源保護法	V-38
4) 海洋生物資源の保存及び管理に関する法律	V-38
6. 普及啓発活動の状況	V-39
(1) イベント	V-39
(2) 普及啓発用資料の作成	V-41

参考資料

1. 報道発表資料（平成 20 年度） 参考資料－ 1
2. 知床地域に関連する事業一覧（平成 20 年度） 参考資料－ 2
3. 知床世界自然遺産地域に係る法令・計画・利用ルール一覧 参考資料－ 3
4. 知床地域にみられる希少生物 参考資料－ 4
5. 知床世界自然遺産に係る新聞報道一覧 参考資料－ 1 0
6. 知床世界自然遺産に係るテレビ番組 参考資料－ 1 0
7. 知床世界自然遺産に係る映像媒体 参考資料－ 1 0
8. 知床世界自然遺産に係る普及啓発資料 参考資料－ 1 1
9. 知床国立公園・知床世界自然遺産に係る年表 参考資料－ 1 2
10. 拠点施設の概要 参考資料－ 1 3

平成 20 年度 知床世界自然遺産関係の主な動き（10 大ニュース）

知床の保全状況の最終的な評価がなされる

平成 20 年 7 月 2 日（水）～10 日（木）に、ケベック市（カナダ）にて開催された第 32 回世界遺産委員会において知床世界自然遺産に関する審査が行われ、ユネスコ世界遺産センター及び国際自然保護連合（IUCN）による現地調査（平成 20 年 2 月）の報告書に基づく決議が採択された。決議では、世界遺産一覧表記載時の勧告に我が国が効果的に対応していることを賞賛するとともに、ユネスコ世界遺産センター及び IUCN による現地調査（平成 20 年 2 月）の報告書の内容のうち 9 項目について重点的に取り組むよう要請し、その実施状況についての報告を平成 24 年 2 月 1 日までに世界遺産センターに提出するよう求めている。

今後も、高く評価された管理の枠組のもとでの取組を継続・推進し、今回の勧告も踏まえ、知床世界自然遺産地域の適切な保全管理に努めていく。

- 国際自然保護連合（IUCN）が作成した現地調査（平成 20 年 2 月 19 日～22 日）の報告書「知床世界自然遺産地域の保全状況に関する調査報告書」がユネスコ世界遺産センターから送付される（平成 20 年 5 月）。
- 現地調査の報告書に対するコメントをユネスコ世界遺産センターに提出（平成 20 年 6 月 9 日）。
- カナダのケベックで開催された第 32 回世界遺産委員会（平成 20 年 7 月 2 日～10 日）において、知床の保全状況の最終的な評価がなされる。

「知床世界自然遺産地域管理計画」の検討

環境省、林野庁、文化庁及び北海道は、知床の保全状況に関するユネスコと国際自然保護連合からの決議内容等を踏まえ、有識者からなる知床世界自然遺産地域科学委員会の助言を得つつ、現行の「知床世界自然遺産候補地管理計画」を全体にわたって見直し、「知床世界自然遺産地域管理計画」を作成している。この計画は、関係行政機関や関係団体が緊密な連携を図り、知床世界自然遺産地域を適正かつ円滑に管理することを目的として、各種制度の運用及び各種事業の推進等に関する基本的な方針を明らかにするものである。

今後、パブリックコメント、地元説明会、科学委員会及び地域連絡会議の最終確認を経て、平成 21 年 6～7 月に正式決定される予定である。

モニタリング項目の検討

知床世界自然遺産地域の世界自然遺産としての価値を維持していくためには、科学的な知見に基づき順応的に管理していく必要がある。そのためには、知床遺産地域及びそこに影響を及ぼすおそれのある周辺地域において、社会環境を含む生態系のモニタリングを実施し、その結果を総合的に評価することで、各種管理計画の見直しや各種活動の改善を行い、それらの実行に関して関係者が密接に連携協力することで、順応的かつ統合的な管理を実施していくことが求められる。

知床世界自然遺産地域科学委員会を中心に、自然環境への望ましくない変化の兆候をできるだけ早くつかみ、また、劣化した自然の回復状況を把握することができるよう、知床世界自然遺産地域の自然環境に影響を与える可能性がある、あるいは逆に自然環境の変化を反映するような社会環境も含めたモニタリング項目を選定し、実施していくことを目指している。

知床ボランティア活動施設オープン



世界自然遺産に登録された豊かな生態系を有する知床半島において、国民の森林づくりに対する気運や地球温暖化防止対策等に対する意識を高めていくため、知床の森林をフィールドとし、個人、企業、団体等の多様な主体の参加による森林づくり活動・森林環境教育活動を推進するための取組を実施している。この取り組みの一環として、平成20年5月9日、斜里町ウトロ地区に「知床ボランティア活動施設」をオープンした。

「知床ボランティア活動施設」は、知床世界自然遺産を楽しみに訪れる多くの方々に立ち寄っていただける知床の森林の情報発信の場、また森林ボランティア活動等に関する研修や意見交換、森林づくり活動を行う団体の活動拠点となる施設である。

<場 所> 北海道斜里郡斜里町ウトロ東（国設知床野営場内）

<開館時間> 9:00～17:00（7、8月は9:00～19:00） 水曜日および年末年始は休館

<http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/shiretoko/index.htm>（知床森林センターホームページ）

知床連山における携帯トイレの普及活動の実施

知床半島中央部の羅臼岳は、身近に世界自然遺産を感じることができる場所として、年間約1万人の登山客が訪れているが、往復約10時間の登山道には登山口にしかトイレがなく、野営地周辺などでは登山者のし尿による悪臭や水場の汚染などが問題となっている。このため、知床国立公園利用適正化検討会議では、平成20年度から、関係機関の連携・協力のもと、登山者の携帯トイレ利用促進の取り組みに着手することが決定された。

平成20年7月～10月中旬にかけて、環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町の5機関が連携して、携帯トイレの現地販売体制の整備、使用済み携帯トイレの回収・処理、携帯トイレ使用に向けた普及対策としてパンフレットやポスターの作成・配付、使用状況等に関する現地調査・アンケート調査、職員巡視の際の普及活動の取り組みを行った。

平成21年度にも同様の取組を進めるとともに、携帯トイレ使用のためのブースの設置について検討を進める予定である。



普及啓発用ポスター

知床岬にてセイヨウオオマルハナバチが発見される

セイヨウオオマルハナバチは、ヨーロッパ原産のマルハナバチで、主にハウストマトの授粉を助ける昆虫として輸入された。近年、ハウスから逃げ出したセイヨウオオマルハナバチが野生化し、その分布を急激に広げている。

セイヨウオオマルハナバチは繁殖力が強く、在来マルハナバチのエサや巣場所を奪い、その結果、在来マルハナバチは個体数を減らしている。また、在来マルハナバチは種類によって受粉を手助けする花が決まっており、在来マルハナバチの減少は花にとっても影響を与える。

北海道においても、野生化したセイヨウオオマルハナバチが各地で分布を広げている。知床半島においてもセイヨウオオマルハナバチの生息が確認されていたが、平成 20 年 9 月には、知床岬付近でも 2 頭のオス蜂が発見・捕獲された。知床半島基部では営巣も確認されており、今後、半島全体に分布が広がる可能性がある。

※セイヨウオオマルハナバチは、平成 18 年（2006 年）9 月 1 日に、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）に基づく特定外来生物に指定されている。

知床世界自然遺産地域科学委員会地元報告会を開催

知床世界自然遺産地域科学委員会での議論を地域住民に知ってもらうことを目的に、科学委員会の地元報告会として『「科学の目を見た世界自然遺産・知床」～科学委員と語ろう！その現状と未来～』を平成 20 年 11 月 18 日（火）に斜里町立知床博物館で、平成 20 年 11 月 19 日（水）羅臼町公民館で開催した。報告会では、桜井 泰憲北海道大学大学院教授、中村太士北海道大学大学院教授、梶 光一東京農工大学大学院教授の 3 名から、それぞれ、海域ワーキンググループでの議論、河川工作物ワーキンググループでの議論、エゾシカエゾシカワーキンググループでの議論を紹介いただいた。斜里町会場では、約 80 名、羅臼町会場では約 70 名の参加があり、科学委員会やワーキンググループでの議論について様々な質疑応答がなされた。アンケート結果によると、参加者の多くが、報告会の継続を希望していることが分かった。

平成 21 年度も、科学委員会の委員による報告会を開催していく予定である。

「知床半島中央部地区利用の心得」の策定

知床国立公園知床半島中央部地区は、原始性の高い自然景観と多様な野生生物によって形成される豊かな生態系を有する地域である。知床五湖、知床連山、羅臼湖等を含むこの地域は、知床国立公園の中心的な地区として、これまで多くの利用者の方々により親しまれてきたが、一部の利用拠点において過剰利用・集中利用による自然環境への悪影響が顕在化しつつある。

そのような状況を踏まえ、人類共通の財産である「知床」の持続的な保全を図り、より良い形で後世に引き継いでいくために、平成 21 年 1 月、『3 つの柱と 10 の約束』からなる「知床半島中央部地区利用の心得」を定めた。この「利用の心得」は、「知床半島中央部地区利用適正化基本計画(平成 17 年度策定)」に基づき、知床国立公園知床半島中央部地区の利用に当たって、特に必要性が高い留意事項・禁止事項についてとりまとめたものである。



普及啓発用ポスター

知床五湖の利用のあり方協議会の立ち上げと高架木道の延長工事の開始

知床五湖では、春から夏を中心にヒグマが頻繁に出没することにより、閉鎖されることが多く、安定した利用が困難になっている。また、夏から秋は、混雑がひどく、歩道周辺の植物の踏みつけによる荒廃など自然環境への影響が懸念されるだけでなく、自然体験の質の低下が懸念されている。

これらの問題を解決するため、環境省、北海道、斜里町では、地域の関係者の意見も踏まえ、知床五湖地上歩道の利用のあり方を検討してきた結果、ヒグマの出没状況、植生の状況、利用者数を勘案し、電気柵を備えた高架木道を延長するとともに、利用期間を①ヒグマ活動期、②植生保護期、③自由利用期の3つの期間に区分し、①、②の期間について、平成22年度から利用の調整を実施することが必要と判断された。

これらの状況を踏まえ、環境省、北海道、斜里町の3行政機関、同地区の公園管理団体、観光事業者、ガイド事業者、住民団体等、同地区の関係者が、円滑な実施協力に向けた合意形成を図るために、具体的な利用調整の計画等を検討する「知床五湖の利用のあり方協議会」を設置し、協議を行っている。

平成21年1月より、利用調整の期間中も一般利用者が自由に利用できる高架木道の延長工事が開始され、平成20年度には約280mが延長され、平成21年4月に供用が開始された。平成21年度中にさらに約300mが延長される予定である。

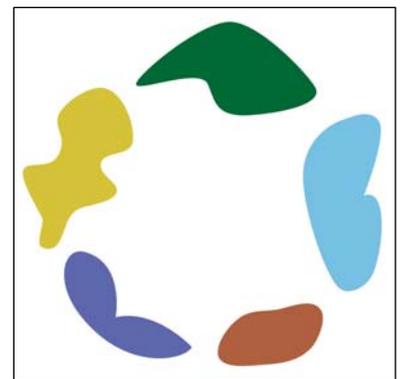
ヒグマ活動時に、認定ガイドが同行するグループのみが地上歩道を利用できる制度は、平成22年度から実施される予定である。

知床世界遺産シンボルマークの公募・選定

知床世界自然遺産地域連絡会議では、世界に誇る価値を有する知床世界自然遺産について、シンボルマークの公募・選定を通じて広く国民の皆様に関心を持っていただくとともに、地元団体や関係機関が一丸となって行う遺産地域の保安全管理をより一層進めていくことを国内外にアピールしていくため、「知床世界自然遺産」のシンボルマークを定めることとし、平成21年1月16日から3月16日までの間、広く公募を行った。

全国から595点の応募作品が集まり、これらの作品に対して、3月27日に、地域連絡会議構成員、専門家からなる知床世界自然遺産シンボルマーク審査委員会による厳正な審査が行われ、シンボルマークとして最優秀作品が選ばれたほか、受賞作品が決定された。

シンボルマークは、地域連絡会議を構成する行政機関（環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町）の整備する各種関連施設において掲示するとともに、各主体が、パンフレット等の印刷物、ホームページ等において活用する。また、民間団体による利用についても推進していく予定である。



知床世界自然遺産シンボルマーク

I 知床の自然環境

1. 地形・地質

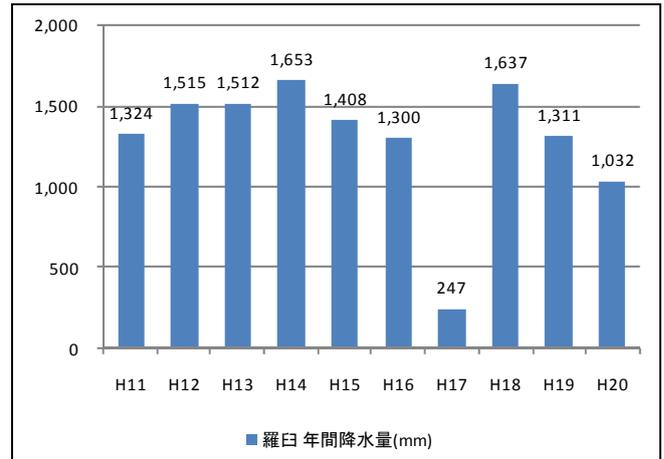
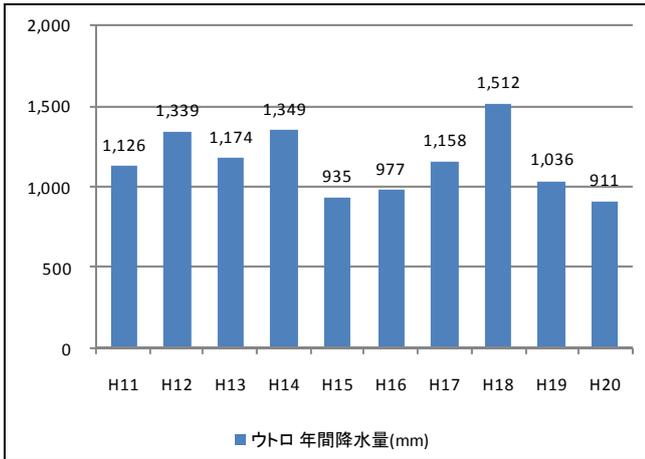
遺産地域が位置する知床半島はオホーツク海の南端に突出した、長さ約 70 km、基部の幅が 25 km の狭長な半島であり、西側がオホーツク海、東側が根室海峡となっている。知床半島の東側には、国後島が半島に平行する形で間近に横たわっている。半島の中央部を最高峰の羅臼岳（標高 1,660 m）をはじめとする標高 1,500m を超える山々が連なっており、一部に海岸段丘が見られるほかは稜線から海岸まで平地がほとんど見られない急峻な半島である。半島はプレート運動や火山活動、海食など多様な地形形成作用により造られ、奇岩や海食崖、火山地形等の多様な景観が形成されている。現在も活動中の火山のうち、知床硫黄山（標高 1,562m）は昭和 11 年（1936 年）に約 20 万トンの溶融硫黄を 8 ヶ月間にわたって噴出し、国際的に注目された火山である。

2. 気候

遺産地域の気候は、知床半島がオホーツク海に突き出していることから海洋の影響を強く受け、道東の中で最も積雪量の多い地域の一つとなっている。また、知床連山の存在は半島の東西の気候に影響を及ぼし、気温や降水量に大きな地域差が生じている。東側の羅臼側は、夏期には湿気を含んだ海からの南東風が知床連山に当たるため、雨が多く、海霧により低温になる。冬期には海洋性気候の影響により比較的降雪が多く、気温も斜里側と比較すると高い。一方、西側の斜里側は、夏期には知床連山の北でフェーン現象により高温地域になり、降水量が少ない。冬期には北西季節風の影響に加えて、流氷による太陽光線の反射や海水からの熱放出遮断効果により気温が低下する。

(1) 降水量

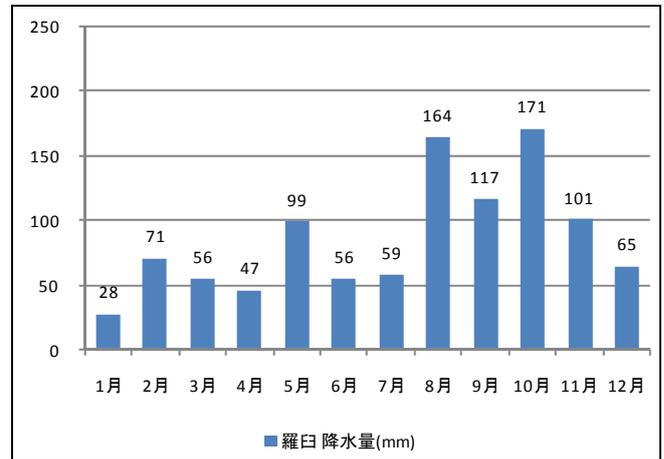
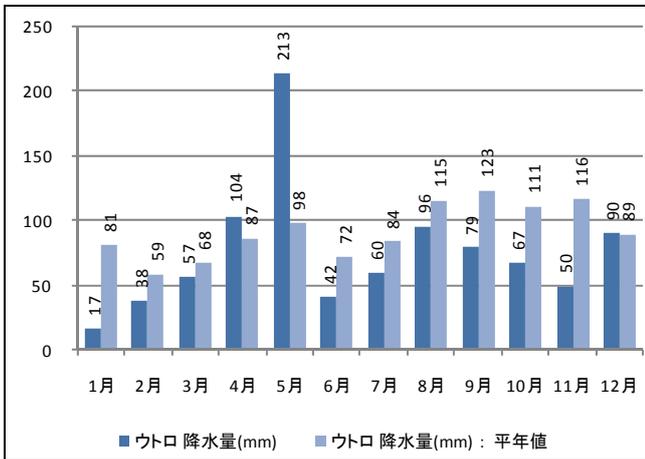
1) 年間降水量



資料：気象庁ホームページ気象統計情報（アメダス宇登呂、アメダス羅臼）

※平成 17 年の羅臼の値は資料不足値

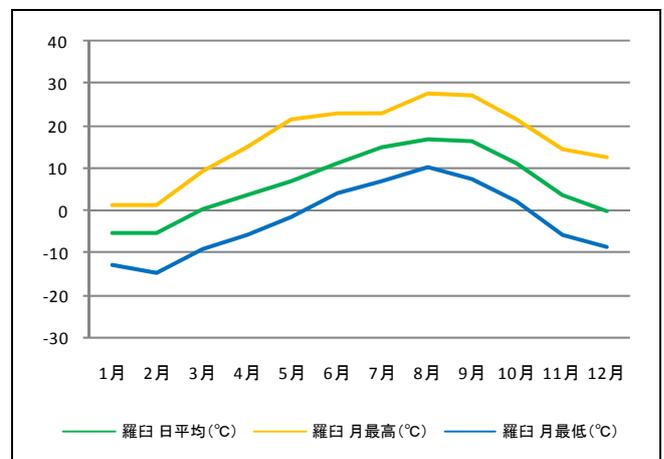
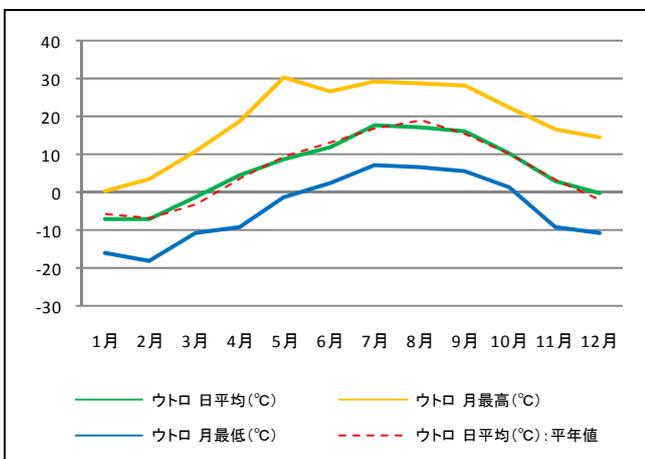
2) 月別降水量



資料：気象庁ホームページ気象統計情報（平成 20 年：アメダス宇登呂、アメダス羅臼）

※羅臼の平年値は統計なし

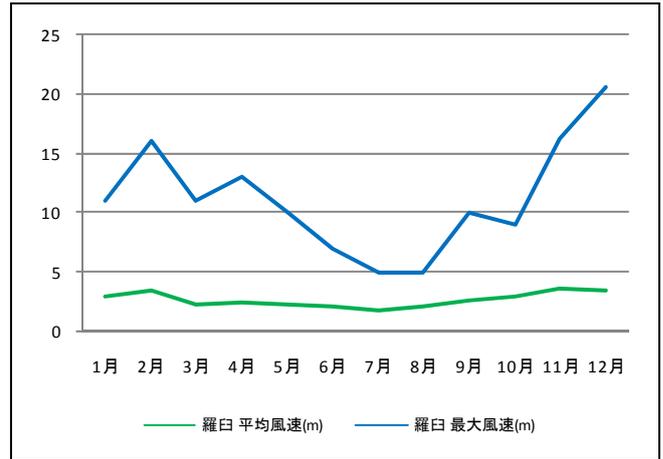
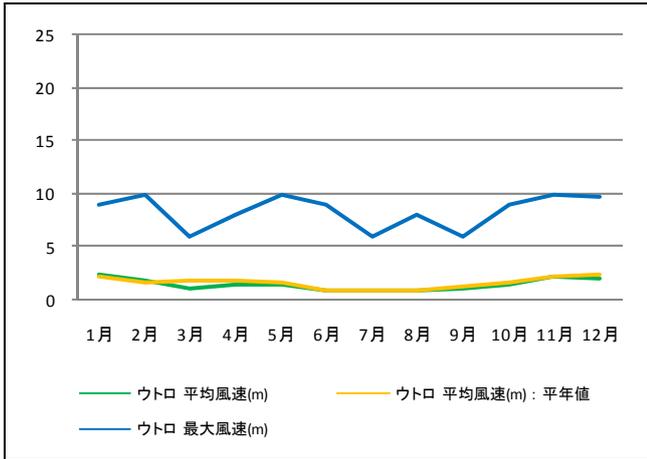
(2) 気温



資料：気象庁ホームページ気象統計情報（平成 20 年：アメダス宇登呂、アメダス羅臼）

※羅臼の平年値は統計なし

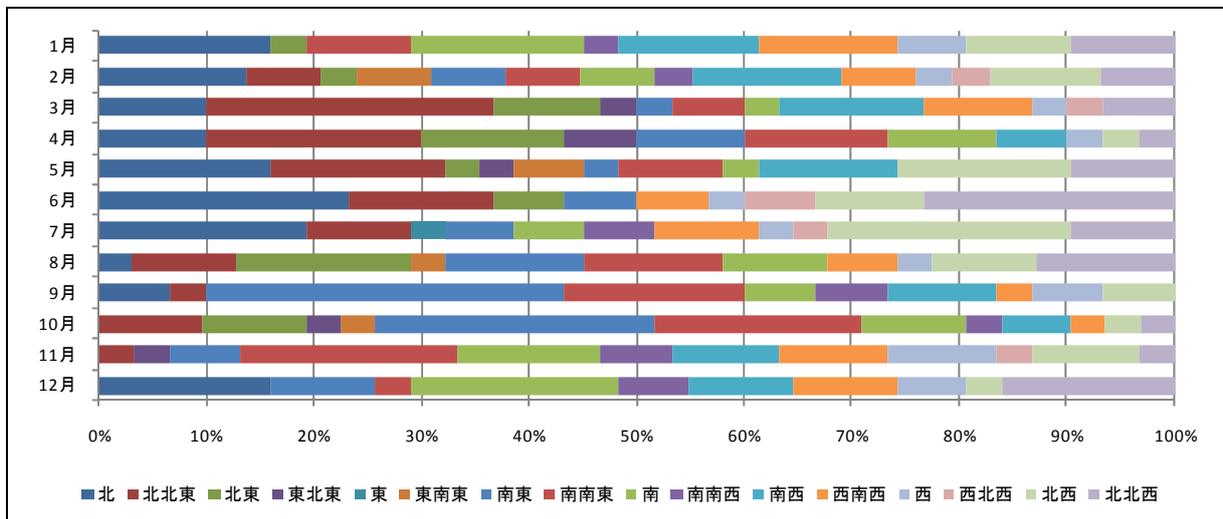
(3) 風速



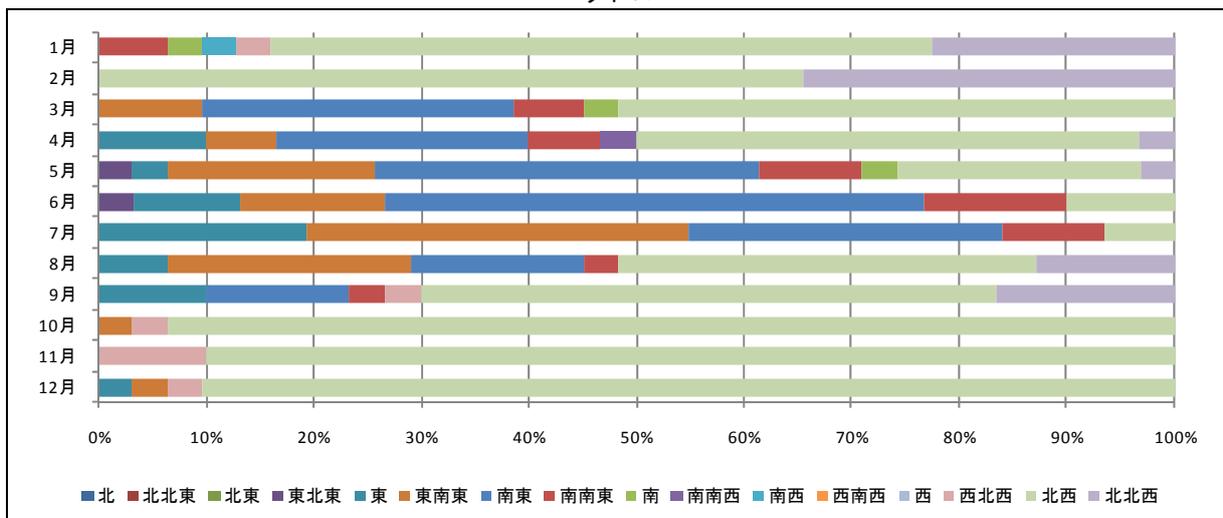
資料：気象庁ホームページ気象統計情報（平成 20 年：アメダス宇登呂、アメダス羅臼）

※羅臼の平年値は統計なし

(4) 風向



ウトロ

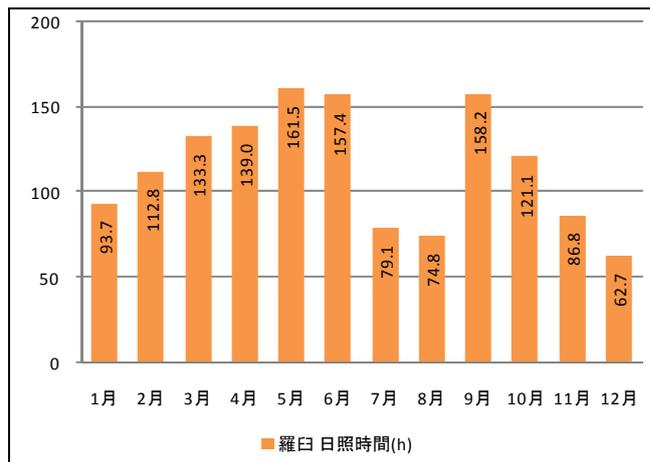
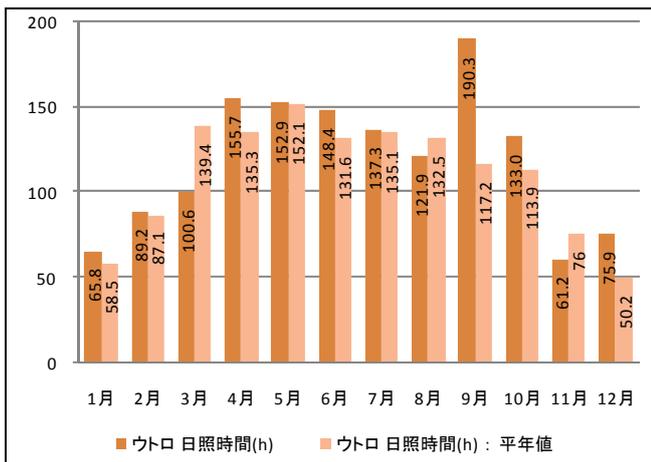


羅臼

資料：気象庁ホームページ気象統計情報（平成 20 年：アメダス宇登呂、アメダス羅臼）

※1 日の最多風向の出現頻度の月別比率を算出したもの

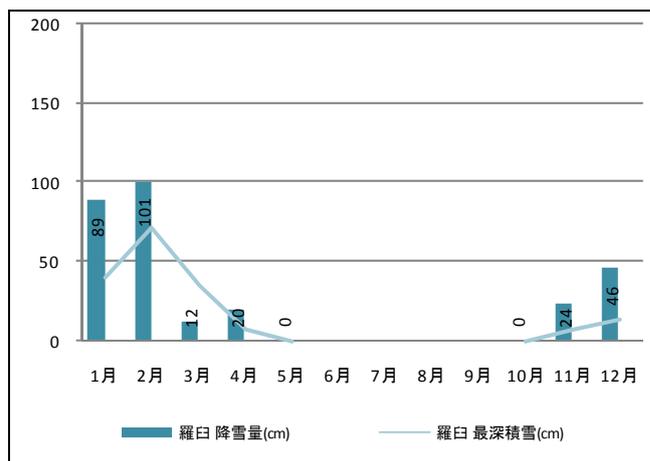
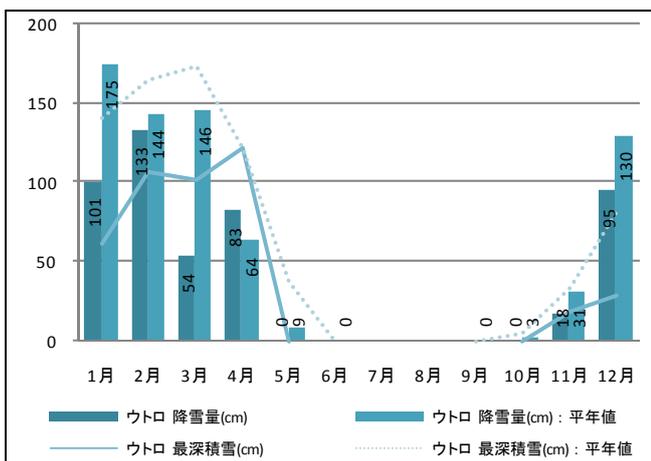
(5) 日照時間



資料：気象庁ホームページ気象統計情報（平成20年：アメダス宇登呂、アメダス羅臼）

※羅臼の平年値は統計なし

(6) 雪



資料：気象庁ホームページ気象統計情報（平成20年：アメダス宇登呂、アメダス羅臼）

※羅臼の平年値は統計なし

3. 海氷

オホーツク海は、地形的・地理的条件により流氷ができる海洋として北半球で最も低緯度に位置する季節海氷域である。これは、オホーツク海が表層と中層以深の塩分濃度が著しく異なる二重の海洋構造を形成していること、周囲を陸で囲まれ、外海との海水の交換が極めて少ないこと、シベリアの寒気が吹き抜けるため海水が効率的に冷却されること、という特異な条件がそろうためである。

北部オホーツク海で流氷ができるとき、低温で高塩分の中層水が生産されており、この栄養塩の豊かな中層水の一部が知床半島周辺海域へも広がっていく。また、遺産地域及び周辺地域はオホーツク海で形成された流氷が接岸する最南端の地であり、流氷下にはアイス・アルジーが増殖し、流氷が溶けるとその後の鉛直混合によって栄養塩の豊富な中層水が表層に運ばれることで植物プランクトンの大增殖が生じ、それを餌とする動物プランクトン、さらに高次消費者である魚類や海棲哺乳類、陸上の生物にまでつながる食物網が形成される。

	12月	1月	2月	3月	4月
H20~H21			●		
H19~H20				●	
H18~H19			●		
H17~H18			●		

図 流氷の観測状況（斜里前浜）

	12月	1月	2月	3月	4月
H20~H21			●		
H19~H20				●	
H18~H19			●		
H17~H18			●		

図 流氷の観測状況（斜里ウトロ）

	12月	1月	2月	3月	4月
H20~H21					
H19~H20					
H18~H19					
H17~H18					

図 流氷の観測状況（羅臼）

● 流氷接岸初日

※気象庁の定義に従って、知床博物館（斜里前浜）、知床自然センター（斜里ウトロ）、羅臼海上保安署（羅臼）が観測したデータによる（流氷を観測する気象庁の施設がないため情報は公式な海氷情報に基づいていない）。

表 流水の観測状況

観測年	観測項目	斜里前浜	斜里ウトロ	羅臼
H20～H21	流水初日	1月21日	1月20日	
	流水接岸初日	1月26日	1月26日	
	流水終日	3月9日	3月11日	
H19～H20	流水初日	1月20日	1月12日	
	流水接岸初日	2月10日	2月9日	
	流水終日	3月24日	3月24日	
H18～H19	流水初日	1月25日	1月19日	2月25日
	流水接岸初日	1月25日	1月24日	
	流水終日	2月28日	3月12日	2月26日
H17～H18	流水初日	1月28日	1月28日	1月30日
	流水接岸初日	2月3日	1月30日	
	流水終日	3月31日	3月31日	2月26日
H16～H17	流水初日	2月1日	2月1日	2月8日
	流水接岸初日	2月7日	2月2日	
	流水終日	3月15日	4月？日	4月5日
H15～H16	流水初日	1月9日	1月8日	2月9日
	流水接岸初日	1月25日	1月12日	
	流水終日	4月28日		4月1日
H14～H15	流水初日	前年12月27日	前年12月25日	1月21日
	流水接岸初日	1月29日	前年12月29日	
	流水終日			4月27日
H13～H14	流水初日	1月6日	1月6日	1月18日
	流水接岸初日	1月8日	1月11日	
	流水終日			3月24日
H12～H13	流水初日	1月27日	1月27日	1月18日
	流水接岸初日	1月27日	1月27日	
	流水終日			4月17日
H11～H12	流水初日	1月16日	1月8日	2月5日
	流水接岸初日	2月9日	1月15日	
	流水終日		4月28日	3月28日
H10～H11	流水初日	1月23日	1月20日	1月24日
	流水接岸初日	1月25日	1月26日	
	流水終日		3月30日	4月30日

流水初日	視界外の海域から漂流してきた流水が視界内の海面に初めて現れた日。
流水接岸初日	流水が接岸、または定着氷と接着して沿岸水路がなくなり、船舶が航行できなくなった最初の日。
流水終日	視界内の海面で流水が見られた最後の日。(注)流水の動向をしばらく見る必要があるため、確定までに日数がかかる。

4. 植生

遺産地域の植生の大半は、現在でも原生的な状態が維持されている。海岸から山頂までの標高差は約 1,600m にすぎないが、比較的低い標高域から高山帯の植生であるハイマツ低木林や高山植物群落が発達し、多様な植生が垂直的に分布している。海岸には、断崖とその周辺の土壌未発達地を中心に高山帯・寒帯から亜高山帯・亜寒帯の植物が主体となる群落が成立する。低標高地の森林はミズナラやイタヤカエデ等からなる冷温帯性落葉広葉樹林、トドマツやアカエゾマツ等からなる亜寒帯性常緑針葉樹林とこれらが混生した針広混交林がモザイク的に併存する。亜高山帯では一般的な植生分布とは異なり常緑針葉樹林の発達が悪く、ダケカンバやミヤマハンノキ主体の落葉広葉樹林が広がっている。森林限界を越えると、ハイマツ低木林が非常に広く発達し、その中に風衝地、雪田、及び湿原群落が局在している。高山植生は比較的低い標高範囲にあるにもかかわらず多様な植物群落から構成され、美しく見事な景観を形成している。

また植物相は北方系と南方系の植物が混在して豊かである。陸上の維管束植物としては、高山植物に北方系の種が多いことに加え、南方系の種も見られることから、多様な植物相が形成されている。知床半島の陸上の維管束植物相は 107 科 872 種からなり¹、そのうち 4 分の 1 を上回る 233 種が高山植物となっている。この中には、シレトコスミレ、チシマコハマギク、エゾモメンズル等の希少種を含む。知床半島沿岸海域は、オホーツク海唯一の暖流である宗谷海流の影響により、千島列島やサハリンにも分布域を持つ寒流系の海藻と北海道以南に分布域を持つ暖流系の海藻の両系が見られ、季節海水域でありながら、暖流系の海藻を多く含む点で特異な海藻相となっている。海藻は知床半島沿岸で 142 種の生育が確認されている²。この中には、分布域の狭い特産種のアツバスジコンブ等も含まれている。

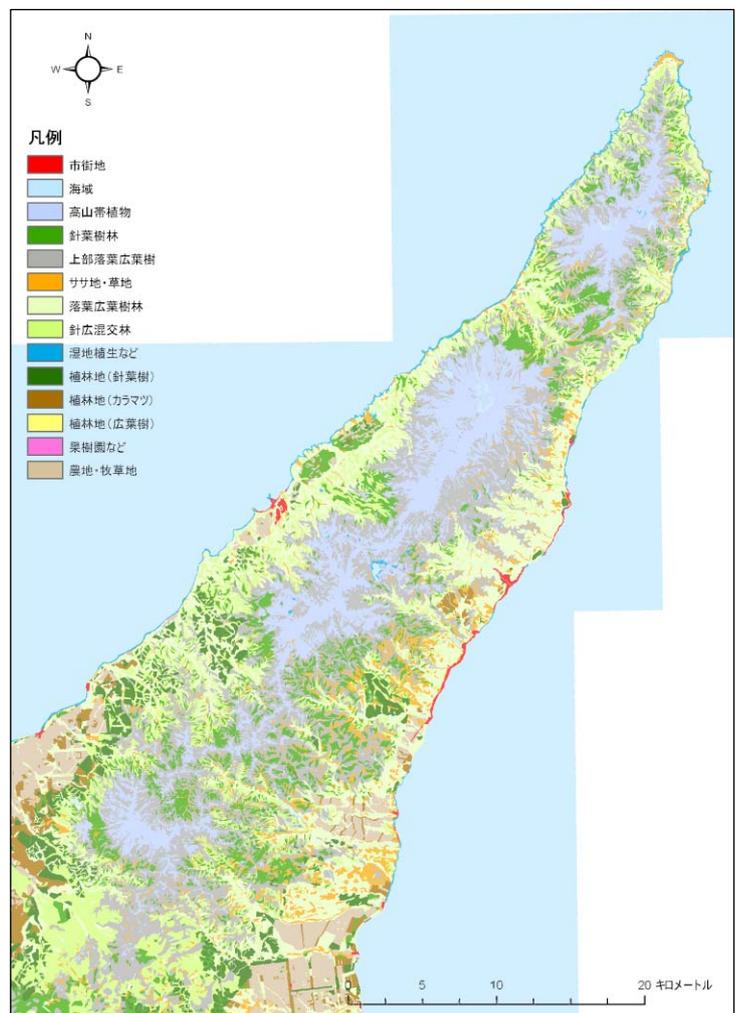


図 知床半島の植生

※知床アトラス（環境省）より転載

¹ 斜里町立知床博物館(2005)：データブック知床・2005

² 環境省(2008)：平成 20 年度知床半島沿岸における浅海域生物相調査業務報告書

5. 野生動物

遺産地域の動物相は、サハリンから渡ってきた北方由来の種と、本州から渡ってきた南方由来の種とが共存しているため、多様性に富んでいる。また、遺産地域は手つかずの原生的な自然が残されているため、かつて北海道に広く生息していた陸上哺乳類、鳥類のほとんどすべての種が生息している。

このうち、哺乳類は、陸上哺乳類 36 種、海棲哺乳類 22 種の生息が知床半島及びその沿岸海域で確認されている¹。これらの中にはトド、マッコウクジラといった国際的に希少な種も含まれる。また、ヒグマやエゾシカといった大型種が高密度で生息していることは、知床半島が陸上哺乳類にとって良好な生息環境となっていることを表している。特にヒグマは世界有数の高密度状態で維持されている。さらに、知床半島沿岸海域は海棲哺乳類にとって越冬、摂餌、繁殖のために重要な場所となっている。

鳥類は、国際的な希少種であるシマフクロウ、オオワシ等を含む 275 種が知床半島で記録されている²。また遺産地域内では、これまで学術上貴重な天然記念物に指定されているシマフクロウ、オジロワシ及びクマガラの繁殖やオオワシの越冬が確認されている。遺産地域は、シマフクロウにとっては道内で繁殖するつがいの約半数が生息している最も重要な繁殖地であり、オオワシにとっては越冬個体数が 1000 羽近くになる最も重要な越冬地である。

魚類は、淡水魚類 42 種、海水魚類 264 種が知床半島及び知床半島沿岸海域で確認されている³。知床半島沿岸海域は、北方系魚類を主とする海域であるが、オホーツク海で唯一の暖流である宗谷海流の影響により熱帯・亜熱帯海域に主に分布している南方系魚類が多く見られ、オホーツク海のなかでも特異な海域となっている。知床半島基部以外の大半の河川では、オショロコマ 1 種のみが周年、高密度に、広く分布し、北海道の多くのオショロコマ分布河川で同所的に分布している同属のアメマスが生息していないことが重要な特徴である。

この他、爬虫類 8 種、両生類 3 種、昆虫類 2,500 種以上の生息が知床半島で報告されている⁴。

¹ 斜里町立知床博物館(2005)：データブック知床・2005

² 斜里町立知床博物館(2005)：データブック知床・2005、深津恵太(2007)：知床半島におけるクサンギ *Tringa ochropus* の記録：知床博物館研究報告 28, 9-10.、森信也ほか(2007)：斜里地方に渡来したクロヅル：知床博物館研究報告 28, 11-12.、佐藤晴子ほか(2008)：知床・根室海峡におけるアホウドリ *Diomedea albatrus* の確実な初の連続目視記録：知床博物館研究報告 29, 11-15.、河野通治ほか(2008)：知床半島におけるサンショウクイ *Pericrocotus divaricatus divaricatus* の記録：知床博物館研究報告 29, 17-19.

³ 環境省(2008)：平成 20 年度知床半島沿岸における浅海域生物相調査業務報告書

⁴ 斜里町立知床博物館(2005)：データブック知床・2005

6. 景観

火山活動等により形成された急峻な知床連山、山麓を覆う原生的な森林、海食により形成された切り立つ海岸断崖、多様な湿原・湖沼群など様々な景観が凝縮されている。また、比較的低い標高範囲にある高山植生は多様な植物群落から構成され、美しく見事な景観を形成している。

これらの要因からなる景観は大きな四季の変化をみせ、その原生的な景観は優れた自然美を有している。

(1) 知床五湖

岩尾別の溶岩台地上のくぼみに生じた小湖沼で、周囲をトドマツ、ミズナラなどの自然性の高い森林に囲まれている。それぞれの湖からは異なる表情の知床連山を望むことができる。

(2) 岩尾別海岸

岩尾別の溶岩台地が海食されて生じた高さ 200m に及ぶ断崖が雄大な景観を形づくっている。地下水や川の水が海に直接流れ落ちる滝や特異な形をした岩がみられ、観光船による探勝が行われている。

(3) 知床峠

羅臼岳や根室海峡をへだてて国後島を望む好展望地となっている。

(4) 知床連山

稜線付近の雪田や風衝面では、湿性、乾性のお花畑が展開し、高山帯特有の景観がみられる。

(5) 羅臼湖

水面の面積が 40ha を超える知床国立公園中最大の湖沼である。湖岸にはミズゴケ、ワタスゲ、エゾカンゾウなどの湿原植物群落が発達し、広大な景観が展開している。

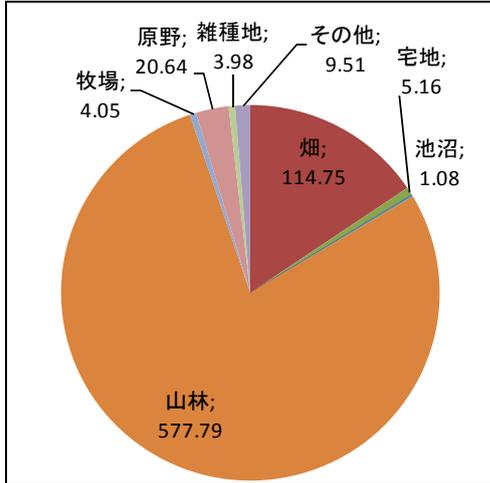
Ⅱ 知床を取り巻く社会環境

1. 土地利用・土地所有

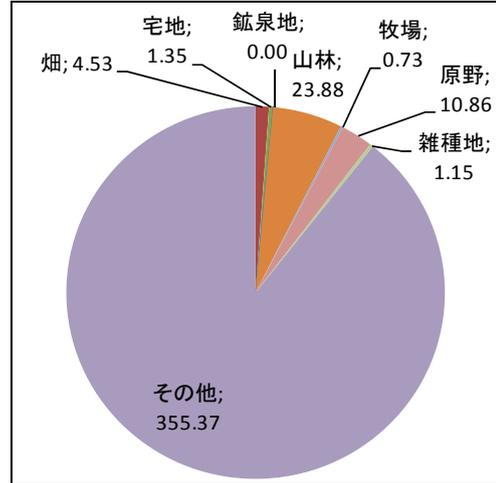
(1) 地目別面積

- 斜里町及び羅臼町全域でみると、斜里町では約 80%、羅臼町では約 90%が山林*である。

単位：km²



斜里町（総面積：737.00 km²）



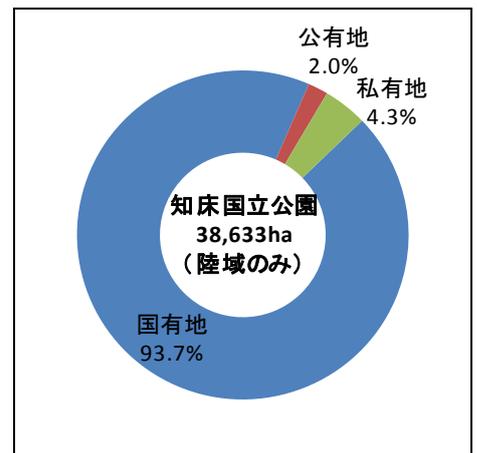
羅臼町（総面積：397.87 km²）

資料：平成 20 年北海道統計書

*羅臼町の「その他」の多くは国有林が該当する。

(2) 土地所有

- 世界自然遺産地域の土地所有形態は、林野庁所管の国有林が約 95%を占めており、残りはその他の国有地、北海道有地、斜里町及び羅臼町有地、私有地である。
- 今後、遺産地域内の土地所有形態別面積を把握し、右記グラフを差し替える。
- 町全域の国有地・公有地・私有地別の面積は、必要に応じて、平成 21 年度以降に詳細の情報収集・整理を行う。

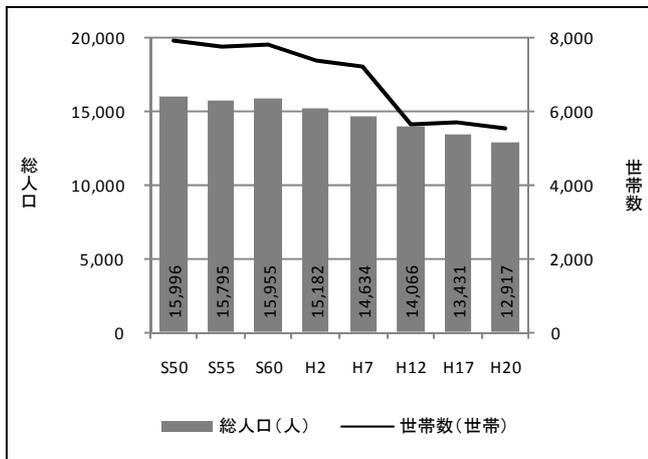


(参考) 知床国立公園の土地所有形態

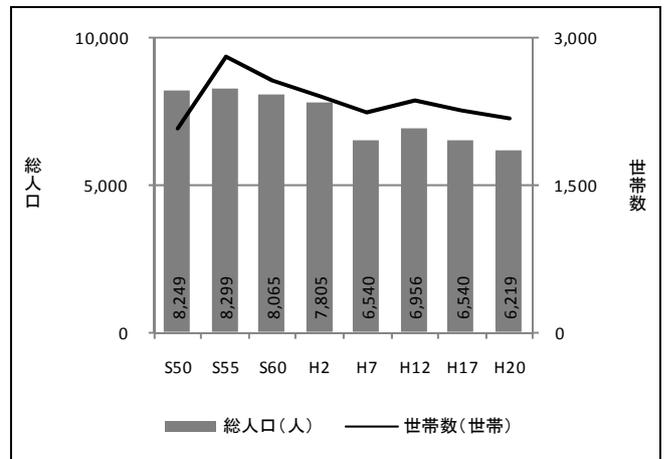
2. 人口

(1) 人口と世帯数の推移

- 斜里町、羅臼町とも、人口、世帯数は減少傾向にある。



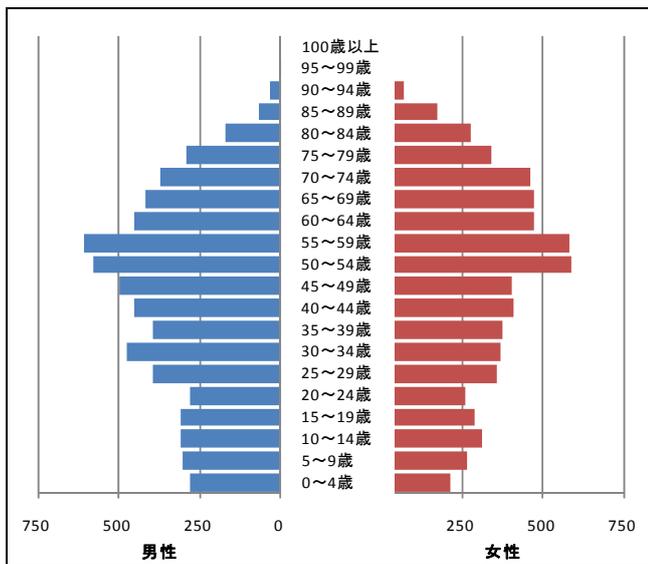
斜里町



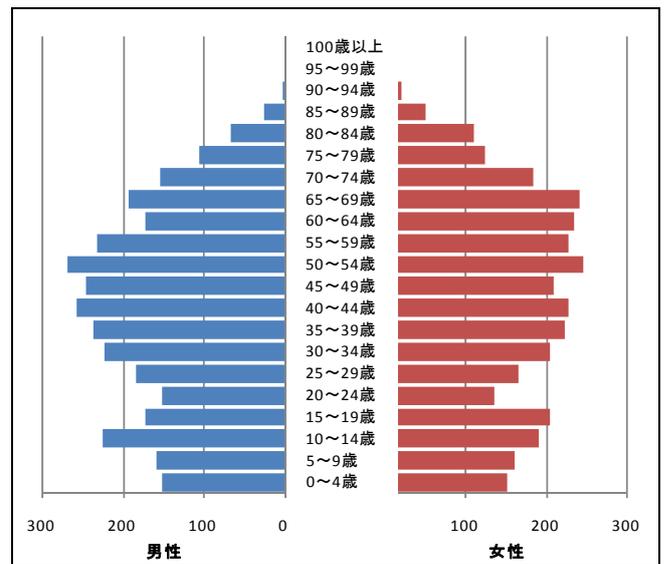
羅臼町

資料：国勢調査（平成20年以外：各年10月1日）、住民基本台帳（平成20年9月30日）

(2) 年齢別人口構成



斜里町



羅臼町

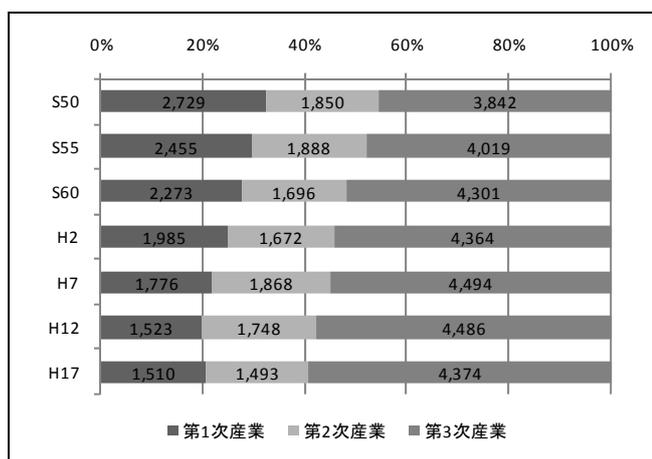
資料：第18回国勢調査（平成17年10月1日）

3. 産業

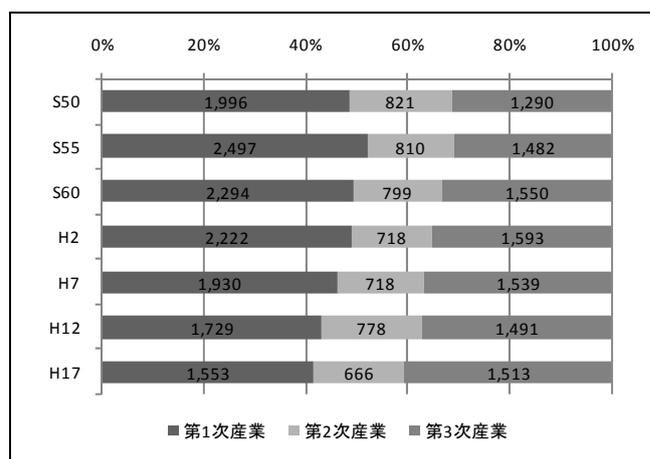
(1) 産業別就業者数

- 斜里町、羅臼町とも第1次産業就業者が減少し、第3次産業就業者の比率が増加している。
- 斜里町は、農業と漁業と観光業が基幹産業である。
- 羅臼町は、漁業就業者が就業者総数の約40%を占め、町の基幹産業となっている。

1) 産業別就業者数の推移



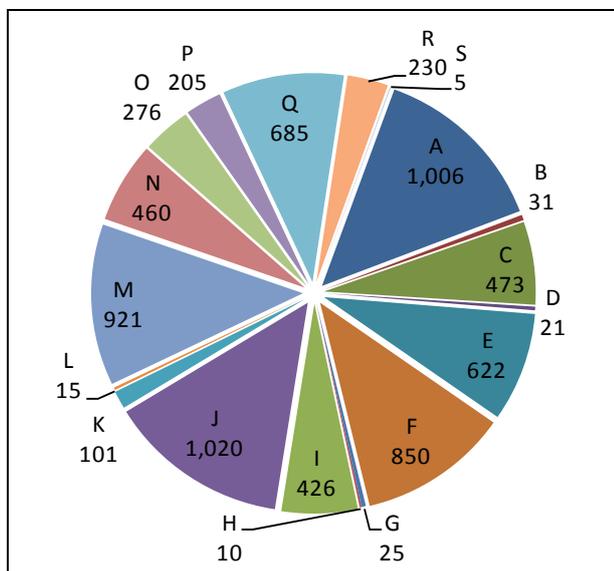
斜里町



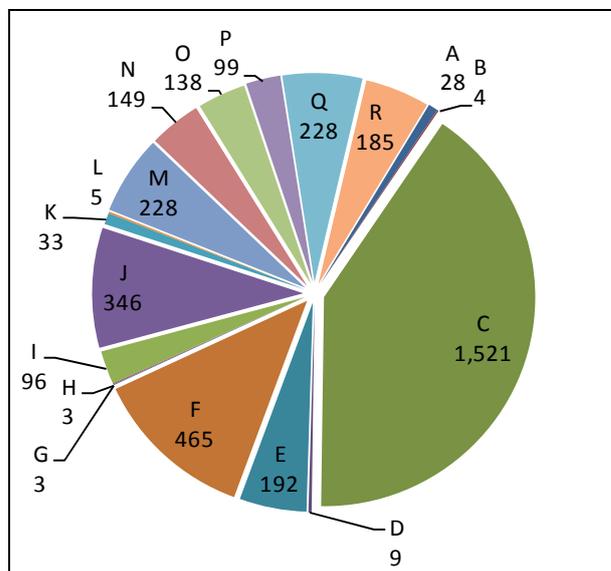
羅臼町

資料：国勢調査（各年10月1日）

2) 産業大分類別従業員数



斜里町



羅臼町

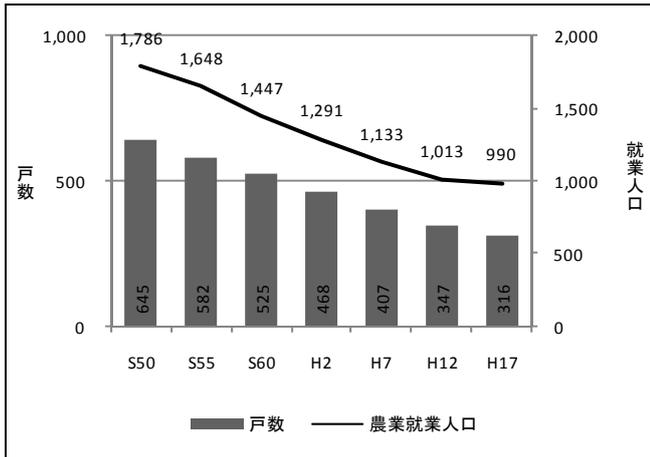
第1次産業	A 農業 B 林業 C 漁業
第2次産業	D 鉱業 E 建設業 F 製造業
第3次産業	G 電気・ガス・熱供給・水道業 H 情報通信業 I 運輸業 J 卸売小売業 K 金融・保険業 L 不動産業 M 飲食店、宿泊業 N 医療、福祉 O 教育、学習支援業 P 複合サービス業 Q サービス業(他に分類されないもの) R 公務(他に分類されないもの) S 分類不能の産業

資料：第18回国勢調査（平成17年10月1日）

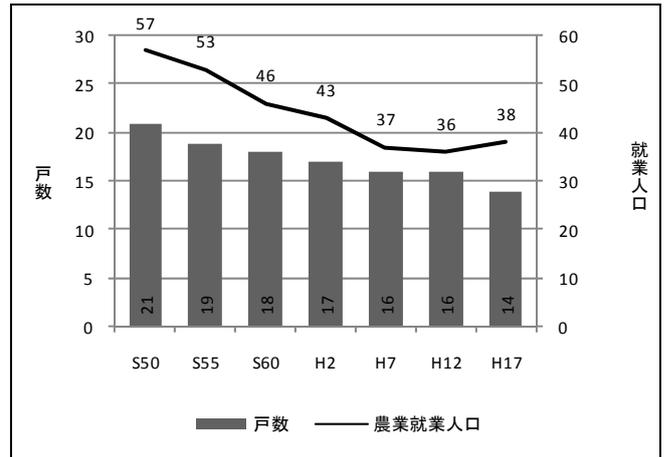
(2) 農業

- 斜里町では、半島基部の斜里地区や日の出地区で畑作が行われている。1戸当たりの経営規模が大きな畑作地帯で、機械化された生産性の高い農業が展開されている。専業農家によるてん菜・馬鈴しょ・麦類の栽培が中心である。
- 羅臼町は、田畑などでの農作物の栽培よりも、気候を生かした酪農が主である。農家戸数自体は少ない。

1) 農家戸数・農業就業人口



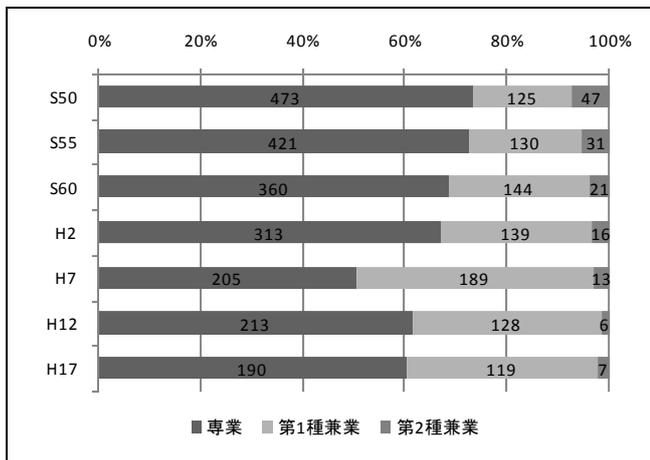
斜里町



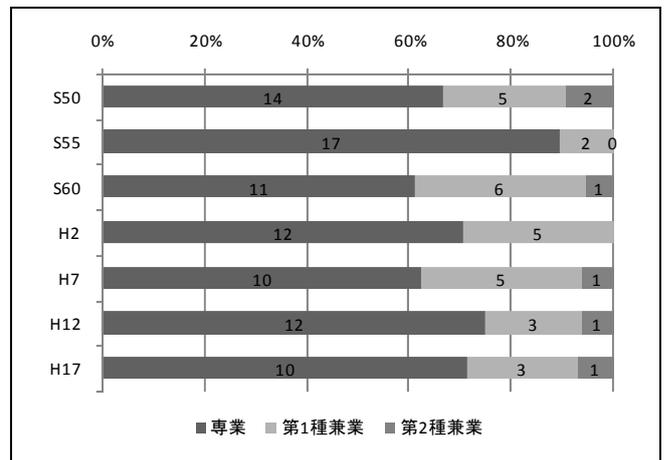
羅臼町

資料：農林業センサス（農林水産省：各年2月1日）

2) 専業・兼業別農家数



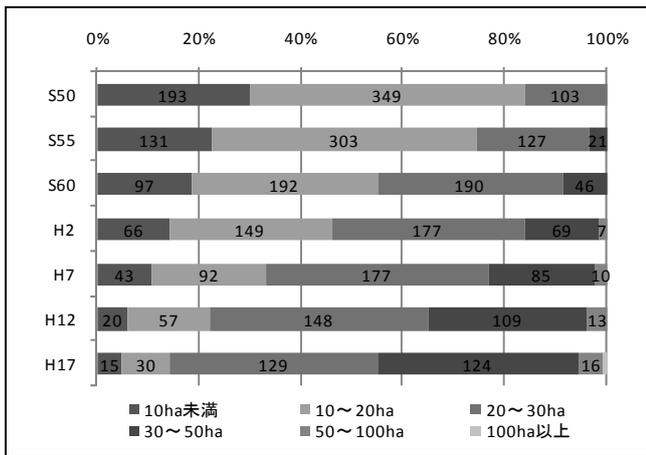
斜里町



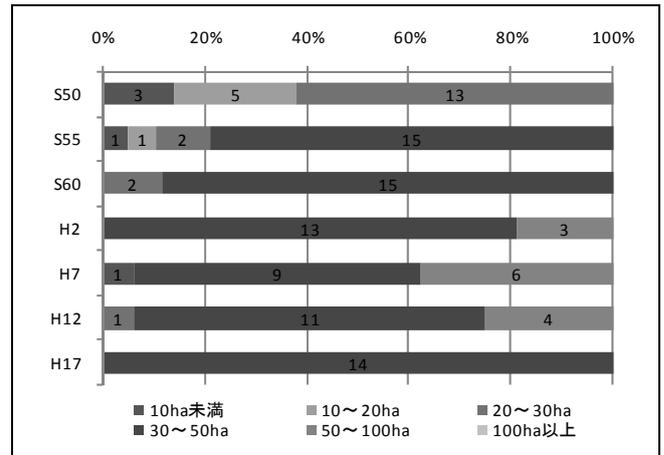
羅臼町

資料：農林業センサス（農林水産省：各年2月1日）

3) 規模別農家数



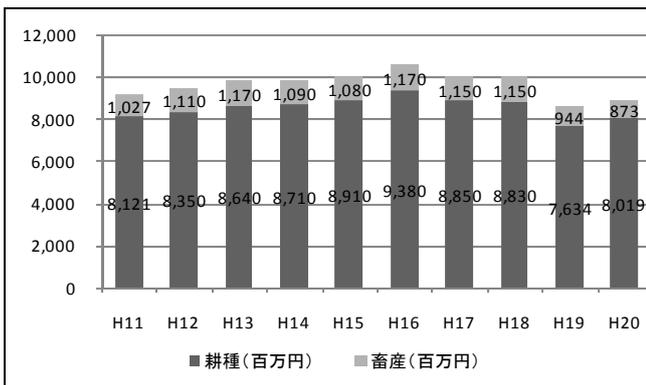
斜里町



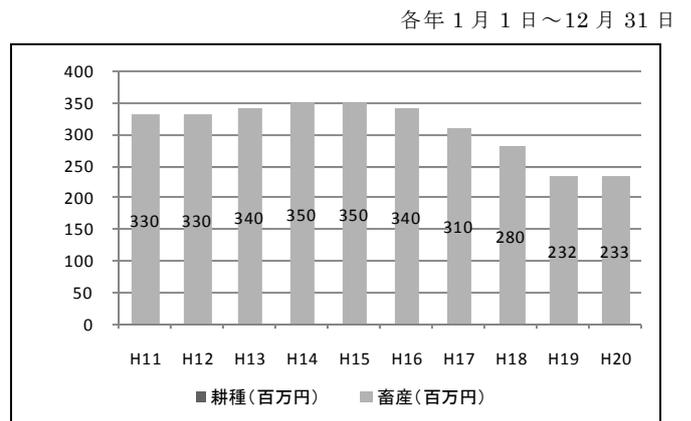
羅臼町

資料：農林業センサス（農林水産省：各年2月1日）

4) 農業産出額



斜里町



羅臼町

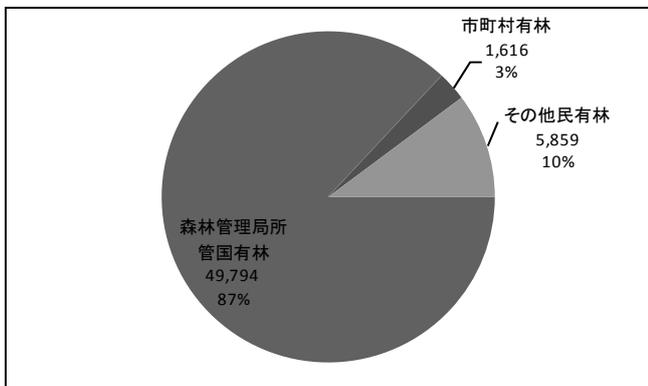
資料：生産農業所得統計（農林水産省：～平成18年）、斜里町分野別統計書（斜里兆：平成19年～）、標津農協提供資料（羅臼町：平成19年～）

(3) 森林・林業

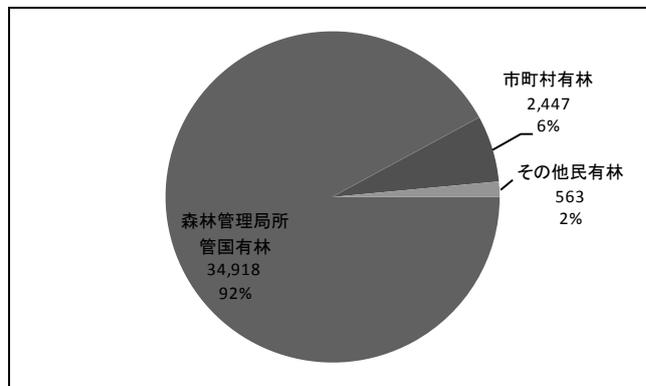
- 斜里町は土地面積の78%、羅臼町は土地面積の95%が森林である。
- 斜里町、羅臼町とも森林面積の約9割が国有林である。

1) 所有区分別林野面積

平成20年4月1日現在



斜里町（森林面積：57,269ha）



羅臼町（森林面積：37,928ha）

資料：平成19年度北海道林業統計（北海道水産林務部）

2) 森林伐採量

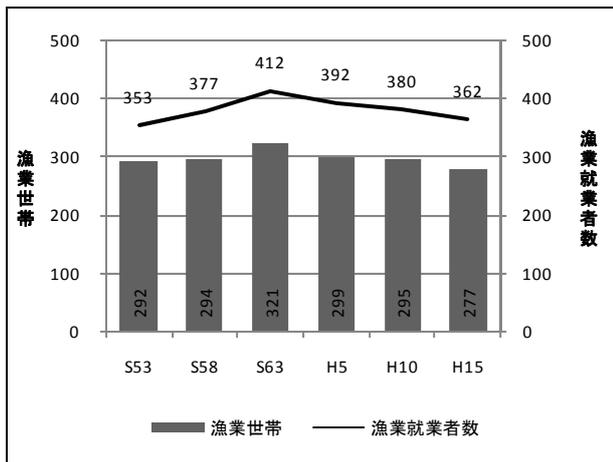
- 遺産地域の大半を占める国有林は、そのほとんどが知床森林生態系保護地域の指定地であり、現在、木材生産を目的とした森林施業は行われていない。
- なお、遺産地域周辺（民有林・国有林）では、健全な人工林の育成を目的とした間伐等の整備が行われている。

平成21年度以降に詳細の情報収集・整理を行う。

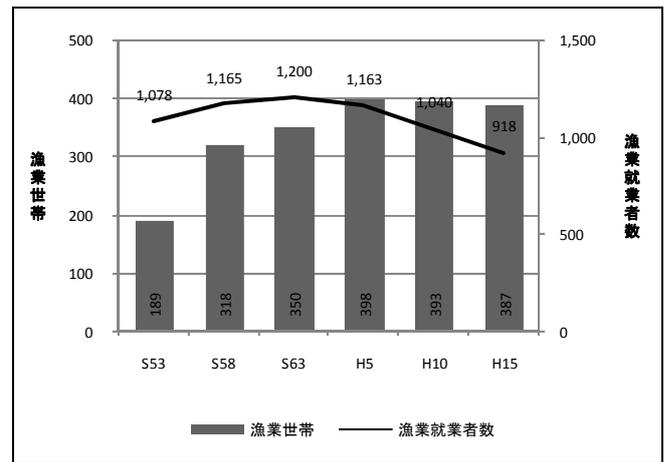
(4) 漁業

- 地域の主要な産業である。斜里町は、水産資源に恵まれたオホーツク海を漁場とし、サケ・マスの漁獲量は全国でトップレベルである。
- 生産力の高い豊かな海に支えられ、シロザケ、カラフトマス、スケトウダラ、コンブ等の水産資源の持続可能な利用が図られている。

1) 漁業世帯・漁業就業者



斜里町

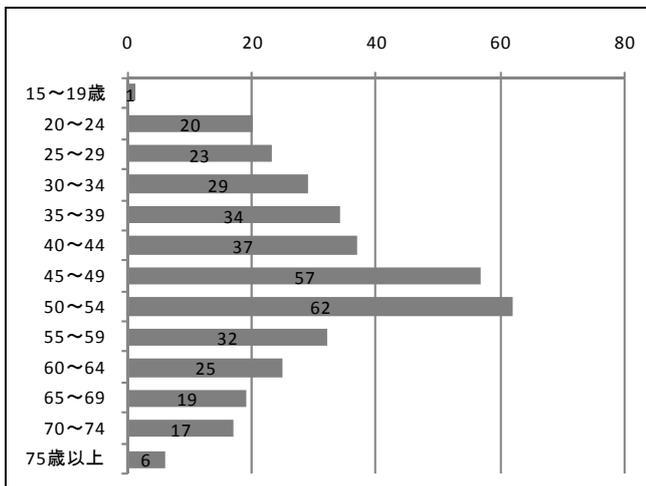


羅臼町

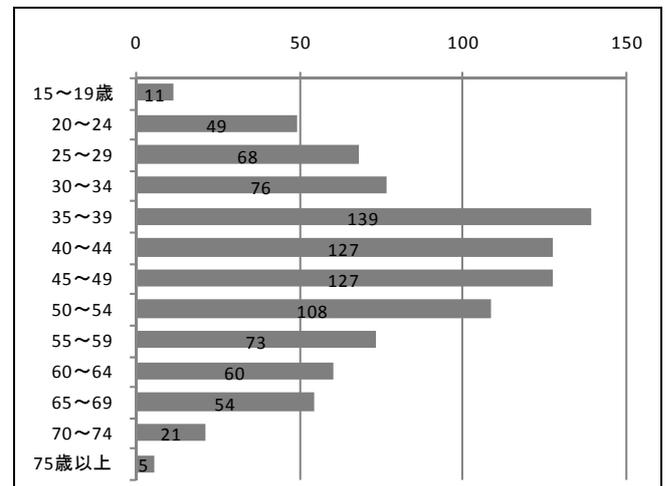
漁業世帯・漁業就業者数の推移

資料：漁業センサス（農林水産省：各年11月1日）

平成15年11月1日



斜里町

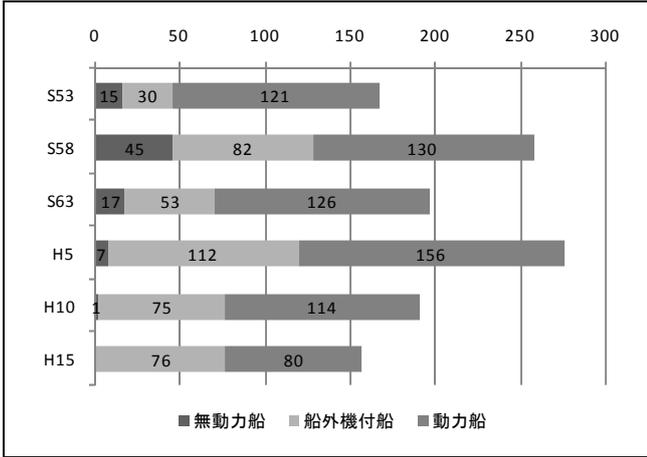


羅臼町

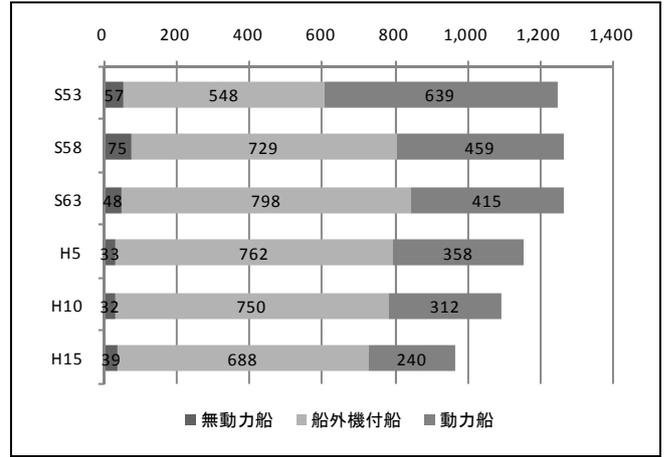
年齢別漁業就業者数

資料：第11次漁業センサス（農林水産省）

2) 漁船



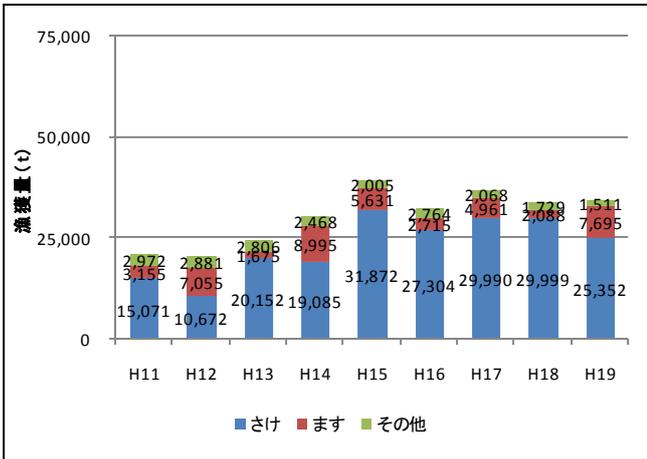
斜里町



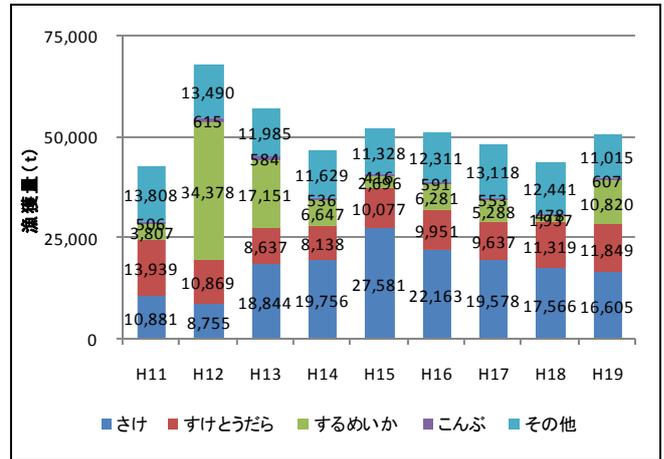
羅臼町

資料：漁業センサス（農林水産省：各年11月1日）

3) 漁獲量



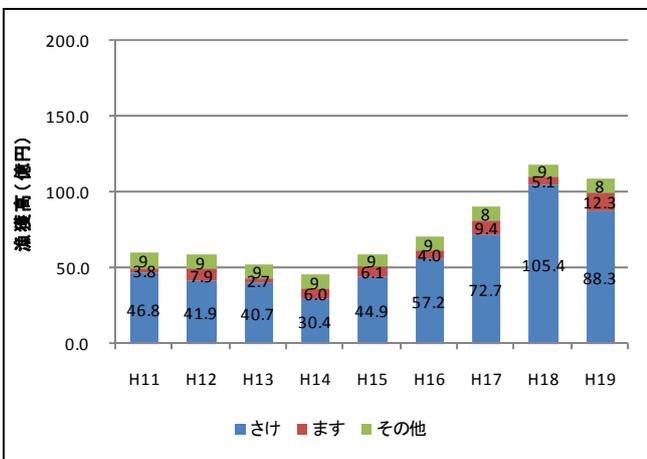
斜里町



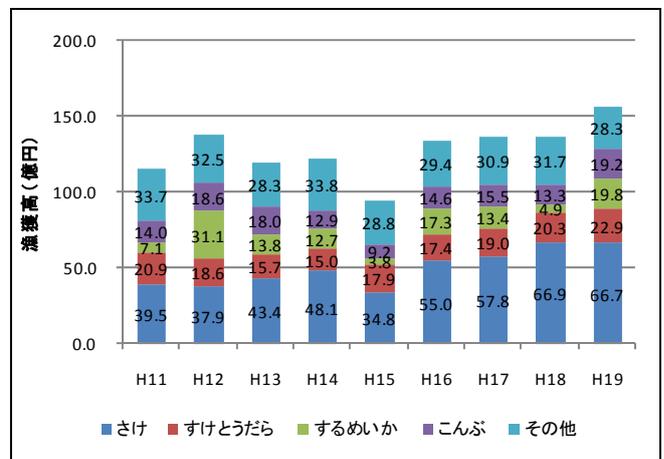
羅臼町

資料：北海道水産現勢（北海道水産林務部：各年1月1日～12月31日）

4) 漁獲高



斜里町

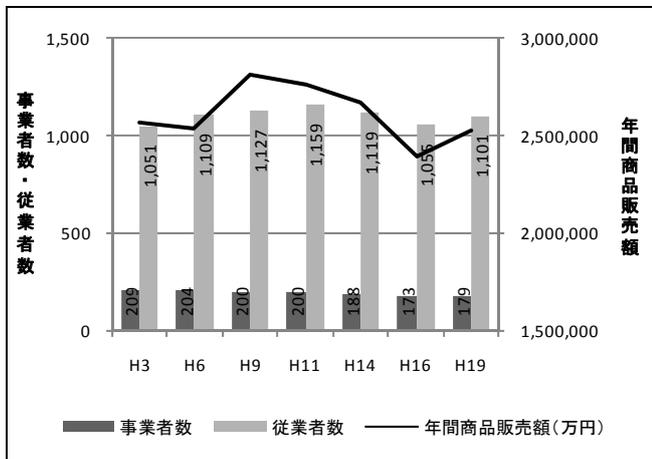


羅臼町

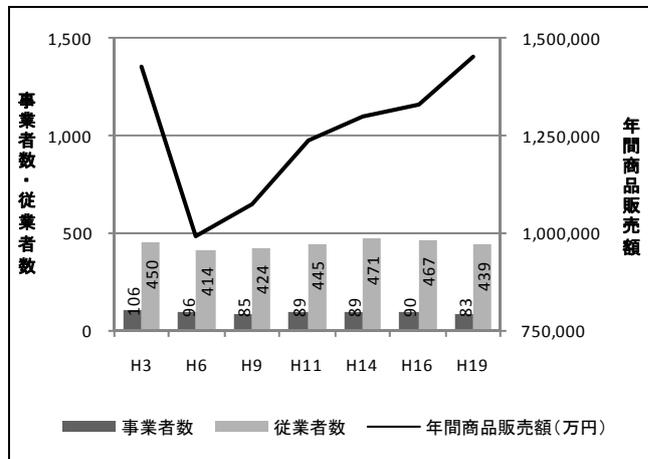
資料：北海道水産現勢（北海道水産林務部：各年1月1日～12月31日）

(5) 商業

- 事業者数及び従業者数は、両町ともほぼ横ばい。
- 年間商品販売額は、斜里町では平成 16 年まで、羅臼町では平成 8 年まで減少傾向。平成 16 年から平成 19 年にかけては両町とも増加傾向がみられる。



斜里町

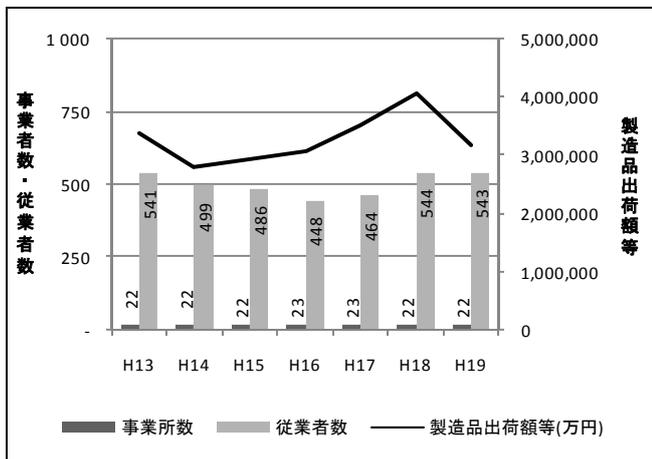


羅臼町

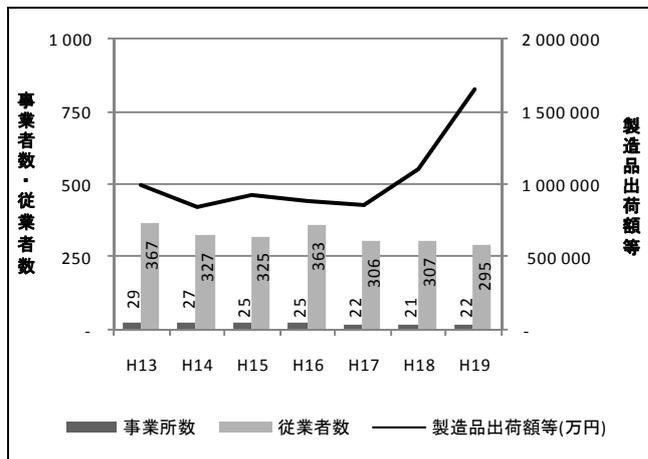
資料：商業統計調査（経済産業省：各年 6 月 1 日）

(6) 工業

- 斜里町では、製造品出荷額等が増加傾向にあったが、平成 19 年は減少に転じている。
- 羅臼町では、平成 17 年以降、製造品出荷額等が増加傾向にある。



斜里町



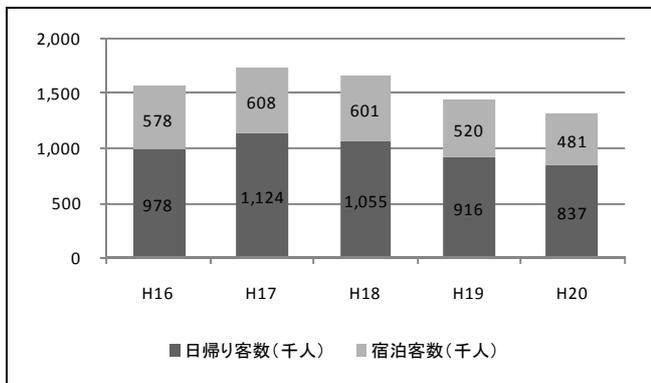
羅臼町

資料：工業統計調査（経済産業省：各年 12 月 31 日）

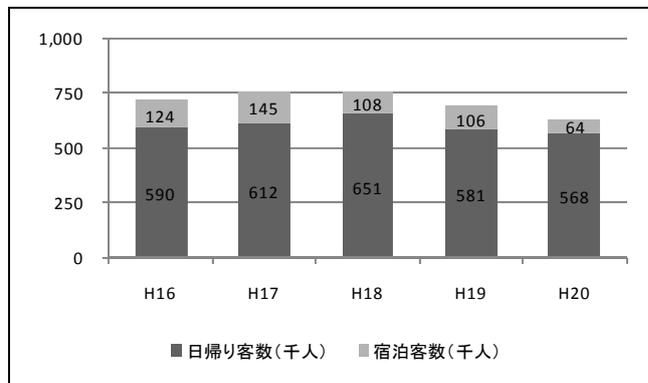
4. 観光

(1) 入込総数の推移

- 年間の観光入込総数は、知床が世界自然遺産に登録された直後の平成 17 年を境に、両町とも減少傾向にある。
- 平成 20 年は前年比 8%減で、世界遺産登録前を下回る入込数となった。



斜里町

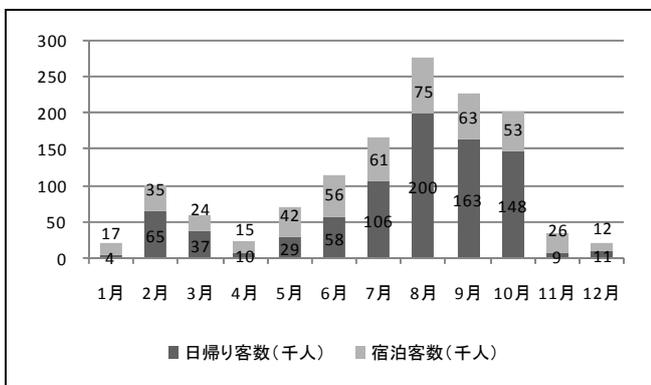


羅臼町

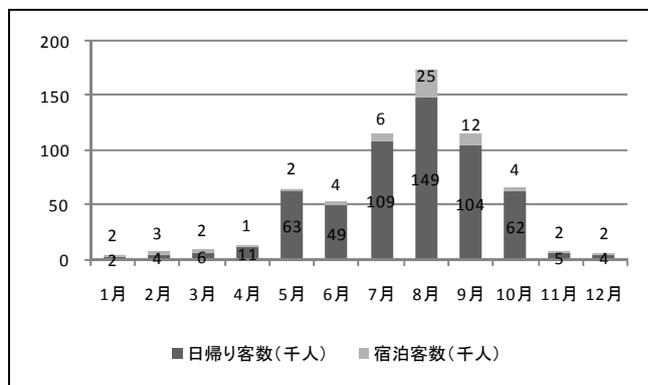
資料：斜里町観光統計資料、羅臼町観光統計資料

(2) 月別入込数

- 両町とも、夏季（6月）から秋季（10月）に入込のピークを迎える。
- 冬季の入込は両町とも少ないが、斜里町では、2月、3月にも入込が増加する。



斜里町 (平成 20 年)



羅臼町 (平成 20 年)

資料：斜里町観光統計資料、羅臼町観光統計資料

(3) 宿泊施設

平成 21 年 3 月 31 日

	ウトロ地区		斜里市街地区		羅臼	
	軒数	収容人数	軒数	収容人数	軒数	収容人数
ホテル旅館	12	5,332	10	662	7	438
民宿	7	226	4	66	15	343
ユース他	3	114	1	100	2	37
合計	22	5,672	15	828	24	818

5. 交通アクセス・交通量

(1) 交通アクセス

- 知床地域の主要アクセス道路は、斜里町市街からウトロ、知床峠を経て羅臼市街へ至る国道 334 号と標津町から羅臼市街へ至る国道 335 号である。さらに、国道 334 号から知床五湖、カムイワッカ方面へ延びる道道 93 号（知床公園線）、羅臼市街から相泊方面へ延びる道道 87 号知床公園羅臼線が地域の主要な動線となっている。
- ウトロ・羅臼間は知床峠を越える国道 334 号（知床横断道路）で 1 時間程度で結ばれているが、積雪や厳しい気象条件のため、冬季（11 月上旬から 4 月下旬）は通行止めとなり、半島の付け根に位置する根北峠（国道 244 号）を経由し 2 時間以上の行程となる。
- 知床五湖～カムイワッカ方面（道道 93 号）は、夏期、一般車は通行止めとなり、シャトルバスが運行される。
- 知床五湖～カムイワッカ方面（道道 93 号）は、落石防止工事のため平成 17 年～22 年まで一般車両は通行禁止となっている（シャトルバスは運行）。
- ウトロ方面へは女満別空港や JR 網走駅、知床斜里駅から、羅臼方面へは中標津空港から車やバスの利用が一般的なアクセス手段である。

(2) 交通量

- 観光客の“足”は自家用車やレンタカーに依存する傾向が強く、限られた駐車場収容台数により、繁忙期には渋滞が発生している。
- 車両規制が行われていない知床五湖については、毎年夏期を中心に、駐車場への入場待ちのマイカー渋滞が発生しており、計画的かつ十分な公園利用ができないなどの影響、利用者の集中による利用環境の悪化や原生的な雰囲気喪失などの影響が生じている。

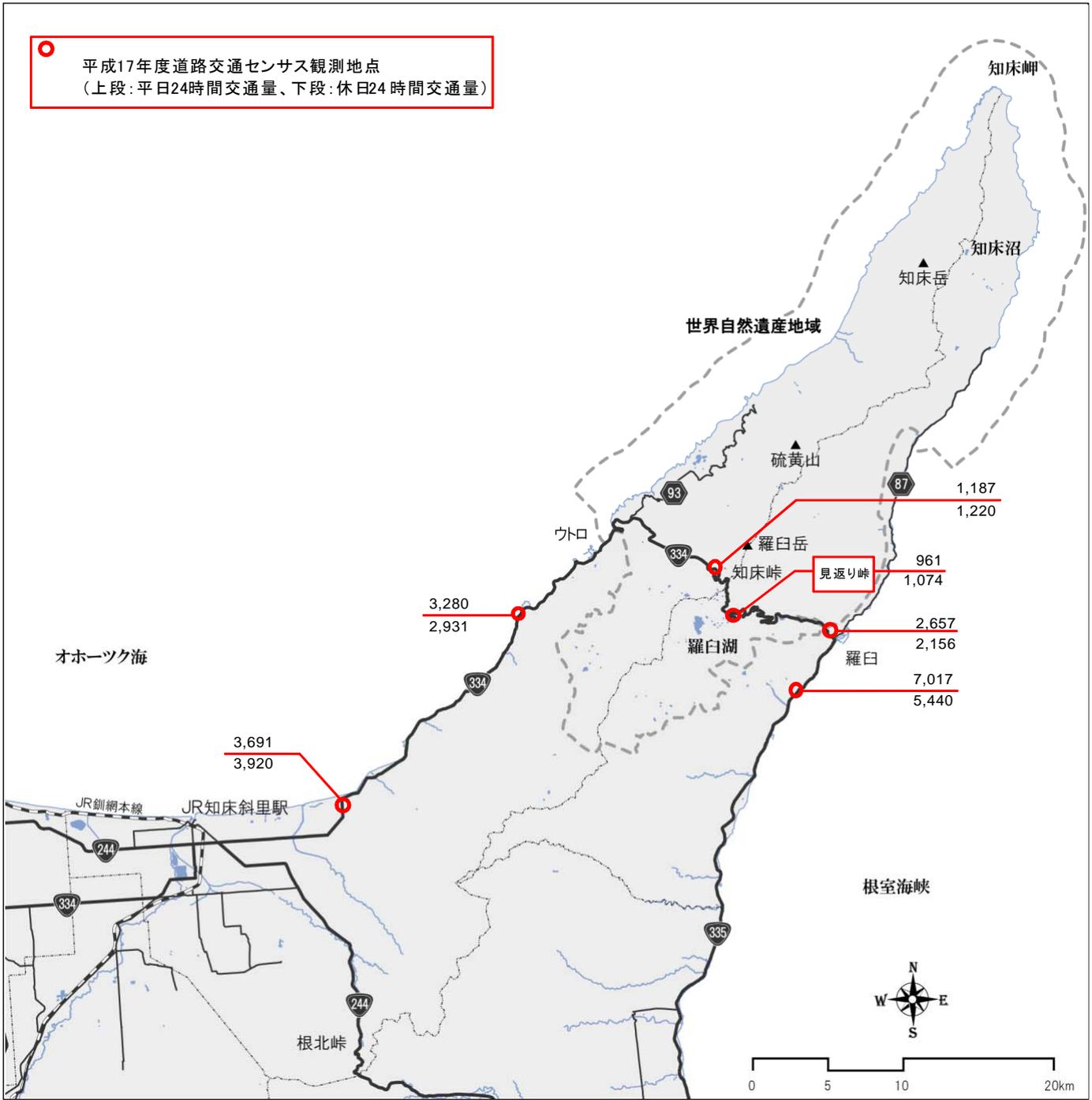
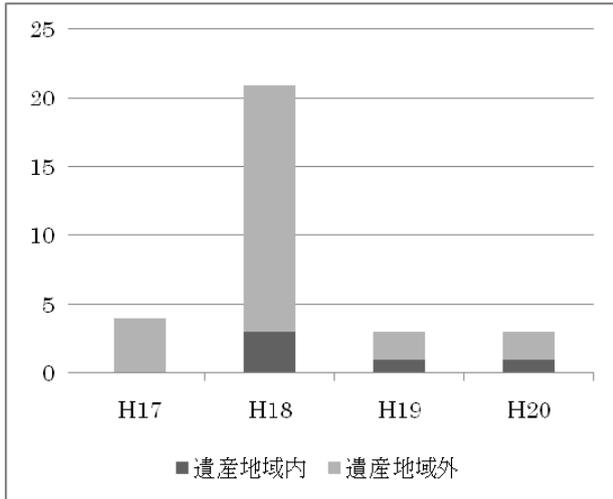


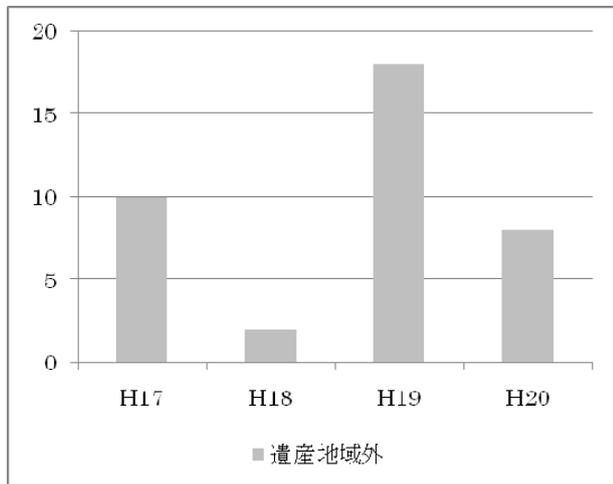
図 知床地域の交通アクセス・交通量

資料：網走開発建設部・釧路開発建設部提供資料

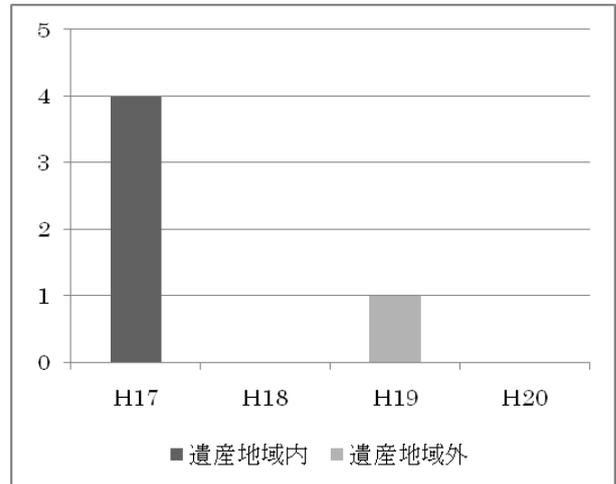
(3) 野生動物と交通



斜里側：国道 334 号（金山橋～知床峠）



羅臼側：国道 335 号（羅臼市街～標津町境界）



羅臼側：国道 334 号（知床峠～羅臼市街）、

※国道の道路維持作業で路上の動物事故による死体処理を行った記録によるもの。エゾシカが該当。

資料：網走開発建設部及び釧路開発建設部提供資料

6. 保護地域

- 遺産地域は、原生自然環境保全地域、国立公園、森林生態系保護地域及び国指定鳥獣保護区として保護が図られている。



知床世界自然遺産地域



知床国立公園、遠音別岳原生自然環境保全地域



国指定知床鳥獣保護区



知床森林生態系保護地域

※知床アトラス（環境省）より転載

表 保護地域の状況

保護地域	面積(ha)	備考	関連法令	所管官庁	指定年
知床世界自然遺産地域	約71,000	うち海域面積:約22,400ha	世界遺産 条約	環境省 林野庁 文化庁 北海道	平成17年 (2004年)
A地域	約34,000				
B地域	約37,000				
知床国立公園	60,986	陸域面積:38,633ha 海域面積:22,353ha(普通地域)	自然公園法	環境省	昭和39年 (1964年)
特別保護地区	23,526				
第1種特別地域	3,822				
第2種特別地域	3,249				
第3種特別地域	8,036				
普通地域	22,353	国立公園区域内の陸域海岸汀線より3km以内の海面			
遠音別岳原生自然環境保全地域	1,895		自然環境 保全法	環境省	昭和55年 (1980年)
国指定知床鳥獣保護区	68,839		鳥獣の保護 及び狩猟の 適正化に 関する法律	環境省	昭和57年 (1982年)
特別保護地区	23,630				
特別保護指定区域	1,156				
鳥獣保護区	44,053				
知床森林生態系保護地域	46,004	網走南部森林管理署1233~1381林班の一部、根釧東部森林管理署206~275林班の一部	国有林野 経営規定	林野庁	平成2年 (1990年)
保存地区	31,915				
保全利用地区	14,089				

7. 人文歴史

知床半島には、数千年にさかのぼる先史時代の遺跡が数多く残されている。その中でも 10 世紀前後にオホーツク海沿岸で栄えた北方の漁猟民族によるオホーツク文化の影響を受けて、アイヌの人々は、シマフクロウやヒグマ、シャチ等を神と崇め、狩猟や漁労、植物採取等をしながら、豊かな自然を大切に文化を育んだ。

半島部における漁業は 19 世紀から漁場運営が始まった。特に羅臼側では、1880 年代からタラ漁を中心に本格的な漁業開拓が始まり、現在のサケマス、イカ、スケトウダラ、コンブなどの多様な漁業の発展につながった。斜里側では、戦前までは少数の小規模な定置網漁業が営まれていたが、戦後、引揚者らによる漁場開拓が急速に進み、サケマス定置網漁業が大きく発展した。

斜里側では大正時代から農業開拓が数度試みられたが、自然環境・社会環境の厳しい条件が重なり、昭和 41 年（1966 年）までに開拓者はすべてその土地を離れた。これと相前後して、自然保護の動きが強まり、昭和 39 年（1964 年）に知床国立公園に指定されたのをはじめとして、遠音別岳原生自然環境保全地域、知床森林生態系保護地域、国指定知床鳥獣保護区の指定など数々の保護地域制度が適用された。昭和 52 年（1977 年）には農業開拓跡地を乱開発から守り森林に復元することを目的として、住民と自治体が主体となった「しれとこ 100 平方メートル運動」がスタートした。平成 17 年（2005 年）7 月に世界遺産に登録された。

(1) 指定文化財

表 知床地域の指定文化財

位置	文化財種類	名称	指定年月日
地域を定めず	国指定特別天然記念物	タンチョウ	S27.3.29
	国指定天然記念物	オジロワシ	S45.1.23
		オオワシ	S45.1.23
		エゾシマフクロウ	S46.5.19
		クマガラ	S40.5.12
		ヒシクイ	S46.6.28
		マガン	S46.6.28
		カラフトリシジミ	S42.5.2
斜里町	国登録有形文化財/建造物	旧国鉄根北線越川橋梁	H10.7.23
	北海道指定史跡	斜里朱円周堤墓及び出土遺物	S32.1.29
		朱円竪穴住居跡群	S42.6.22
	北海道指定天然記念物	斜里海岸の草原群落	S25.8.28
		オシュンコシュン粗粒玄武岩柱状節理	S48.3.14
	斜里町指定有形文化財/建造物	旧斜里神社拝殿	S51.11.8
	斜里町指定有形文化財/美術工芸品	絵馬	S51.11.8
		歌枕額	S51.11.8
		津軽藩士死没者の供養碑	S57.7.1
		津軽藩士死没者の供養碑	S57.7.1
		斜里神社石灯籠	H15.3.26
		津軽藩士死没者の過去帳	S57.7.1
	斜里町指定史跡	津軽藩士墓所	S62.7.1
津軽藩士シャリ陣屋跡		S62.7.1	
シャリ運上屋(会所)跡		S62.7.1	
羅臼町	北海道指定天然記念物	羅臼のひかりごけ	S38.12.24
		羅臼の間歇泉	S43.3.19
	羅臼町指定無形民俗文化財	知床いぶき樽	H3.10.1
	羅臼町指定史跡	旧植別神社跡	S48.5.1
		久右衛門の潤跡	S48.5.1

(2) 発掘調査

- 平成20年度は、斜里町内において9箇所の発掘調査が実施された。羅臼町内では発掘調査は行われていない。

表 発掘調査の状況（平成20年度）

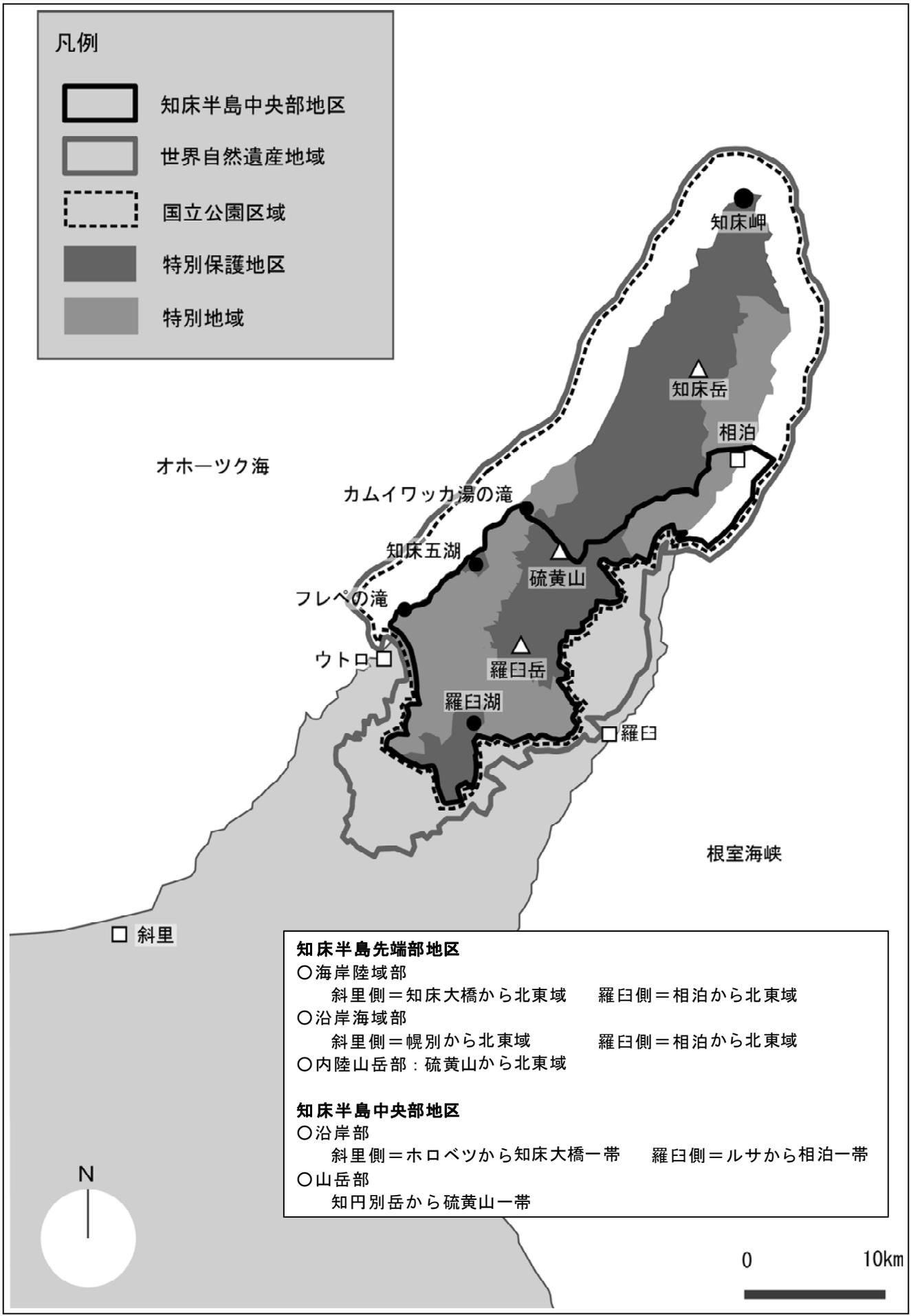
遺跡名	調査理由	調査地	調査主体	調査期間	調査面積
ウトロ遺跡	開発事業(道路:町道)	斜里町ウトロ東251ほか	斜里町教育委員会	平成20年5月1日～5月31日	116㎡
ウトロ遺跡	開発事業(道路:国道)	斜里町ウトロ東159ほか	斜里町教育委員会	平成20年5月1日～11月15日	2,020㎡
ウトロ遺跡	開発事業(下水道)	斜里町ウトロ東145ほか	斜里町教育委員会	平成20年6月1日～6月30日	99㎡
ウトロ遺跡	学術研究	斜里町ウトロ東148	斜里町教育委員会	平成20年9月1日～9月5日	3㎡
オライネコタン3遺跡	開発事業(道路:国道)	斜里町字日の出153-2ほか	斜里町教育委員会	平成20年7月1日～8月31日	240㎡
オライネコタン4遺跡	開発事業(道路:国道)	斜里町字日の出地先国有林・河川敷地	斜里町教育委員会	平成20年7月1日～8月31日	370㎡
カモイベツ遺跡	開発事業(道路:国道)	斜里町字峰浜地先国有林	斜里町教育委員会	平成20年7月1日～10月31日	2,200㎡
チャンコツ岬下B遺跡	学術研究		北海道大学文学研究科	平成20年9月8日～9月21日	50㎡
以久科北海岸遺跡	学術研究	斜里町字以久科地先国有林	北海道大学文学研究科	平成20年9月23日～9月27日	10㎡

資料：「市町村における発掘調査の概要（平成20年度）」（北海道教育委員会文化・スポーツ課ホームページ）

Ⅲ 知床地域の利用状況

1. 利用の概要

- 遺産地域の多くの面積を占める知床国立公園及び周辺地域では、平成 20 年、年間約 195 万人の観光客が訪れている。
- 知床五湖、幌別、カムイワッカ、知床峠及び羅臼温泉は利用者が多く、このうち、知床五湖には年間約 50 万人が自然探勝を目的に訪れている。
- 利用形態は、従来から見られる大型バスによる周遊や観光船による遊覧等の団体での観光周遊や探勝利用だけでなく、近年は登山、トレッキング、シーカヤック等の体験型利用が増加してきており、質的な変化、多様化が進んでいる。



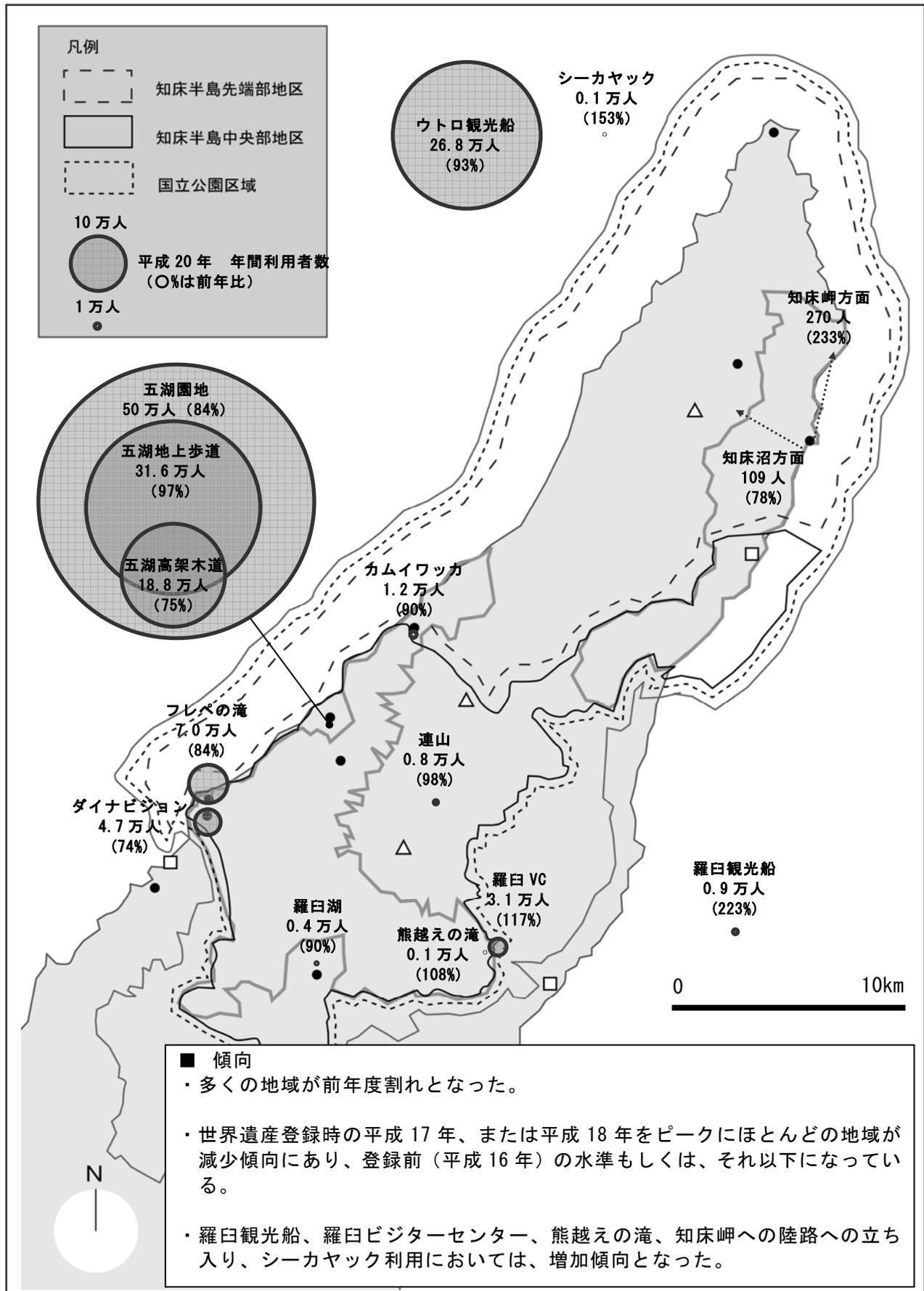
- 凡例
- 知床半島中央部地区
 - 世界自然遺産地域
 - 国立公園区域
 - 特別保護地区
 - 特別地域

- 知床半島先端部地区**
- 海岸陸域部
 - 斜里側 = 知床大橋から北東域
 - 羅臼側 = 相泊から北東域
 - 沿岸海域部
 - 斜里側 = 幌別から北東域
 - 羅臼側 = 相泊から北東域
 - 内陸山岳部：硫黄山から北東域
- 知床半島中央部地区**
- 沿岸部
 - 斜里側 = ホロベツから知床大橋一帯
 - 羅臼側 = ルサから相泊一帯
 - 山岳部
 - 知円別岳から硫黄山一帯

図 知床半島先端部及び知床半島中央部位置図

2. 利用状況データ

(1) 公園全体の状況



(2) 知床半島中央部地区の利用状況

1) 知床五湖地域

a. 五湖園地全体利用者数（駐車台数+シャトルバス利用）

表 五湖園地全体利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成16年	①駐車場利用台数(台)	640	7,186	6,474	10,843	17,082	14,569	8,704	143	65,641	
	②駐車場利用(人)	4,285	70,361	60,777	69,454	98,500	97,692	70,688	1,288	473,045	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	-	17,226	-	-	-	17,226	
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	-	14,522	-	-	-	14,522	③×0.843(五湖利用率)
	⑤利用者数合計(人)	4,285	70,361	60,777	69,454	113,022	97,692	70,688	1,288	487,567	②+④
平成17年	①駐車場利用台数(台)	490	6,107	8,767	15,034	21,741	17,449	12,043	1,167	82,798	7月世界遺産登録
	②駐車場利用(人)	3,749	59,333	75,344	97,751	122,386	134,254	113,607	9,009	615,433	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	9,904	26,918	10,624	-	-	47,446	
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	8,349	22,692	8,956	-	-	39,997	③×0.843(五湖利用率)
	⑤利用者数合計(人)	3,749	59,333	75,344	106,100	145,078	143,210	113,607	9,009	655,430	②+④
平成18年	①駐車場利用台数(台)	627	8,401	10,675	16,259	20,867	16,454	10,234	1,036	84,553	
	②駐車場利用(人)	3,448	74,638	108,043	118,480	119,728	130,036	98,808	7,805	660,986	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	6,793	17,369	6,919	-	-	31,081	
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	5,726	14,642	5,833	-	-	26,201	③×0.843(五湖利用率)
	⑤利用者数合計(人)	3,448	74,638	108,043	124,206	134,370	135,869	98,808	7,805	687,187	②+④
平成19年	①駐車場利用台数(台)	1,185	7,096	8,612	12,794	20,304	14,975	9,297	534	74,797	
	②駐車場利用(人)	6,023	61,413	87,562	95,919	118,291	111,504	85,037	4,743	570,492	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	6,707	17,046	5,261	-	-	29,014	
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	5,654	14,370	4,435	-	-	24,459	③×0.843(五湖利用率)
	⑤利用者数合計(人)	6,023	61,413	87,562	101,573	132,661	115,939	85,037	4,743	594,951	②+④
平成20年	①駐車場利用台数(台)	1,099	6,563	7,916	10,956	16,541	13,759	8,018	683	65,535	
	②駐車場利用(人)	6,264	54,848	75,046	79,642	95,035	95,323	70,561	4,263	480,982	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用(人)	-	-	-	5,293	14,637	4,607	-	-	24,537	
	④シャトルバス五湖利用(人)	-	-	-	4,462	12,339	3,884	-	-	20,685	③×0.843(五湖利用率)
	⑤利用者数合計(人)	6,264	54,848	75,046	84,104	107,374	99,207	70,561	4,263	501,667	②+④
合計前年比		104%	89%	86%	83%	81%	86%	83%	90%	84%	
合計世界遺産登録前比		146%	78%	123%	121%	95%	102%	100%	331%	103%	平成16年比
合計ピーク年比		182%	73%	69%	68%	80%	73%	71%	55%	73%	平成18年比

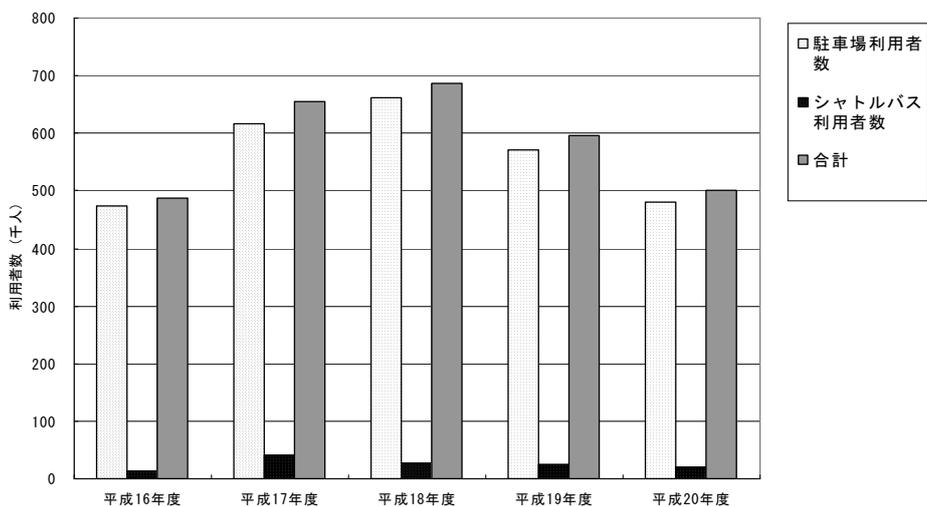


図 五湖園地全体利用者数年次変化

出典：自然公園財団及び斜里バス（株）

コメント：前年比16%減。世界遺産登録前とほぼ同等の入り込み。

b. 高架木道・地上部歩道利用者数(五湖カウンター調査)

表 高架木道・地上部歩道利用者数

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成16年	①高架木道利用者数(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	供用前につき無し
	②地上部歩道利用者数(人)	33,866	14,663	32,374	88,512	75,038	54,914	5,318	304,685	退場数
平成17年	①高架木道利用者数(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	供用前につき無し
	②地上部歩道利用者数(人)	29,305	42,380	62,263	103,930	107,405	84,341	14,311	443,935	退場数
平成18年	①高架木道利用者数(人)	31,340	38,352	42,897	44,680	47,949	37,540	7,313	250,071	退場数
	②地上部歩道利用者数(人)	46,668	74,653	87,508	106,308	101,894	73,314	10,159	500,504	退場数
平成19年	①高架木道利用者数(人)	24,263	52,858	59,283	40,980	37,651	31,005	5,443	251,483	退場数
	②地上部歩道利用者数(人)	42,048	33,566	37,040	94,758	82,791	60,907	5,828	356,938	退場数
平成20年	①高架木道利用者数(人)	17,919	24,601	33,078	40,303	35,351	31,457	5,342	188,051	退場数
	②地上部歩道利用者数(人)	35,454	48,532	55,795	81,277	74,165	45,988	6,728	347,938	退場数
前年比 ①高架木道		74%	47%	56%	98%	94%	101%	98%	75%	
前年比 ②地上部歩道		84%	145%	151%	86%	90%	76%	115%	97%	
世界遺産登録前比 ②地上部歩道		105%	331%	172%	92%	99%	84%	127%	114%	平成16年比
ピーク年比 ①高架木道		57%	64%	77%	90%	74%	84%	73%	75%	平成18年比
ピーク年比 ②地上部歩道		76%	65%	64%	76%	73%	63%	66%	70%	

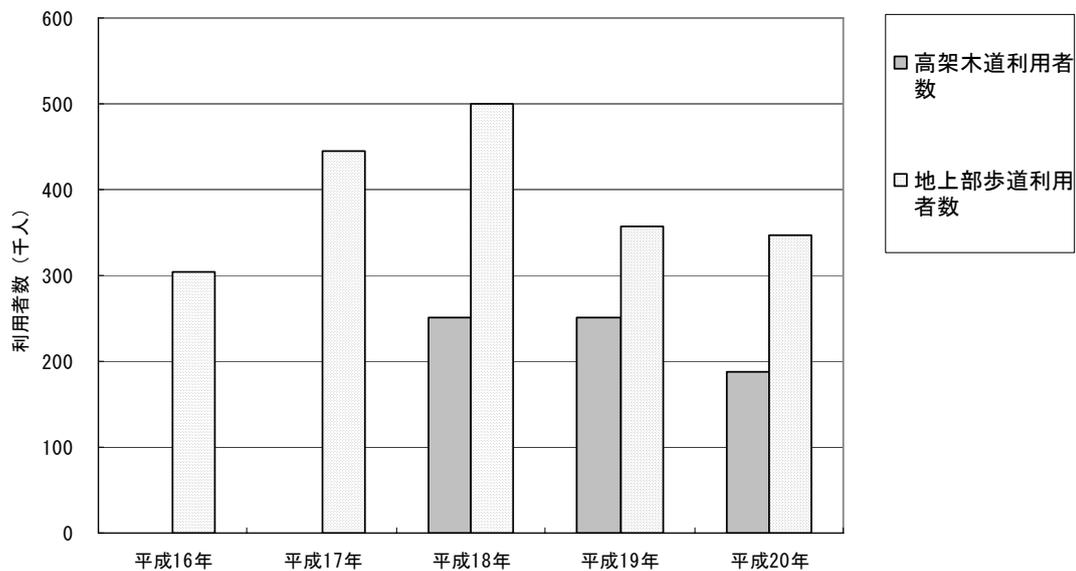


図 高架木道・地上部歩道利用者数年次変化

出典：環境省 カウンター調査

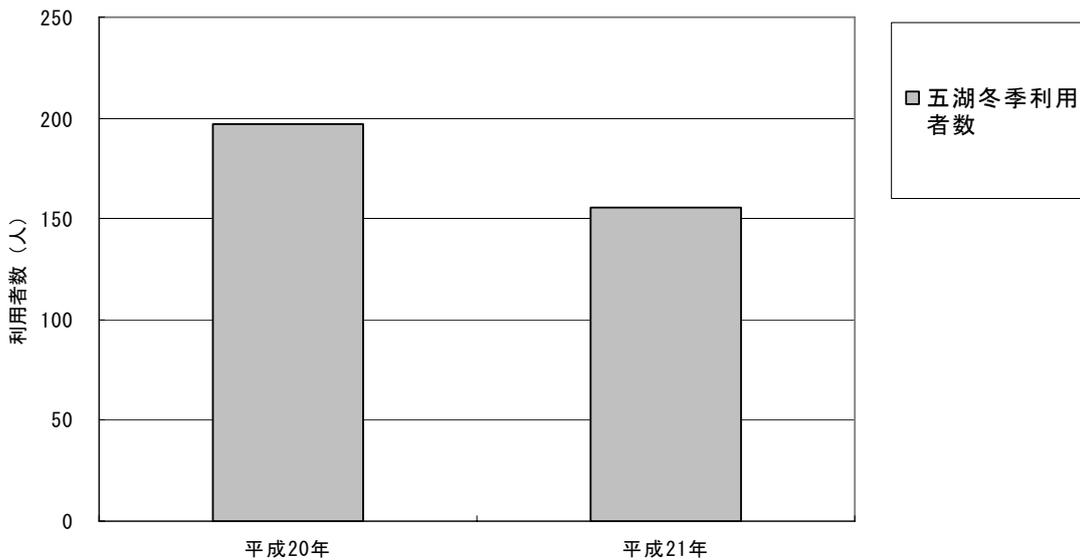
コメント：地上歩道は前年比3%減。高架木道は前年比25%減。地上部歩道は世界遺産登録前とほぼ同等の入込み。

c. 冬季利用者数

表 冬季利用者数

	グループ数	利用者数	備考
平成20年	49	197	平成20年2月1日～3月22日 51日間 利用者数には引率者も含む
平成21年	46	156	平成21年1月31日～3月22日 51日間 利用者数には引率者も含む
前年比	94%	79%	

※本報告の他の項目は平成20年1月から12月までの利用状況をまとめるものであるが、冬季利用者数については、平成21年1月から3月のデータも含む。



グラフ：冬季利用者数年次変化

出典：斜里町商工観光課

コメント：21年は週末の天候不順が続いたことが、利用者減につながっている可能性あり。

2) カムイワッカ地域

a. シャトルバス利用者数

表 シャトルバス利用者数（カムイワッカ以外の利用を含む）

		7月	8月	9月	計	備考
平成17年	シャトルバス利用（人）	9,904	26,918	10,624	47,446	
平成18年	シャトルバス利用（人）	6,793	17,369	6,919	31,081	
平成19年	シャトルバス利用（人）	6,707	17,046	5,261	29,014	カムイワッカ監視員カウント数13,802人
平成20年	シャトルバス利用（人）	5,293	14,637	4,607	24,537	カムイワッカ監視員カウント数12,394人
前年比		79%	86%	88%	85%	
ピーク年比		53%	54%	43%	52%	平成17年比

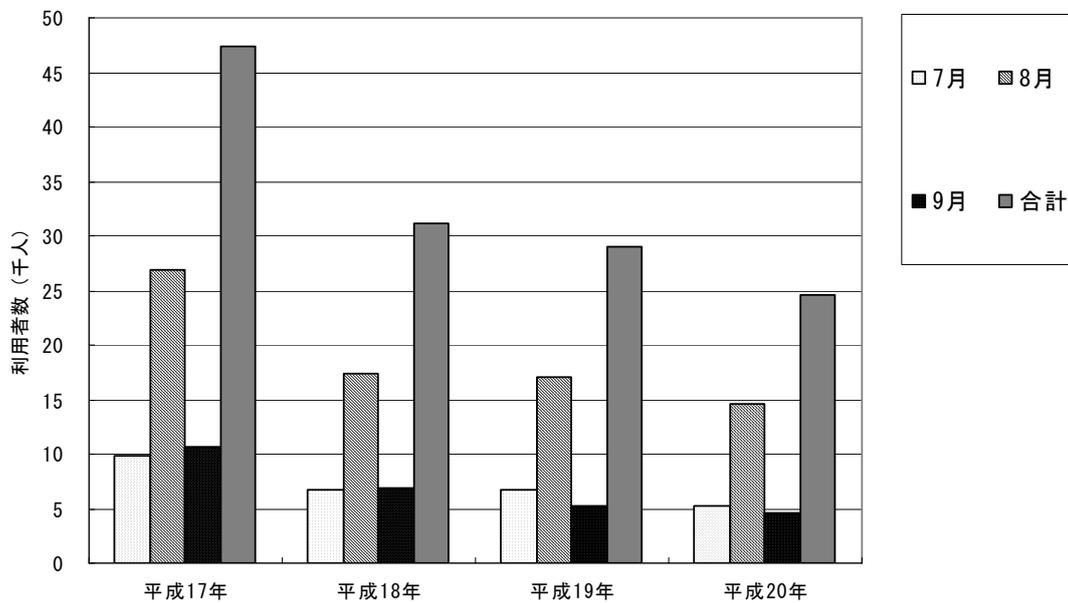


図 シャトルバス利用者数の年次変化（カムイワッカ以外の利用を含む）

出典：カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

コメント：シャトルバス利用者前年比15%減。

3) ホロベツ地区

a. フレペの滝利用者数（フレペの滝カウンター調査）

表 フレペの滝利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成18年	利用者数（人）	—	—	8,911	17,604	23,779	18,443	11,088	—	—	下山数 調査期間が短いため参考値
平成19年	利用者数（人）	1,365	5,327	11,066	17,757	21,719	14,390	9,275	2,639	83,538	下山数
平成20年	利用者数（人）	976	4,873	9,346	12,348	18,230	12,901	8,503	2,689	69,877	下山数
	前年比	72%	91%	84%	70%	84%	90%	92%	102%	84%	
	ピーク年比	72%	91%	84%	70%	84%	90%	92%	102%	84%	平成19年比

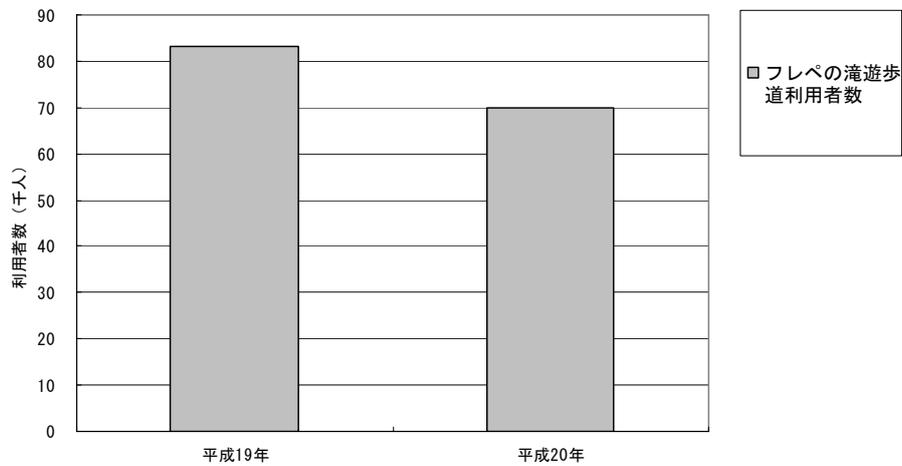


図 フレペの滝利用者数年次変化

出典：環境省 カウンター調査

コメント：前年比16%減。

4) 知床連山地域

a. 連山登山道利用者数（岩尾別、湯ノ沢カウンター調査）

表 知床連山利用者数

		6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成16年	岩尾別（人）	668	3,628	2,490	1,199	270	8,255	下山数
	硫黄山（人）	136	667	354	355	127	1,639	
	湯ノ沢（人）	79	136	221	136	79	651	下山数
	合計（人）	883	4,431	3,065	1,690	476	10,545	
平成17年	岩尾別（人）	589	3,798	2,638	1,720	295	9,040	下山数
	硫黄山（人）		385	311	80		776	
	湯ノ沢（人）	105	111	163	125	52	556	下山数
	合計（人）	695	4,294	3,112	1,925	346	10,372	
平成18年	岩尾別（人）	414	4,386	2,248	1,466	259	8,773	下山数
	湯ノ沢（人）	55	127	172	129	60	543	下山数
	合計（人）	469	4,513	2,420	1,595	319	9,316	
平成19年	岩尾別（人）	417	3,461	2,214	1,130	252	7,474	下山数
	湯ノ沢（人）	89	132	227	129	57	634	下山数
	合計（人）	506	3,593	2,441	1,259	309	8,108	
平成20年	岩尾別（人）	697	3,301	1,873	1,176	309	7,355	下山数
	湯ノ沢（人）	72	131	149	173	60	585	下山数
	合計（人）	769	3,432	2,022	1,349	369	7,940	
合計前年比		152%	96%	83%	107%	119%	98%	
合計世界遺産登録前比		87%	77%	66%	80%	77%	75%	平成16年比
合計ピーク年比		87%	77%	66%	80%	77%	75%	平成16年比

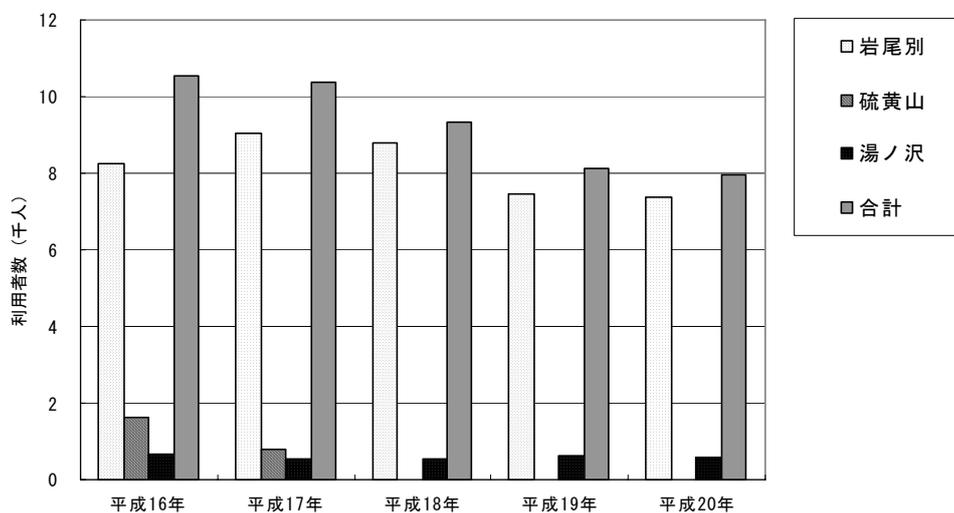


図 知床連山利用者数の年次変化

出典：環境省 カウンター調査

コメント：前年を若干下回る。

平成18年より硫黄山登山口は利用不可となっている。

b. ハイシーズン（7～9月）の岩尾別登山口路上駐車台数

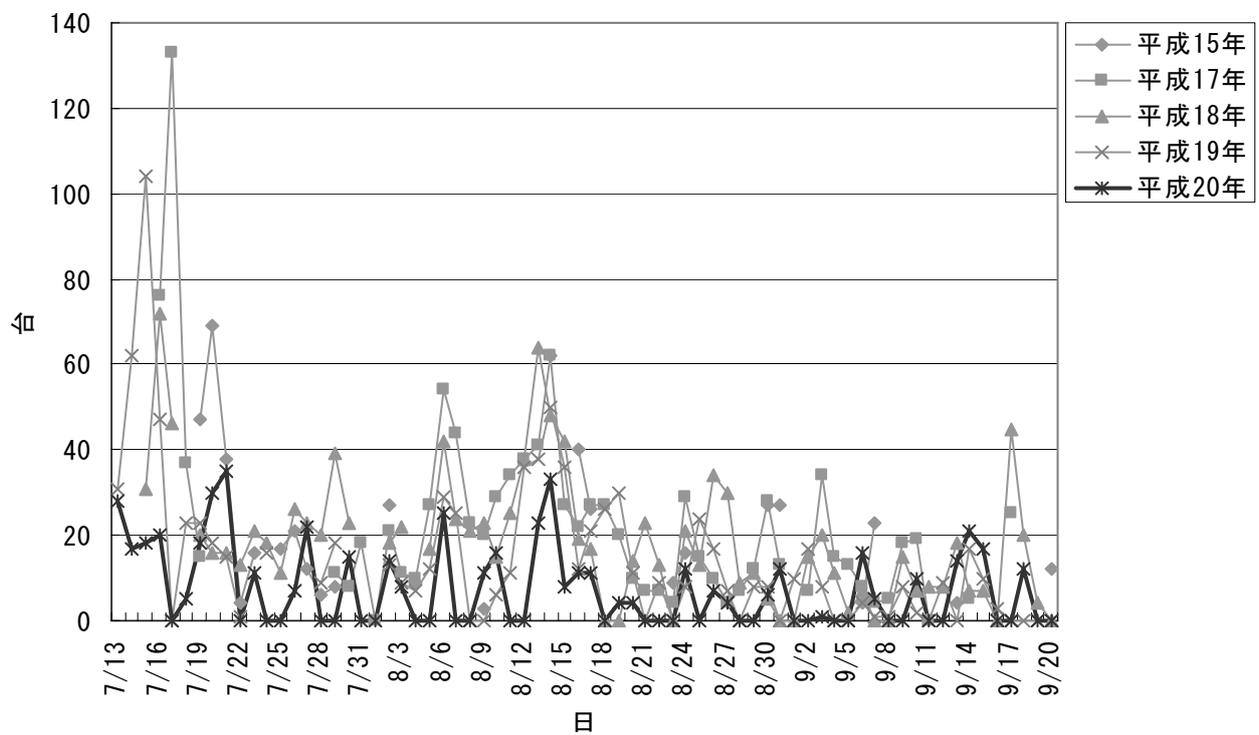


図 ハイシーズン（7～9月）の岩尾別登山口路上駐車台数

出典：環境省 路上駐車台数調査

コメント：7月中旬がピーク。最大でも40台/日と例年の半数以下。

5) 羅臼湖地域

a. 羅臼湖登山道利用者数（羅臼湖カウンター）

票 羅臼湖登山道利用者数

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成16年	利用者（人）	748	1,423	1,536	1,247	681	—	5,635	下山数 6月の設置が11日長い
平成17年	利用者（人）	598	1,321	2,302	1,672	1,394	66	7,353	下山数 6月の設置が11日長い
平成18年	利用者（人）	312	2,130	1,662	1,287	448	25	5,864	下山数
平成19年	利用者（人）	179	1,434	1,568	938	609	2	4,730	下山数
平成20年	利用者（人）	438	937	1,173	1,024	669	—	4,241	下山数
前年比		245%	65%	75%	109%	110%	—	90%	
世界遺産登録前比		59%	66%	76%	82%	98%	—	75%	平成16年比
ピーク年比		73%	71%	51%	61%	48%	—	58%	平成17年比

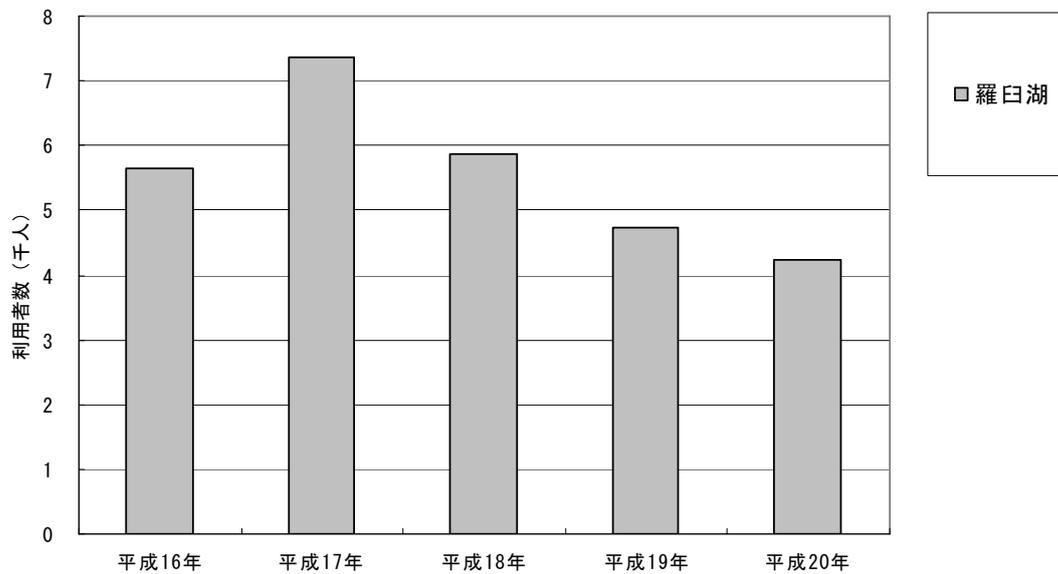


図 羅臼湖登山道利用者数年次変化

出典：環境省 カウンター調査

コメント：前年比10%減。

6) 羅臼温泉地区

a. 熊越の滝利用者数（熊越の滝カウンター調査）

表 熊越の滝歩道利用者数

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成18年	利用者数（人）	—	153	324	393	229	176	12	1,287	下山数
平成19年	利用者数（人）	—	221	266	330	199	246	14	1,276	下山数
平成20年	利用者数（人）	41	203	304	274	267	290	—	1,379	下山数
前年比		—	92%	114%	83%	134%	118%	—	108%	

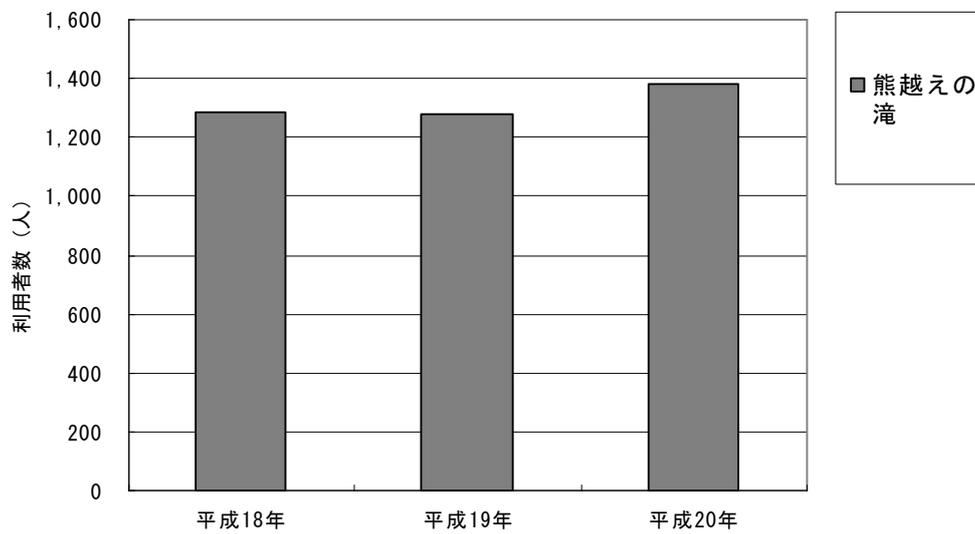


図 熊越の滝歩道利用者数年次変化

出典：環境省 カウンター調査

コメント：前年比8%増。

7) 知床峠

平成 21 年以降、駐車場利用台数等、詳細な情報収集・整理を行うことが望ましい。

コメント：

8) その他

a. ガイド利用者数

平成 21 年以降、詳細な情報収集・整理を行う。

※ガイド協議会を通じ、ガイド事業者にガイド実施利用者をヒアリングする。
(地域別のガイド利用者数)

コメント：

(3) 知床半島先端部地区の利用状況

1) 知床岬、知床沼、知床岳地域

a. 陸路による知床岬、知床沼方面利用者数（ウナキベツ・観音岩カウンター調査）

表 陸路による知床岬、知床沼方面利用者数

		6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成16年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	30	151	110	56	15	362	観音岩カウンター
	知床沼方面入山者 (B)	12	94	50	21	12	189	ウナキベツカウンター
	知床岬方面 (A-B)	18	57	60	35	3	173	
平成17年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	34	134	144	45	0	357	世界遺産登録
	知床沼方面入山者 (B)	18	33	69	21	3	144	
	知床岬方面 (A-B)	16	101	75	24	0	213	
平成18年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	36	120	134	28	14	332	
	知床沼方面入山者 (B)	43	39	88	22	1	193	
	知床岬方面 (A-B)	0	81	46	6	13	139	
平成19年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	6	117	97	26	10	256	
	知床沼方面入山者 (B)	24	31	70	15	0	140	
	知床岬方面 (A-B)	0	86	27	11	10	116	
平成20年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	27	111	194	35	12	379	
	知床沼方面入山者 (B)	32	14	42	21	0	109	
	知床岬方面 (A-B)	0	97	152	14	12	270	
前年比 知床沼方面B		133%	45%	60%	140%	-	78%	
前年比 知床岬方面A-B		-	113%	563%	127%	120%	233%	
世界遺産登録前比 知床沼方面B		267%	15%	84%	100%	0%	58%	平成16年比
世界遺産登録前比 知床岬方面A-B		-	170%	253%	40%	400%	156%	

※知床岬方面がマイナス値になる場合は0に置き換えている

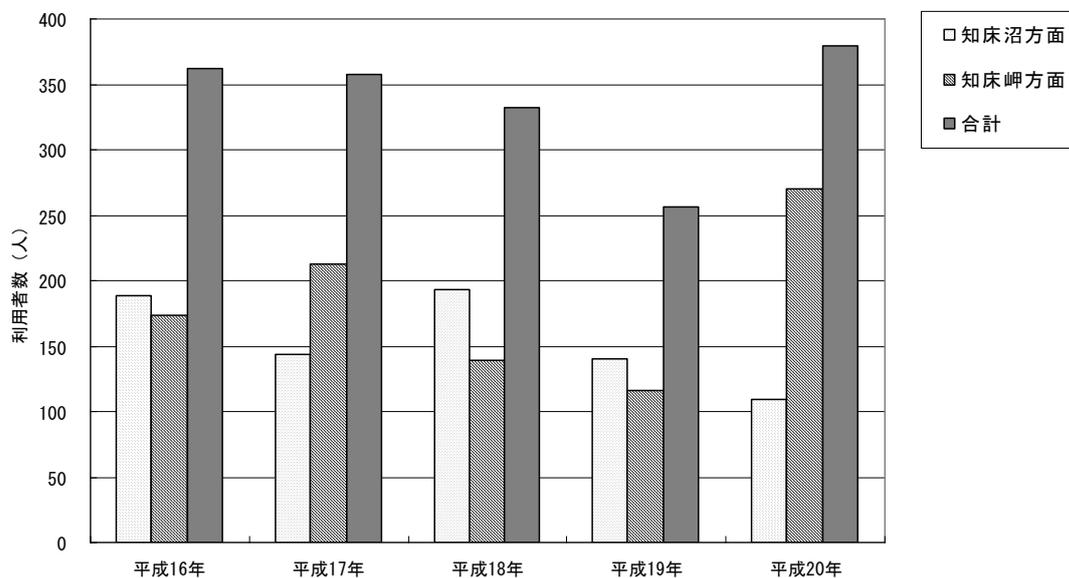


図 陸路による知床岬、知床沼方面利用者数年次変化

出典：環境省 カウンター調査

コメント：知床岬方面前年比123%増。知床沼方面22%減。

b. ハイシーズン（8月中旬）の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数（現地実態調査）

表 ハイシーズン（8月中旬）の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数

	動力船			シーカヤック			徒歩			1日平均計	備考	
	グループ	人数	1日平均	グループ	人数	1日平均	グループ	人数	1日平均	人数	期間	日数
平成16年	14	69	6.3	5	28	2.5	9	23	2.1	10.9	8/6~16	11
平成17年	8	39	4.9	5	15	1.9	5	26	3.3	10.0	8/12~19	8
平成18年	10	40	5.7	4	34	4.9	5	15	2.1	12.7	8/11~17	7
平成19年	11	61	8.7	7	22	3.1	5	13	1.9	13.7	8/11~17	7
平成20年	6	17	3.4	2	15	3.0	2	17	3.4	9.8	8/14~18	5
前年比	55%	28%	39%	29%	68%	95%	40%	131%	183%	71%		
世界遺産登録前比	43%	25%	54%	40%	54%	118%	22%	74%	163%	90%		

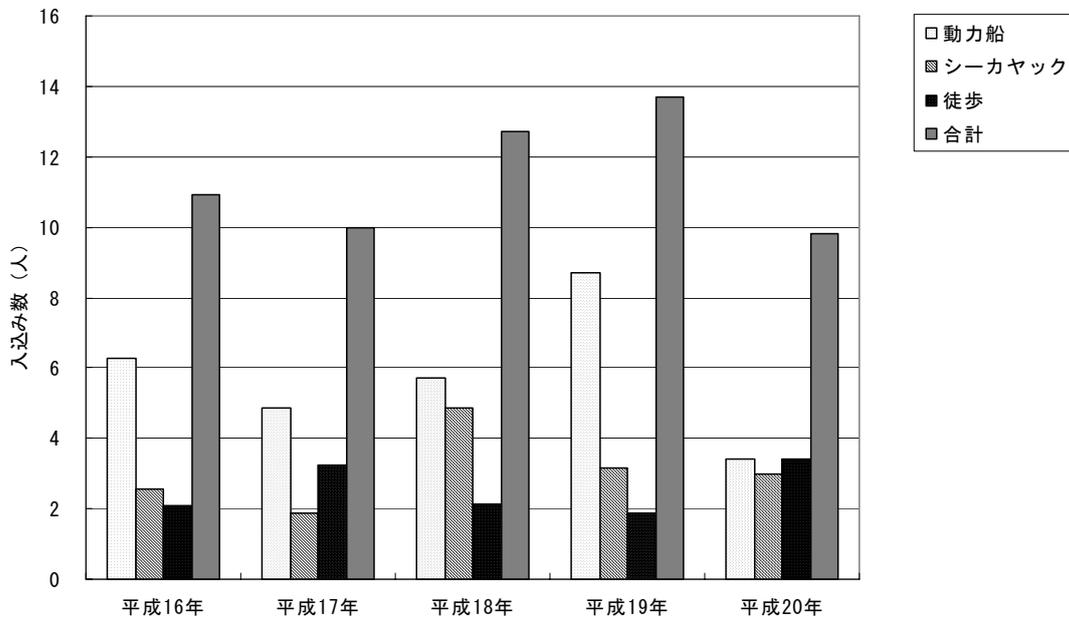


図 ハイシーズン（8月中旬）の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数年次変化

出典：環境省 知床岬現地利用実態調査

コメント：

2) 観光船

a. ウトロ及び羅臼地区観光船利用者数

表 ウトロ観光船利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成19年	ウトロ地区(人)	1,986	14,462	51,377	52,690	71,453	38,094	17,306	247,368	
	アンケート回収率勘案値(人)	2,309	16,816	59,741	61,267	83,085	44,295	20,123	287,637	乗船定員989名/1145名=0.86
平成20年	ウトロ地区(人)	2,028	22,269	42,049	47,962	50,278	39,989	23,359	227,934	
	アンケート回収率勘案値(人)	2,386	26,199	49,469	56,426	59,151	47,046	27,481	268,158	乗船定員946名/1114名=0.85
前年比		103%	156%	83%	92%	71%	106%	137%	93%	

表 羅臼観光船利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成19年	羅臼地区(人)	無	1,031	128	11	74	316	355	1,225	577	94	24	0	3,835	
	アンケート回収率勘案値(人)	無	1,031	128	11	74	316	355	1,225	577	94	24	0	3,835	乗船定員383名/383名=1.0
平成20年	羅臼地区(人)	29	1,516	631	288	423	615	1,252	2,300	1,332	170	未	未	8,555	
	アンケート回収率勘案値(人)	29	1,516	631	288	423	615	1,252	2,300	1,332	170	未	未	8,555	乗船定員357名/357名=1.0
前年比		-	147%	493%	2618%	572%	195%	353%	188%	231%	181%	-	-	223%	

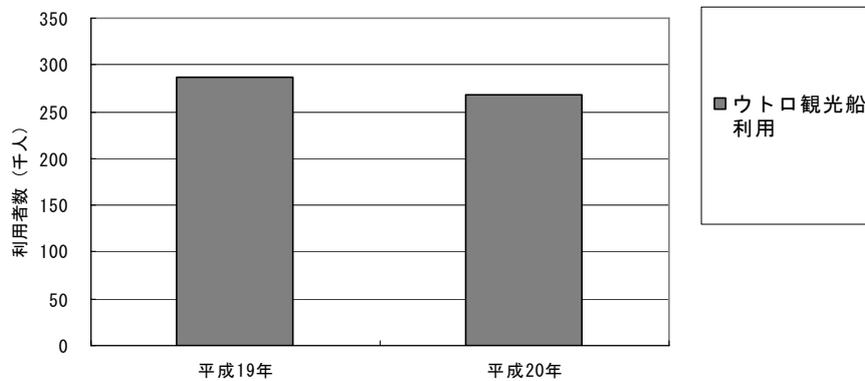


図 ウトロ地区観光船利用者数年次変化

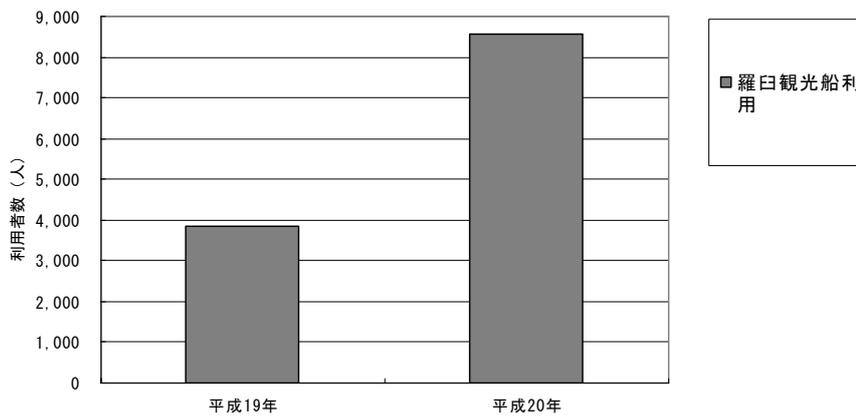


図 羅臼地区観光船利用者数年次変化

出典：環境省 アンケート調査（観光船事業者）

コメント：前年比ウトロ地区は7%減。羅臼地区は123%増。

3) シーカヤック

a. シーカヤック利用者数

表 シーカヤック利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成19年	シーカヤック利用（人）	15	21	39	162	324	108	2	671	
	アンケート回収率勘案値（人）	15	21	39	162	324	108	2	671	4社/4社=1.0
平成20年	シーカヤック利用（人）	15	25	23	227	448	246	40	1,024	
	アンケート回収率勘案値（人）	15	25	23	227	448	246	40	1,024	4社/4社=1.0
前年比		100%	119%	59%	140%	138%	228%	2000%	153%	

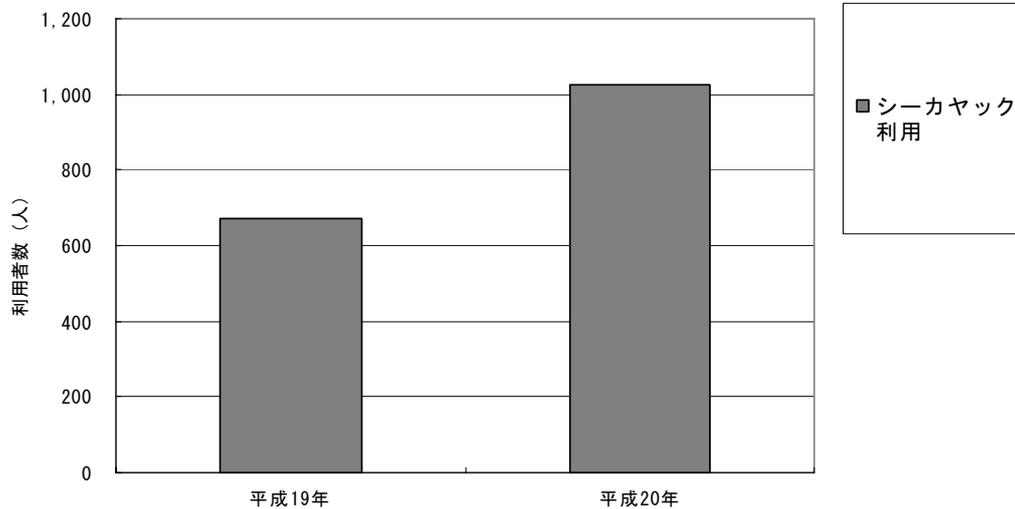


図 シーカヤック利用者数年次変化

出典：環境省 アンケート調査（シーカヤック事業者）

※ウトロ側事業者を対象に実施したものである。

コメント：前年比53%増。

4) 河口部

a. サケマス釣りの利用者数

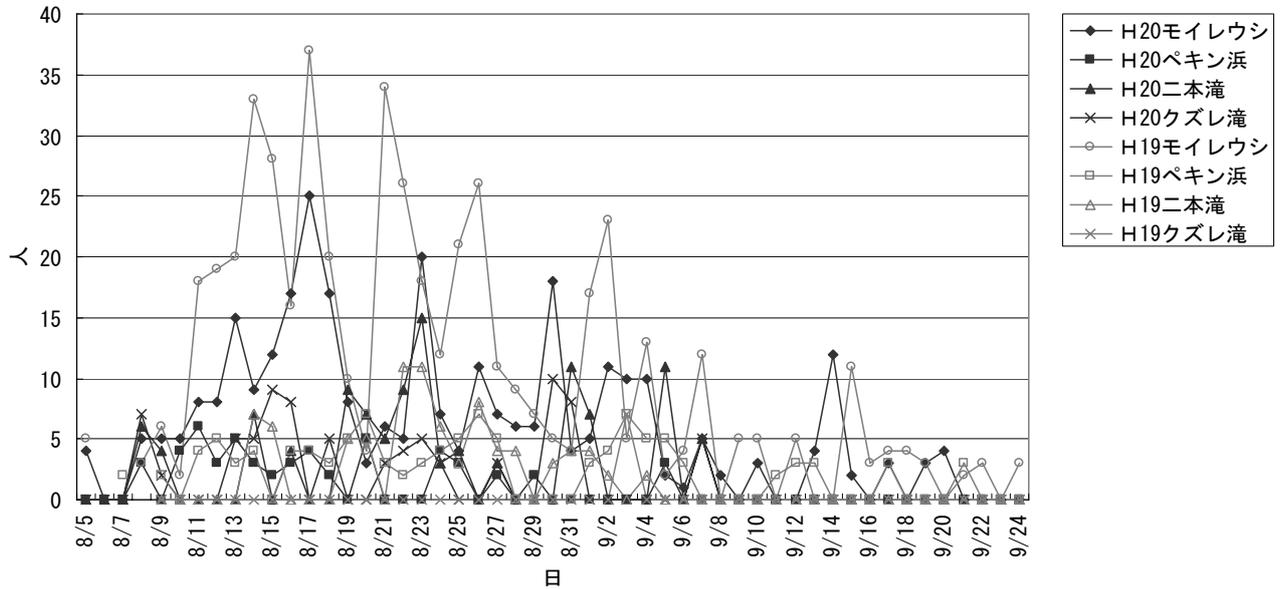


図 サケマス釣り利用者数

出典：環境省 アンケート調査（羅臼遊漁船組合）

コメント：8月中旬のモイレウシ利用が多いが（25人/日）、昨年度に比べて利用人数は減少。

(4) 施設利用状況

1) 知床自然センター駐車台数（マイカー規制実施期間）

表 知床自然センター駐車台数

		7月	8月	9月	計	備考
平成17年	駐車台数（台）	10,243	22,870	9,702	42,815	
平成18年	駐車台数（台）	7,633	18,516	8,047	34,196	
平成19年	駐車台数（台）	8,388	18,589	7,839	34,816	
平成20年	駐車台数（台）	7,014	16,071	7,122	30,207	
前年比		84%	86%	91%	87%	
ピーク年比		68%	70%	73%	71%	平成17年比

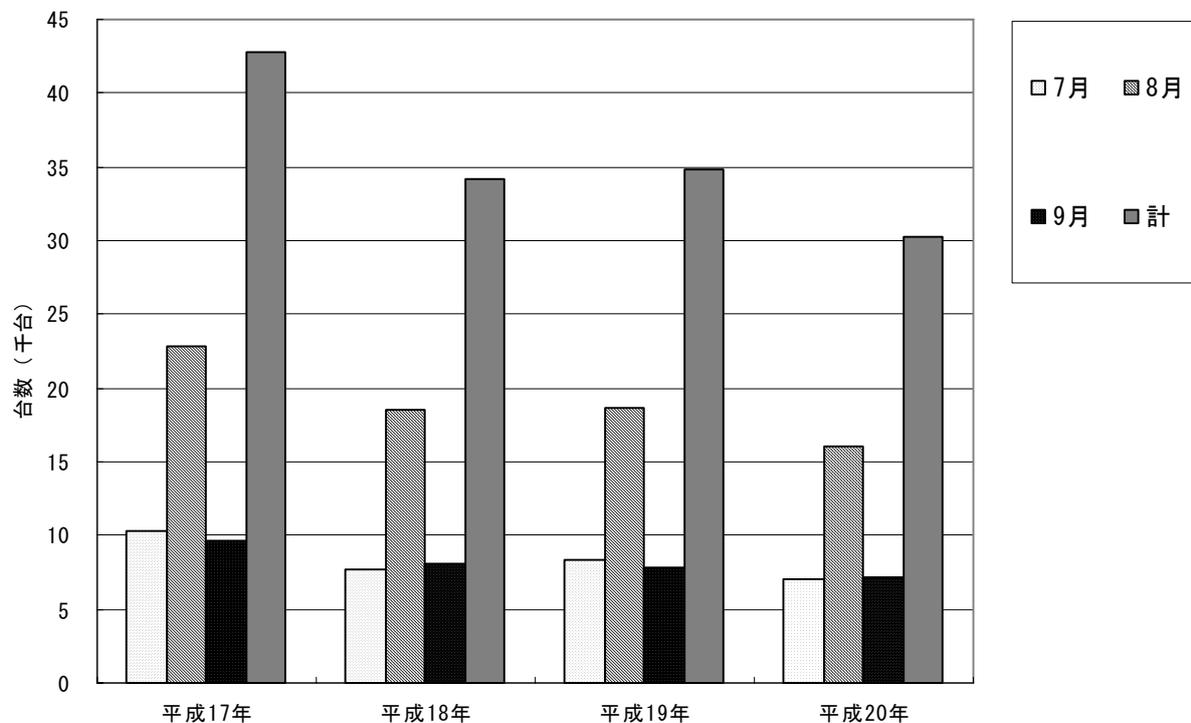


図 知床自然センター駐車台数年次変化

出典：カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

コメント：前年比13%減。

2) 知床自然センターダイナビジョン利用者数（団体・個人）

表 ダイナビジョン利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成16年	個人利用者数（人）	141	675	714	668	2,129	2,254	4,190	4,412	2,592	1,665	1,413	206	21,059	
	団体利用者数（人）	231	1,445	586	1,214	3,178	4,545	5,974	2,678	2,912	2,682	1,373	327	27,145	
	利用者数合計（人）	372	2,120	1,300	1,882	5,307	6,799	10,164	7,090	5,504	4,347	2,786	533	48,204	
平成17年	個人利用者数（人）	204	699	608	573	1,732	2,302	3,908	6,191	4,857	4,127	1,650	588	27,439	
	団体利用者数（人）	222	912	426	454	1,910	3,779	3,309	2,408	8,432	12,051	5,187	3,674	42,764	
	利用者数合計（人）	426	1,611	1,034	1,027	3,642	6,081	7,217	8,599	13,289	16,178	6,837	4,262	70,203	
平成18年	個人利用者数（人）	893	1,295	1,324	983	2,953	3,593	3,744	5,941	4,203	3,837	1,289	830	30,885	
	団体利用者数（人）	1,741	2,195	3,593	3,536	5,599	8,039	3,612	2,948	9,089	10,945	3,774	877	55,948	
	利用者数合計（人）	2,634	3,490	4,917	4,519	8,552	11,632	7,356	8,889	13,292	14,782	5,063	1,707	86,833	
平成19年	個人利用者数（人）	357	713	712	990	2,395	2,493	3,395	3,667	2,810	2,601	513	714	21,360	
	団体利用者数（人）	746	1,177	1,018	1,510	5,403	5,532	6,211	1,565	8,209	7,131	2,857	147	41,506	
	利用者数合計（人）	1,103	1,890	1,730	2,500	7,798	8,025	9,606	5,232	11,019	9,732	3,370	861	62,866	
平成20年	個人利用者数（人）	148	465	541	541	1,646	2,274	3,103	3,899	2,581	2,003	736	425	18,362	
	団体利用者数（人）	436	973	981	891	3,640	4,320	2,753	2,040	3,696	5,323	2,174	1,073	28,300	
	利用者数合計（人）	584	1,438	1,522	1,432	5,286	6,594	5,856	5,939	6,277	7,326	2,910	1,498	46,662	
合計前年比		53%	76%	88%	57%	68%	82%	61%	114%	57%	75%	86%	174%	74%	
合計世界遺産登録前比		157%	68%	117%	76%	100%	97%	58%	84%	114%	169%	104%	281%	97%	平成16年比
合計ピーク年比		22%	41%	31%	32%	62%	57%	80%	67%	47%	50%	57%	88%	54%	平成18年比

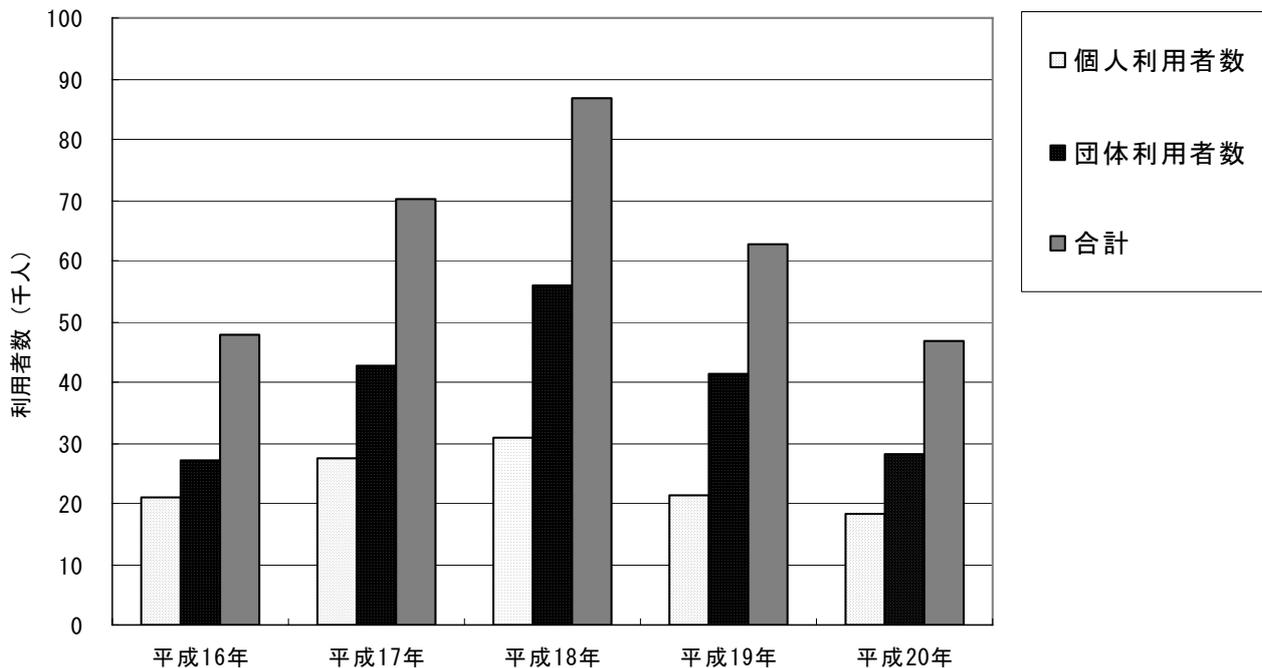


図 ダイナビジョン利用者数年次変化

出典：(財) 知床財団

コメント：前年比26%減。世界遺産登録前と同等。団体利用の減少が著しい。

3) 羅臼ビジターセンター利用者数

表 羅臼ビジターセンター利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成16年	利用者数(人)	96	244	198	191	621	869	1,287	1,684	1,093	1,153	232	107	7,775	
平成17年	利用者数(人)	106	355	262	220	457	858	1,402	1,833	1,258	1,201	270	122	8,344	
平成18年	利用者数(人)	83	269	296	379	603	1,170	1,346	1,770	1,106	1,203	257	144	8,626	
平成19年	利用者数(人)	141	307	334	—	1,218	4,805	5,403	6,343	4,327	3,034	567	287	26,766	5月新築・開館
平成20年	利用者数(人)	227	548	572	724	2,205	2,797	5,431	9,579	5,028	3,690	357	275	31,433	
	前年比	161%	179%	171%	—	181%	58%	101%	151%	116%	122%	63%	96%	117%	
	新築前比	273%	204%	193%	191%	366%	239%	403%	541%	455%	307%	139%	191%	364%	平成18年比

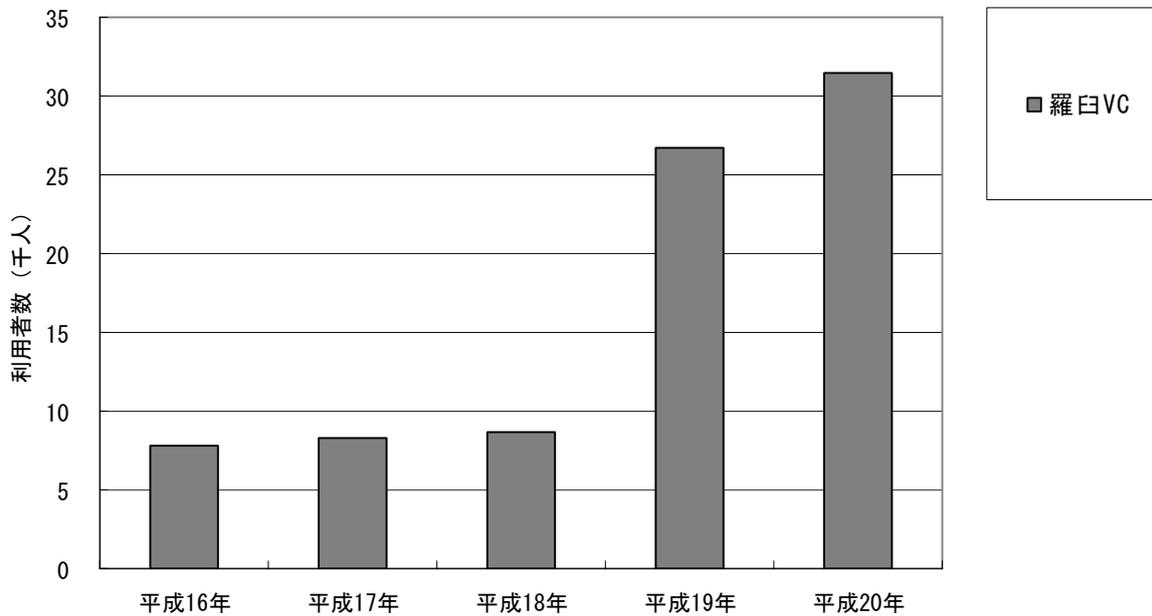


図 羅臼ビジターセンター利用者数年次変化

出典：羅臼ビジターセンター

コメント：前年比17%増。

4) 道の駅（ウトロ、斜里、羅臼）

表 道の駅利用者数（ウトロ、斜里、羅臼）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成16年	羅臼道の駅利用者数（人）	1,407	2,818	2,183	3,724	17,244	16,496	24,292	37,067	24,181	15,268	2,809	1,759	149,248	
平成17年	羅臼道の駅利用者数（人）	1,529	2,699	2,836	3,584	13,008	18,746	25,584	63,804	27,217	20,296	4,469	2,017	185,789	
平成18年	羅臼道の駅利用者数（人）	1,707	3,057	2,796	3,530	18,528	27,739	39,066	63,804	45,999	26,580	4,755	2,681	240,242	
平成19年	羅臼道の駅利用者数（人）	1,529	2,699	2,836	4,352	12,885	19,534	28,793	49,254	31,079	21,624	4,753	2,774	182,112	
	斜里道の駅利用者数（人）	-	-	-	3,800	17,162	18,211	33,553	44,597	26,645	18,202	10,915	8,332	181,417	4月25日開館
	ウトロ道の駅利用者数（人）	-	-	-	12,956	46,694	48,384	70,546	122,142	75,141	43,588	14,719	7,267	441,437	4月25日開館
平成20年	羅臼道の駅利用者数（人）	2,230	4,109	3,986	5,950	18,446	15,031	22,416	36,364	19,901	16,157	3,651	2,260	150,501	
	斜里道の駅利用者数（人）	7,934	10,051	12,015	16,222	20,417	17,553	35,633	40,630	24,496	17,392	10,649	9,570	222,562	
	ウトロ道の駅利用者数（人）	8,874	13,939	14,532	16,109	42,856	42,994	67,489	107,436	74,658	46,627	14,662	6,395	456,571	
前年比（羅臼道の駅）		146%	152%	141%	137%	143%	77%	78%	74%	64%	75%	77%	81%	83%	
前年比（斜里道の駅）		-	-	-	-	119%	96%	106%	91%	92%	96%	98%	115%	-	
前年比（ウトロ道の駅）		-	-	-	-	92%	89%	96%	88%	99%	107%	100%	88%	-	

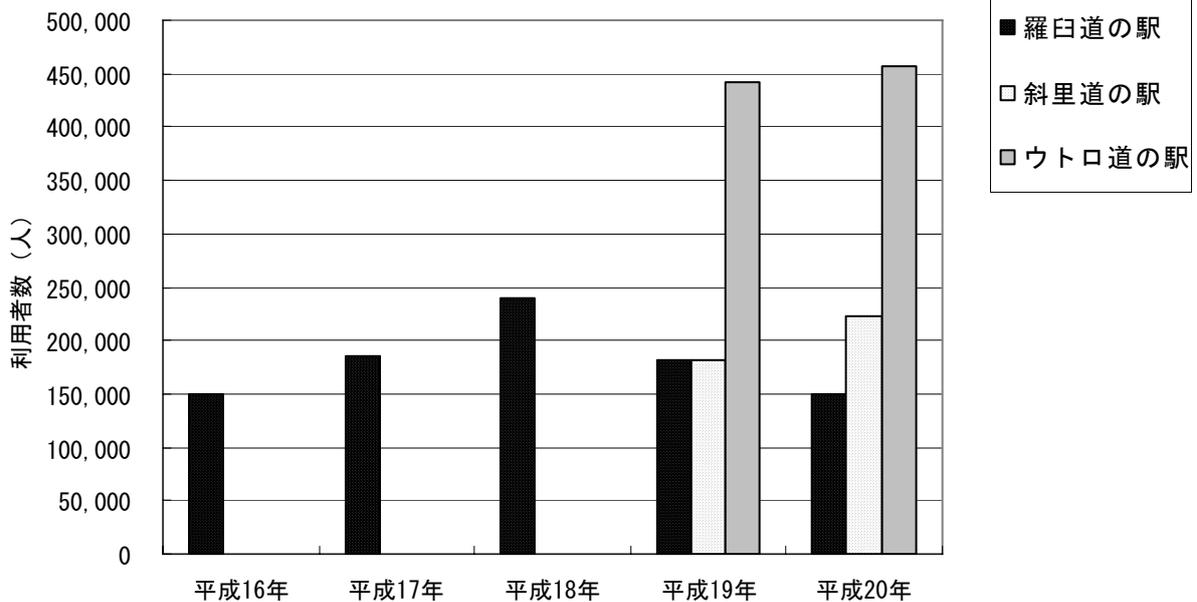


図 道の駅利用者数（ウトロ、斜里、羅臼）

出典：斜里町商工観光課、羅臼町水産商工観光課

コメント：斜里、ウトロは増加。羅臼は減少傾向。

5) 森林センター・ボランティア活動施設

表 森林センター・ボランティア活動施設利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成16年	森林センター（人）	24	12	16	0	0	22	23	25	21	23	21	0	187	
平成17年	森林センター（人）	26	10	19	0	0	25	23	0	25	25	19	0	172	
平成18年	森林センター（人）	23	0	19	0	0	23	42	18	20	17	24	10	196	
平成19年	森林センター（人）	12	20	18	0	0	23	50	27	16	23	35	0	224	
平成20年	森林センター（人）	25	0	17	0	0	23	19	0	0	19	18	18	139	
	ボランティア活動施設（人）					181	237	811	758	445	112	7	0	2,551	5月新築・開館
前年比（森林センター）		208%	0%	94%	100%	100%	100%	38%	0%	0%	83%	51%	—	62%	

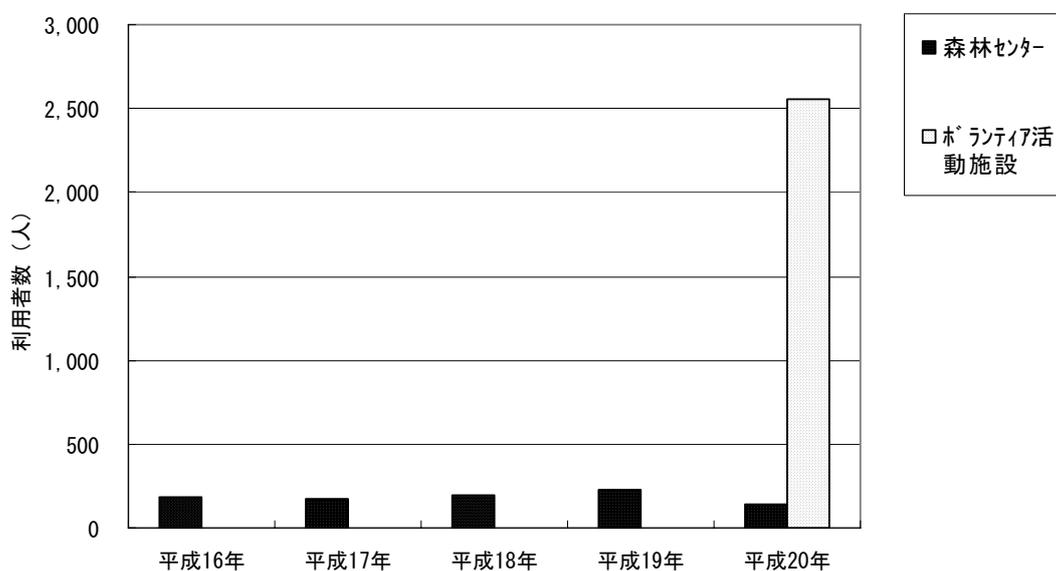


図 森林センター・ボランティア活動施設利用者数年次変化

出典：林野庁北海道森林管理局 知床森林センター

コメント：森林センターの利用者は、200人前後で推移。ボランティア活動施設が今年度5月に整備され、利用者2500人を数えた。

6) 知床博物館

表 知床博物館利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成16年	知床博物館(人)	280	733	819	1,159	1,530	1,911	2,841	1,965	1,636	1,166	517	435	14,992	
平成17年	知床博物館(人)	319	905	747	796	1,120	1,268	2,600	1,992	1,584	1,371	757	412	13,871	
平成18年	知床博物館(人)	291	830	805	939	1,246	2,010	2,508	2,551	1,292	943	615	308	14,338	
平成19年	知床博物館(人)	355	565	678	1,166	943	1,017	2,129	1,940	1,128	1,110	898	387	12,316	
平成20年	知床博物館(人)	454	684	531	868	1,027	1,597	2,308	1,615	1,157	889	781	375	12,286	
	前年比	128%	121%	78%	100%	100%	157%	108%	83%	103%	80%	87%	97%	100%	

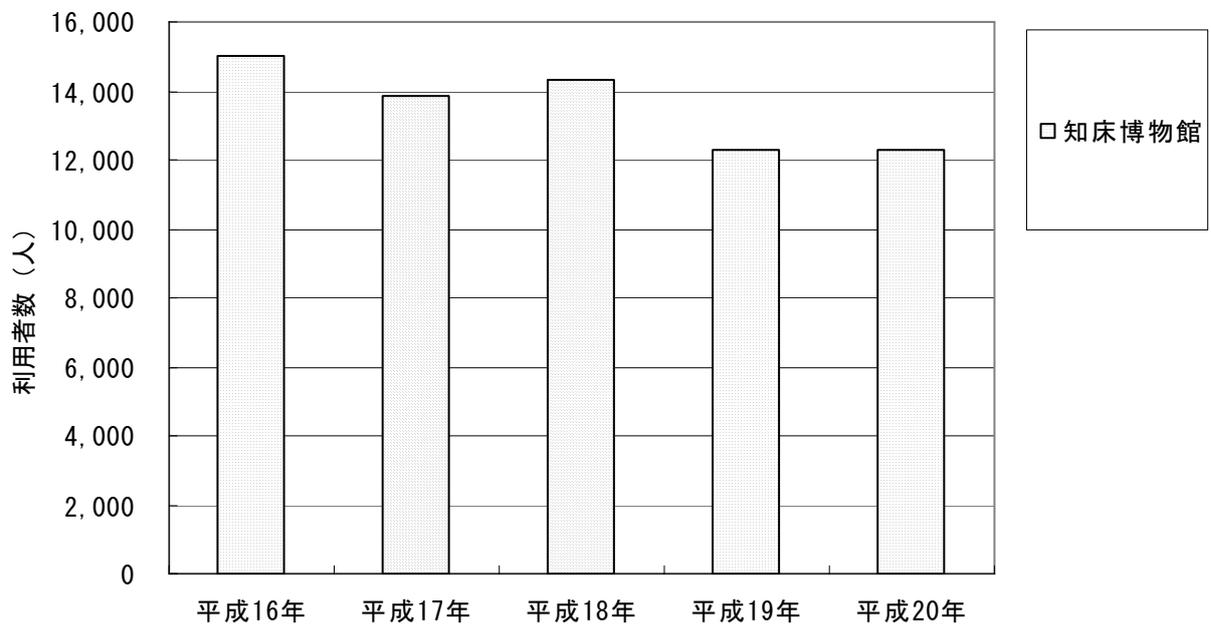


図 知床博物館利用者数年次変化

出典：斜里町立知床博物館

コメント：前年並みの利用者数。

7) 知床世界遺産センター利用者数

開館時よりデータ収集を実施する

コメント：

8) 知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数

開館時よりデータ収集を実施する

コメント：

3. 遭難・事故等の発生状況

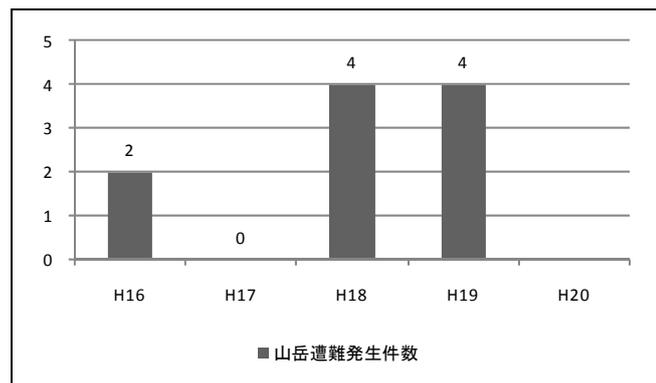


表 知床地域における山岳遭難の発生状況（平成 19 年度）

発生年月日	発生場所	発生状況
平成 19 年 3 月 7 日	知床岳	大阪府・三重県からの男女 50 代 2 名パーティの 1 名が、転倒、負傷。通信手段がなく随行者が下山、救助要請。3 名による救助隊活動。
平成 19 年 6 月 12 日	羅臼岳・極楽平上	愛知・岐阜・三重各県からの 60 代の 4 人が、極楽平上の残雪上にて道迷いをし、携帯電話（尾根に上がり）にて前泊した民宿へ救助要請。16 時に救助隊 6 名と道警へリにて救助に向かい、即日、救助隊と合流して自力下山。
平成 19 年 7 月 17 日	羅臼岳・岩清水上部付近	18 人の団体ツアーに参加した佐賀県からの 60 代女性が登山道上にて下山中、12:10、岩清水上部付近にてバランスを崩して転倒。負傷。アマチュア無線にて船舶経由にて 110 番通報。救助隊 6 名が向かうもへり収容。随行者などは無事下山。
平成 19 年 8 月 7 日	知床山系・知西別川	5 名パーティにて知西別川遡行をしていたうち札幌市からの 30 代男性 1 名が疲労により行動不能。通信できず、随行者が下山し救助要請。6 名の救助隊が向かい、無事下山。

平成 21 年度より、当該年度に発生した遭難・事故の状況について情報収集・整理を行う。

※ 仮に H19 の情報で作成

松尾英樹氏 ホームページより <http://www.h2.dion.ne.jp/~cha2/mountain/sounan.htm>

情報の入手方法については検討。

将来的には、山岳遭難だけでなく、利用の中で発生した事故等を整理する項目に

「遭難・事故が発生した」とする基準（態様、発生場所や発生後の対応等が想定されます）を決める必要あり

コメント：

IV 知床地域の施設整備の状況

主体	番号	種類	名称	実施位置
環境省	1	工事	知床世界遺産センター	斜里町ウトロ西
	2	工事	知床世界遺産ルサフィールドハウス	羅臼町北浜
	3	測量設計工事	知床五湖園地	● 斜里町岩尾別
	4	工事	新・羅臼ビジターセンター	● 羅臼町湯ノ沢
林野庁	5	維持補修	羅臼岳登山道の補修①	● 知床連山登山道(羅臼岳～硫黄山)
	6	維持補修	羅臼岳登山道の補修②	● 羅臼岳登山道(羅臼町湯ノ沢入口(キャンプ場入り口を含む)～羅臼岳頂上)
	7	工事	防鹿柵設置工事	● 岩尾別(1379林班)
北海道	8	維持管理	羅臼温泉集団施設地区(羅臼温泉野営場)	● 羅臼町字湯ノ沢町
	9	維持管理	知床五湖園地	● 斜里町字岩尾別
	10	維持管理	北海道自然歩道(羅臼温泉遊歩道)	● 羅臼町字湯ノ沢町
	11	維持管理	羅臼温泉集団施設地区(羅臼温泉駐車場)	● 羅臼町字湯ノ沢町
	12	工事	羅臼川火山砂防事業	● 羅臼川河口から約3.4km上流の砂防えん堤(S39年設置)
	13	維持管理	知床公園線線災害防除事業	● 斜里町岩尾別(カムイワッカ)
	14	維持管理	知床公園羅臼線防雪事業	● 羅臼町相泊
北海道開発局	15	工事	一般国道334号斜里町岩尾別法面对策外一連工事	● 国道334号斜里町岩尾別
	16	工事	一般国道334号斜里町岩尾別法面对策外一連工事	● 国道334号斜里町岩尾別
	17	工事	一般国道335号羅臼町礼文擁壁設置工事	国道335号羅臼町礼文町
	18	工事	直轄特定漁港漁場整備事業(羅臼地区)地区	羅臼漁港
	19	工事	直轄特定漁港漁場整備事業(ウトロ地区)	ウトロ漁港
斜里町	20		しれとこ100平方メートル運動地防鹿柵設置	● しれとこ100平方メートル運動地内(岩尾別台地)
	21		しれとこ100平方メートル運動地旧開拓家屋修繕工事	● しれとこ100平方メートル運動地内(幌別台地)
	22		イワウベツ川導水管ダム改修事業	● 赤イ川(イワウベツ川支流)
	23		イワウベツ川河口部土砂除去作業	● イワウベツ川河口

※ ●は世界自然遺産地域内

平成 21 年度以降は、世界自然遺産地域及び近接地域だけでなく、斜里町／羅臼町内（斜里町側：金山川以奥、羅臼町側：植別川以奥）において行った、世界遺産の保護管理に係る案件についても情報を収集する。

番号	1
事業名	知床世界遺産センター

○事業の背景・目的

- ・ 知床に住む動物の実物大の写真や、動物の痕跡の模型を展示し、知床の自然の素晴らしさと利用にあたって守るべきルール・マナーを伝えます。また、知床世界遺産の見どころや自然のリアルタイムの情報を発信するとともに、知床世界遺産の管理について最新の情報を提供します。

○事業実施体制

- ・ 環境省

○事業の概要

- ・ 新築工事（建物、外構、内部展示等）
- ・ 木造（大断面集成材）平屋建て

建築面積 990.07 m² 床面積 758.34 m²

○事業結果



○今後の予定

- ・ グリーン改修、駐車場整備、用地取得

○報告書等の有無・タイトル

- ・ 知床世界遺産センター新築工事竣工図
- ・ 知床世界遺産センター外構工事竣工図
- ・ 知床世界遺産センター展示工事竣工図

○事業費

- ・ 460,000 千円

○その他

番号	2
事業名	知床世界遺産ルサフィールドハウス

○事業の背景・目的

- ・ルサは羅臼側における世界遺産の核心部への入口にあたる。フィールドハウスは先端部利用者等に対し、世界遺産の普及啓発、先端部地区利用のマナー、野生生物との適切な接し方等について情報を提供する施設として整備する。

○事業実施体制

- ・環境省

○事業の概要

- ・新築工事（建物、外構、内部展示等）
- ・木造（大断面集成材）2階建て

建築面積 257.06 m² 床面積 263.92 m²

○事業結果



○今後の予定

- ・運営は北海道、羅臼町の協力を得て行う。また、本施設、知床世界遺産センター、羅臼ビジターセンターの3施設の管理運営については、知床世界遺産施設等運営協議会が平成21年度より発足する予定。

○報告書等の有無・タイトル

- ・ルサフィールドハウス新築工事竣工図
- ・ルサフィールドハウス外構工事竣工図
- ・ルサフィールドハウス展示工事竣工図

○事業費

- ・160,000千円

○その他

番号	3
事業名	知床五湖園地

○事業の背景・目的

- ・知床五湖において問題となっている様々な問題を踏まえ、知床五湖の利用適正化を図り、安定的な利用ができるよう環境省が平成17年度に整備した高架木道について、延長するもの。

○事業実施体制

- ・環境省（北海道施行委任）

○事業の概要

- ・高架木道：L=279m 中間展望台：1基 待避所：4箇所 電気柵施設：1式

○事業結果



○今後の予定

- ・高架木道：L=300m 最終展望台：1基 待避所：2箇所 電気柵施設1式
- ・レクチャー施設：1棟

○報告書等の有無・タイトル

- ・知床五湖園地工事竣工図

○事業費

- ・306,000千円

○その他

番号	4
事業名	羅臼温泉博物展示施設（新・羅臼ビジターセンター）

○事業の背景・目的

- ・平成 18 年度に建築工事が完了した羅臼ビジターセンターについて、19 年度に引き続き外構工事を実施した。

○事業実施体制

- ・環境省

○事業の概要

- ・外構工事（植栽工）

ハウチワカエデ、ヤマモミジ、イタヤカエデ、ハマナス、ハイマツなど

○事業結果



○今後の予定

- ・なし

○報告書等の有無・タイトル

- ・羅臼ビジターセンター外構工事竣工図

○事業費

- ・6,000 千円

○その他

番号	4
事業名	羅臼園地休憩所（旧羅臼ビジターセンター）

○事業の背景・目的

- ・旧羅臼ビジターセンターを調査研究・ボランティア活動・野生動物管理等の拠点として改修を行ったもの。また、太陽光発電等を設置しCO2削減対策を行ったもの。

○事業実施体制

- ・環境省

○事業の概要

- ・外壁塗装、内部改修、太陽光パネル設置

○事業結果



○今後の予定

- ・外構修景工事

○報告書等の有無・タイトル

- ・羅臼温泉園地休憩所省エネ対策工事竣工図

○事業費

- ・58,000 千円

○その他

番号	4
事業名	羅臼温泉博物展示施設（新・羅臼ビジターセンター）

○事業の背景・目的

- ・海の生態系の頂点に位置するシャチは羅臼沿岸でよく見られ、知床において生物の多様性が保たれていることが現れている。これらの豊かな自然を利用者へ広く周知するために羅臼町で座礁したシャチの骨格標本を設置したものの。

○事業実施体制

- ・環境省

○事業の概要

- ・シャチ骨格標本設置

○事業結果



○今後の予定

- ・なし

○報告書等の有無・タイトル

- ・羅臼温泉博物展示施設標本設置工事竣工図

○事業費

- ・13,000 千円

○その他

番号	4
事業名	羅臼温泉博物展示施設（新・羅臼ビジターセンター）

○事業の背景・目的

- ・海外からの利用の増加に伴い博物展示施設の展示について、国際化を求められており、映像展示について、既存映像を利用し国際化の対応を図ったもの。

○事業実施体制

- ・環境省

○事業の概要

- ・映像展示国際化

○事業結果



○今後の予定

- ・なし

○報告書等の有無・タイトル

- ・ガイダンス映像 10分（英語・韓国語・中国語（簡体）・中国語（繁体））

○事業費

- ・20,000 千円

○その他

環境省以外の関係機関についても、平成 21 年度以降に情報収集・整理を行う。

事業名	イワウベツ川導水管ダム改修事業
-----	-----------------

○事業の背景・目的

- 河川工作物の機能維持を前提とした、サケ科魚類の移動確保のための改良

○事業実施体制

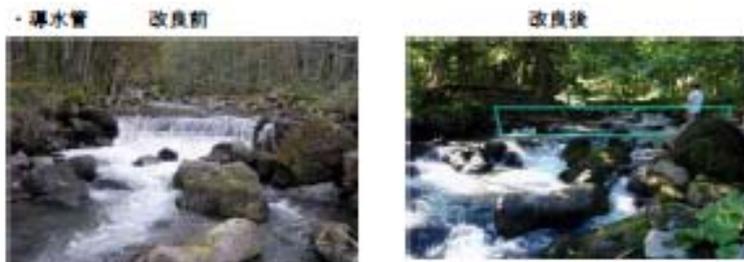
- 斜里町

○事業の概要

- 導水管の切り下げ

○事業結果

-



○今後の予定

-

○報告書等の有無・タイトル

○事業費

○その他

-

V 知床地域の保全管理の状況

1. 各種調査の実施状況

調査対象	調査項目	番号	調査名称等	調査内容	実施機関
エゾシカ	エゾシカの植生への影響把握	1	知床における森林生態系保全・再生事業(広域調査)	知床岬地区、知床岳周辺地区の2地区に(9本の)混合ベルト調査区を設置し、森林植生(林床草本含む)と採食圧を調査	林野庁
		2	知床沼・知床岳地区におけるエゾシカ採食圧調査	知床岳・知床沼地域等において植生の状況に応じた固定帯状区を設置し、毎月調査、林床植生調査、エゾシカによる採食痕を把握する。	環境省
		3	知床半島沿岸域希少・在来植物群落調査	2005-2007年度の海岸域における希少・在来植物群落の分布調査を補足し、定点モニタリングサイトとするため斜里側のカムイワッカから岬地区までの調査を実施(未完)。	環境省
		4	知床岬草原におけるエゾシカ採食量調査	イネ科草本、ササ群落等の植生タイプごとに調査枠を設置し、枠内外の植物量を刈り取り収量差により採食量を推定する。	環境省
		5	知床岬植生回復試験調査区モニタリング調査	3箇所の植生保護柵内外の方形区における出現種ごとの優占度、草本層の植被率及び群落高調査を実施する。	環境省
	6	エゾシカ季節移動調査	エゾシカの季節移動調査のための捕獲・標識付け	環境省	
	7	自然死個体数分析	自然死個体分析	岬における自然死個体数分析の実施(H20年度の春期の死亡確認個体数は3)	環境省
	8	航空センサによる生息動向の把握	航空センサを2~3月に実施。	環境省	
	9	シカ生息動向調査	ライトセンサ(日中センサ含む)による生息動向の調査	ルサ川から相泊川間(羅臼町・毎月)、峰浜地区(道・10月に一回)、幌別岩尾別地区(斜里町・春秋に5日ずつ)でのライトセンサ、真鯉地区(財団・2-3月随時)での日中センサを実施。	北海道・斜里町・羅臼町・知床財団
	10	密度操作実験に係わる調査	知床岬における密度操作実験(試験的捕獲)	知床岬でのエゾシカの密度操作実験の実施及び手法の検証	環境省
	11	隣接地区(真鯉地区含む)における狩猟による捕獲	エゾシカ可猟区における輪探制システム(輪探制)の試験的導入	北海道	
	12	土壌浸食状況調査	土壌浸食線変動状況調査	知床岬の台地縁部に設置した固定杭を目印として、土壌浸食線の変動状況を調査	環境省
ヒグマ	13	知床キムカムイプロジェクト(H18-20)、ルンシャ地区生息状況調査ほか	知床半島と隣接地域に生息するヒグマの個体行動圏や移動分散等を既存の標識個体(GPSテレメトリー)と過去の捕獲個体を含む体組織標本の分析(DNA分析)で解明する。その他、食性の変化、繁殖間隔などの把握も実施	知床財団	
	14	ヒグマの管理対策のための基礎的な情報収集	国立公園、市街地周辺での出没状況や公園利用者等との軋轢に関する現状の把握	環境省、知床財団	
外来種	15	アメリカオニアザミの駆除及び効果モニタリング(継続)	知床岬周辺でのアメリカオニアザミの分布状況調査や駆除作業、駆除箇所の経過観察、駆除作業の検証及びモニタリング体制の検討等を実施。	環境省	
	16	アライグマの侵入状況、捕獲調査	アライグマを対象に、侵入状況調査、被害状況調査を行うとともに、高密度かが予想される地域において箱ワナによる駆除を実施	環境省	
	17	知床連山登山道等におけるセイヨウオオマルハナバチの侵入状況調査 道路沿いにおけるジキタリス等外来植物の除去	セイヨウオオマルハナバチ、ジキタリス等の遺産地域内での分布状況把握及び簡易な駆除、並びに防除に受けた普及啓発を実施	環境省	
鳥類	シマフクロウ	18	繁殖個体数の確認、標識調査	シマフクロウの生息状況、繁殖状況を調査し、幼鳥に標識を装着	環境省
		19	巣箱改良(捕食者対策)	テンによる捕食を防ぐため、侵入防止のためのアタッチメントを試作、既存巣箱に設置	環境省
	海ワシ類	20	海ワシ類越冬個体数等調査	越冬個体数等調査として、オオワシ・オジロワシが利用している各地域の餌資源の種類をリストアップするとともに、おおまかに入手可能時期と量、利用している個体数等を明らかにする調査を実施(全道での調査)	環境省
		21	海ワシ類自然河川利用形態調査	ワシ類が実際に利用している餌場、止まり場、ねぐらについて、越冬期間中の時期ごとに調べ、それらの必要条件について明らかにする調査を実施。	環境省
		22	海ワシ類渡りルート調査	北海道におけるオオワシ・オジロワシの渡りルートに関する知見をとりまとめるとともに、オオワシの渡り状況について現地調査を実施(全道での調査)	環境省
		23	オジロワシ繁殖状況調査	北海道におけるオジロワシの営巣に関するこれまでの知見とりまとめ(全道での調査)	環境省
		24	海ワシ類冬期分布調査	斜里側知布泊~岩尾別、羅臼側麻布漁港~相泊において、冬期間月2~4回程度の海ワシ類分布調査を実施。	環境省
		25	オジロワシ・オオワシ飛来数調査	オジロワシ・オオワシの飛来時期に毎月2~3回、羅臼川から相泊川区間での海岸線における飛来数のカウントを実施。	知床財団
		26	オジロワシ・オオワシ一斉調査	オジロワシ・オオワシの飛来時期に年1回、植別川から相泊川区間での海岸線における飛来数のカウントを実施。	オジロワシ・オオワシ合同調査グループ
		27	知床半島緑の回廊における猛禽類調査	クマタカ等の生息エリアの特定と営巣状況に関するデータ把握	林野庁
28	ケイマフリ生息調査	ケイマフリの生息海域の分布や繁殖地等の生息状況調査。また、遊覧船等の航路調査や遊覧船等の影響を受ける可能性のある海域での海鳥の分布状況調査等	環境省		
29	知床岬における鳥類相モニタリング等調査	生態系の回復具合を判定する指標の一つとなりうる鳥類相を対象として、生態系の変化と鳥類相との相関に係る調査を実施。また、知床岬における鳥類相の効率的かつ効果的で定量的な調査手法の検討	環境省		
植物	30	知床半島沿岸域希少・在来植物群落調査(再掲)	2005-2007年度の海岸域における希少・在来植物群落の分布調査を補足し、定点モニタリングサイトとするため斜里側のカムイワッカから岬地区までの調査を実施(未完)(再掲)	環境省	
	31	植物種インベントリ作成	北海道大学総合博物館所蔵の知床半島における植物標本の整理を行い、知床半島における植物種のインベントリを作成する。	環境省	
	32	シレットコスミレの分布	平成19年度に実施した現存量調査に続き、硫黄山のシレットコスミレ分布地において登山道周辺、分布の中心、ハイマツ辺縁の3地点のモニタリングサイトを選定し、個体数と密度、およびサイズ分布を計測する。	環境省	
	33	知床岬先端部の植生図(1/5000)の作成	知床半島(知床沼以北)の植生図を作成するための調査を実施	林野庁	
利用圧調査	34	知床沼・知床岳地区における荒廃地点調査(上記のエゾシカ採食圧調査を兼ねる)	知床沼・知床岳の登山道荒廃地点に設定した5ヶ所のモニタリングサイトで確認調査	環境省	
	35	知床国立公園の利用実態調査	赤外線カウンター、現地調査等により、知床五湖等の利用拠点、知床岬等の先端部、河口部(のさけ・マス釣り等)、海域等における利用実態把握により、利用者の動向や利用による自然環境への影響を把握	環境省	

調査対象	調査項目	番号	調査名称等	調査内容	実施機関	
陸水域生態系	河川工作物	36	河川工作物の影響評価に資するための調査(河川環境、土砂動態)及び改良によるサケ科魚類の遡上効果の確認	WGの意見を踏まえた河川工作物の影響評価に資するための調査(河川環境、土砂動態及び遡上率、産卵状況等)	林野庁、北海道	
	生態系	サケ科魚類状況調査	37	平成20年度は休止(隔年実施)		北海道
		海域から陸域への物質輸送	38	カラフトマス・シロザケを捕食するヒグマの生態	年齢および社会的な関係で変化するヒグマの個体ごとのカラフトマス・シロザケを捕食する生態の調査	野生鮭研究所
			39	ヒグマなどによるカラフトマス、シロザケの被捕食量に関する研究	河川に遡上するカラフトマス・シロザケの量に対してヒグマなどが捕獲する量を算定する調査	野生鮭研究所
	40	サケ属魚類の河川遡上動態と陸域生態系への物質輸送に関する調査	主にルシヤ川を対象としてサケ属魚類(カラフトマス)の産卵遡上動態を明らかにするとともに、サケ属魚類による海起源物質の陸域生態系への運搬過程を明らかにする。カラフトマスの遡上数と産卵床数の評価技術の確立、河川内に生息するオシロココマや水生昆虫、ヒグマやヤナギ等の陸上動物の安定同位対比分析を実施する。	環境省		
外来種	外来魚の侵入状況	41	ニジマスやブラウントラウトなどの外来種の侵入状況を把握する調査	遺産地域内とその周辺河川において、潜水目視観察を実施し、外来魚の有無を調査(10月までに3河川で実施)	知床財団	
海域生態系	インベント	海の生物相調査	42	知床沿岸の浅海域生物相の把握	知床半島の浅海域を対象とした魚類、無脊椎動物および海藻・海草類の採集調査(同時に岩礁潮間帯において貝類の定量調査を実施)	環境省
			43	水中ロボット(ROV)を用いた生物群集のモニタリング	北海道大学大学院水産科学研究院のROVを用いて人間による直接的な観察が困難である水深帯の海底環境や分布生物を水中ロボットにより観察し映像として記録する。半島周辺海域に設定した6点程度で水深帯別の観察・記録を行う。	環境省
	海藻・海草類	海藻・海草類分布調査	44	コブ類分布状況調査	基礎生産を担うコブ類の分布状況を音響機器を使用して調査するとともに、簡便なコブ類の現存量把握の手法を確立する。	環境省、知床財団
	海棲哺乳類	海棲哺乳類調査	45	海棲哺乳類生息状況調査	ラインセンサスによる海棲哺乳類の分布域、個体数、生態等について把握するための生息及び回遊実態等調査	北海道
	魚介類	生態調査	46	主要魚種の食物関係調査	知床海洋生態系の主要構成生物である魚類の胃内容分析を実施し、種間関係の重要な要素である食物関係を明らかにする。	環境省、知床財団
			47	パイオロギングによるカラフトマス、シロザケの移動生態調査	海域管理計画の指標種の生態解明のため、指標種であるカラフトマス及びシロザケの沿岸来遊時における移動特性をデータロガー、標識放流などの手法によって明らかにする	環境省
		漁獲量調査	48	北海道水産現勢	主要な魚介類の漁獲統計調査	北海道
	海洋環境	海洋環境調査	49	アيسアルジー調査	平成21年2月から3月にかけて、10日間ほどオホーツク海流内水の生物学的調査(種組成、色素組成、DNA、生理活性等)を行う。	服部委員
			50	羅臼沖の深海域における栄養塩類および動物プランクトン調査	動物プランクトンの出現種の特徴及び季節変化を把握し、モニタリング手法を確立する。また、羅臼町が月1回採集している深層水の栄養塩類濃度データをもとに、季節・年変化の特徴を調べ、表層域におけるイベントとの関連を把握することにより、海洋環境の簡便なモニタリング手法を検討する。	環境省
			51	衛星画像及び船舶を使用した現場観測による海洋環境及び低次生産の変動に関する調査	根室海峡からオホーツク海、そして太平洋の一部に至るまでの海表面水温及びクロロフィルa濃度、流水分布等の1990年代から2008年1月までのデータを衛星リモートセンシングにより収集し、海洋環境及び低次生産の変動を把握する。	環境省
	沿岸海洋観測	52	水温・塩分・クロロフィルなど海洋観測ブイ設置	様々な海洋生物の動態に影響する環境変動を把握するための基礎となる環境要因データをウトロ沖と羅臼沖の各1定点にて収集	環境省	
その他	データベースの整理及びGIS等による統合	53	データベースの拡充	前年度までの各種モニタリング等調査結果を追加し、必要に応じて各種計画策定に必要な図面を提供する。	環境省	
	モニタリング指標の開発	54	長期的モニタリング項目の検討	遺産地域の自然環境を適切に管理する上で重要な指標や水準を開発する。	環境省	

※ 各機関が実施した調査事業の一覧は、参考資料を参照

番号	2, 4, 5, 12
事業名	平成 20 年度 グリーンワーカー事業（知床半島におけるエゾシカの植生への影響調査事業）（Green Worker Program ～）

○事業の背景・目的

- 知床半島では、1980 年代よりエゾシカが急速に増加している。高密度のエゾシカによる採食圧は、知床世界自然遺産地域の自然環境に様々な影響をもたらしており、エゾシカの高密度状態がさらに長期化する場合、希少植物種の絶滅、高山植生への影響、急傾斜地の土壌浸食等が懸念されている。
- エゾシカの採食圧等による在来植生への影響について、知床半島の一部地域に関しては、植生変化の危機的状況が認識されているが、知床半島全体が網羅的に把握されておらず、必ずしも十分な状況とは言えない。また、土壌流出の実態についてもその定量的な把握が必要とされている。
- 本業務では、知床岬地区の植生保護柵内外の植生調査を行うとともに、当地区周辺の土壌浸食の状況を把握し、これまでエゾシカの採食圧の把握がされてこなかった知床岳、知床沼地域におけるエゾシカの採食圧を植生調査および採食痕の確認により明らかにすることを目的とする。

○事業実施体制

- 本調査は、環境省からの委託事業として財団法人知床財団が実施したものであり、各種調査については多分野の研究グループとの協力のもとに行われた。各調査（略称）の研究代表者と所属は以下の通りである。
- 知床岳・知床沼地域等における植生・エゾシカ採食圧調査：石川幸男（専修大学北海道短期大学みどりの総合科学科）
 - 植生保護柵内外の植生回復状況調査：村上智子（村山ギソー株式会社）
 - 草原におけるエゾシカ採食量調査：宮木雅美（北海道環境科学研究センター）
 - 土壌浸食状況把握調査：財団法人 知床財団

○事業の手法・概要

- 知床岳・知床沼地域等における植生・エゾシカ採食圧調査：高山帯および落葉広葉樹林帯においてモニタリングサイトを設定し、植生調査を実施するとともに、エゾシカによる被食状況等を記録した。
- 植生保護柵内外の植生回復状況調査：知床岬地区に設置されている 3 箇所の植生保護柵の内外において植生調査を実施した。
- 草原におけるエゾシカ採食量調査：植生タイプ毎に調査枠を設置し、枠内外の植物を刈り取り、収量差により採食量を推計した。
- 土壌浸食状況把握調査：土壌浸食が生じている地点の分布および該当地点の浸食線の変化状況について、追跡調査を実施した。

○事業の結果

- 知床岳・知床沼地域等における植生・エゾシカ採食圧調査：
 - 知床沼では、登山者による踏みつけおよびエゾシカによる踏みつけと採食が原因と考えられる植生の著しい衰退が一部で確認された。
 - 知床沼に至るルート上、標高 400m 地点では、エゾシカによる採食痕は確認されなかったものの、林床の状況などからエゾシカによる採食圧が強く生じていると推測された。
- 植生保護柵内外の植生回復状況調査：
 - ガンコウランの株面積が増大するなど、緩やかではあるものの、いずれの柵内においても在来種が回復している状況が確認された。
- 草原におけるエゾシカ採食量調査：
 - 2008 年のイネ科草本の生産量は 2007 年の約 1.2 倍、採食量は 0.9 倍となった。また、草原のクマイザサの高さと被度は、2007 年と比較し、ともに増加した。いずれも草原部におけるエゾシカの利用が減少したことを示唆する結果となった。
- 土壌浸食状況把握調査：
 - 顕著な浸食線の海側への後退、または山側への進行は見られなかった。土壌露出部分に関しても、ほとんど変化は見られなかった。

番号	15
事業名	平成 20 年度 国立公園等民間活用特定自然環境保全活動（グリーンワーカー）事業 知床岬における外来種対策業務（Eradication program of exotic plants (thistle) in Cape Shiretoko, 2008.）

○事業の背景・目的

- 知床岬地区においてアメリカオニアザミは群落を形成するまでに至り、従来の貴重な植生に対して重大な影響を与えることが懸念されていた。本事業は、同地区の生物多様性を保全する目的で、本種の駆除作業を行った。
- 平成 16 年度から平成 20 年度までの事業の 5 年目にあたる。

○事業実施体制

- 本事業は、環境省からの請負事業として財団法人知床財団が実施したものである。

○事業の手法・概要

- 知床岬地区において、開花直前期から開花晩期（7 月下旬から 9 月下旬）にかけて計 5 回 90 人日で駆除作業及び分布状況調査を行った。
- 駆除作業は、機械刈り及び手刈りとし、知床岬地区を 7 区画に分けて各区画で 2～4 回の刈り取りを行った。なお、刈り取り部位は再生株となるのを防ぐために、再生が始まる部位よりも根に近い部分（地表面以下）とした。
- 分布状況調査は、知床岬地区を踏査することにより、本種の分布状況を把握した。

○事業の結果

- 分布域の拡大は 2005 年以降において確認されていない。
- 本種の特に生育密度が高い場所（高密度分布域）は、2006 年から 2007 年の間に大規模な縮小が確認されたが、2007 年から 2008 年の間においてもその状態が維持されたか、もしくはさらに縮小・消滅した。ただし、一部岩礫に富んだ土壌では高密度分布域は縮小していなかった。その理由として、地表面以下での刈り取りが困難な結果、再生株が出現し種子生産されたことが考えられる。
- 各区画において、花茎が立ち上がった株のほとんどを刈り取ることができたため、来年度はさらなる高密度分布域の縮小・消滅が期待される。

番号	17
事業名	平成 20 年度国立公園等民間活用特定自然環境保全活動（グリーンワーカー）事業 知床国立公園及びその周辺部セイヨウオオマルハナバチ生息状況監視・防除体制構築 業務（Establish of monitoring system and management team for exotic <i>Bombus terrestris</i> in Shiretoko National Park and its surrounding area.）

○事業の背景・目的

- 本事業は、知床国立公園内の在来マルハナバチや植物など、既存の生態系に悪影響を及ぼす可能性が示唆されているセイヨウオオマルハナバチ（以下セイヨウ）を対象に、野外からの完全排除又は影響の低減化を長期目標とし、生息域の拡大、新規侵入および定着を阻止するため、生息状況の監視・防除体制を構築し、国立公園内における防除推進に資するものとした。

○事業実施体制

- 本事業は、環境省からの請負事業として財団法人 知床財団が実施したものである。

○事業の手法・概要

- 生息状況調査：斜里町と羅臼町において、道路沿いの花壇や開花植物の群落を中心にセイヨウを探索し、捕獲した。
- 講習会の実施：地元住民を対象に、セイヨウの識別法や捕獲手法など、監視および防除に対する普及活動を目的とした講習会を実施した。
- 市民によるセイヨウオオマルハナバチの監視・防除の実施：講習会の参加者の中から希望者を募って登録制とし、登録者よりセイヨウの目撃および捕獲結果を収集した。
- 情報のとりまとめ・公開：登録者や関係機関より得た情報を集約し、情報を公開するための基礎資料を作成した。

○事業の結果

- 生息状況調査：
 - 86 頭（国立公園内 2 頭、周辺部地域 84 頭）のセイヨウを捕獲した。
 - 知床岬先端部の台地上にて、セイヨウを 2 頭捕獲した。
- 講習会の実施：
 - 41 名（斜里町 30 名、羅臼町 11 名）が参加した。
 - 10 頭（斜里町 5 頭、羅臼町 5 頭）のセイヨウを捕獲した。
- 市民によるセイヨウオオマルハナバチの監視・防除の実施：
 - 登録者は 26 名（斜里町 15 名、羅臼町 11 名）であった。
 - 51 件 440 頭のセイヨウの捕獲報告を受けた。
 - 営巣地を 2 か所（斜里町 2 か所）確認した。
 - 国立公園内での捕獲報告は 2 頭（斜里町 1 頭、羅臼町 1 頭）であった。
 - エゾオオマルハナバチの錯誤捕獲が 1 頭（錯誤率 0.3%）あった。
- 情報のとりまとめ・公開：
 - 各月の生息状況調査、登録者からの活動結果および環境省が独自に収集した捕獲情報を整理集約し、環境省へ報告した。最終的な捕獲総数は 536 頭（国立公園内 4 頭、周辺部地域 532 頭）であった。
 - リーフレット（講習会および調査結果のまとめ）を作成し、登録者および関係者へ配布した。

○今後の予定

- 本事業は単年度で終了するが、セイヨウの監視および防除体制の維持は必要不可欠であるため、今後も北海道など関係行政機関や地元協力者との連携をとりながら、監視と防除を継続する必要がある。

番号	29
事業名	平成 20 年度国立公園等民間活用特定自然環境保全活動（グリーンワーカー）事業 知床岬における鳥類相モニタリング等業務（Monitoring of bird community structure at Cape Shiretoko, 2008）

○事業の背景・目的

- 知床岬の生態系は、増加したエゾシカによる採食や樹皮剥ぎにより壊滅的なダメージを受けている。環境省ではエゾシカの密度操作実験など生態系復元に向けた各種事業に取り組んでいるが、今のところ生態系の回復具合を判定するための指標は植生のみである。
- 本調査は、生態系の回復具合についてよりの確な判定を行うため、鳥類相が新たな指標となりうるかを検討することを目的とする。
- 20 年度の単年度事業である。

○事業実施体制

- 本調査は、環境省からの請負事業として財団法人 知床財団が実施したものである。

○事業の手法・概要

- 以下の調査により、知床岬の生態系の健全度を測る指標として鳥類相が位置づけられるか検証するとともに、鳥類相の効率的かつ効果的、定量的な調査手法の検討を行う。
（1）文献調査 （2）聞き取り調査 （3）試行的な現地調査

○事業の結果

調査により、以下の結果が得られた。

- 長期モニタリング項目の 1 つとして鳥類相は採用可能。いくつかの指標種の生息密度変化を繁殖期にモニタリングすることが考えられる。
- 知床岬先端部における鳥類調査の手法としてはラインセンサス法が適している。
- 信頼性の高いデータの蓄積には、1 繁殖期に間をあけて 3 回以上、岬滞在 1 回あたり複数回（2 日以上）の調査が必須である。
- 越冬地や渡り中継地としての資質を検討するためには他の手法が必要である。

○今後の予定

- 21 年度は国土地理院、酪農学園大学との共同研究として継続予定

番号	42
事業名	平成 20 年度 知床半島沿岸における浅海域生物相調査業務 (Fauna and flora survey project of the shallow sea area along the Shiretoko coast)

○事業の背景・目的

- 知床は、日本の世界自然遺産地域としては初めて海域（距岸 3 km）が含まれており、生物多様性が遺産登録基準の一つとなっている。本調査は、知床半島沿岸の浅海域において、生物相の現状を記録すること、および多様性を定量的に記録することを目的としている。本調査は、平成 18 年度に開始され 3 年目であるが、平成 18 年度は別の事業内（平成 18 年度知床世界自然遺産地域生態系モニタリング調査事業）の一調査として実施され、平成 19 年度から本事業として開始されて 2 年目となっている。終了予定は平成 21 年度である。

○事業実施体制

- 本調査は、環境省の請負事業として財団法人知床財団が実施したものである。
- 現地調査および報告書の取り纏めは、北海道大学大学院水産科学研究所の矢部 衛教授（魚類）、北海道大学総合博物館の阿部剛史助教（海藻類）北海道大学大学院理学研究所の小亀一弘准教授（海藻類）、北海道大学大学院水産科学研究所の五嶋聖治教授（無脊椎動物）、東京農業大学生物産業学部の園田 武講師（無脊椎動物）、及び東京農業大学生物産業学部の千葉 晋准教授（貝類定量調査）の協力を得て実施した。

○事業の手法・概要

- 2008 年の調査は 6 月、9 月および 11 月に、知床岬先端部付近を含む半島の両側を対象として岩礁潮間帯、潮下帯および砂浜において実施した。採集は、魚類、海藻類および無脊椎動物を対象とし、タモ網やピンセット、ヘラ、地引網等で行った。定量調査は貝類を対象とし、50×50cm の方形枠を使用し、枠内の種別個体数を計数した。

○事業実施の状況

- 0 海藻類に関しては、2006、2007 年の両年で、計 94 種の生育を確認した。2008 年の調査により、緑藻シリオミドロ・エゾミル、褐藻ホソエゾフクロ・ウイキョウモ・ハバダマシ・コンブモドキ、紅藻ウップルイノリ・ワツナギソウ・エンドウイトグサ・ショウジョウケノリを新たに加え、計 104 種の生育を確認することができた。北海道大学理学部植物学教室のグループにより 1967 年から 1970 年にかけて半島東岸に重点を置いた詳細な調査で確認された約 130 種と本調査で確認した 104 種について整理すると、知床半島沿岸域に生育する海藻類の種数は 142 種となった。
- 無脊椎動物に関しては、2006、2007 年の両年で、軟体動物門 50 種、環形動物門多毛類 11 種、節足動物門甲殻類 23 種の計 84 種を確認した。2008 年の調査で、刺胞動物門 4 種、触手動物門 2 種、扁形動物門 1 種、軟体動物門 11 種、環形動物門 6 種、紐型動物門 1 種、星口動物門 1 種、節足動物門 44 種、棘皮動物門 9 種など計 79 種が新たに確認され、これまで 3 年間の調査で計 163 種を確認することができた。
- 魚類に関しては、2006、2007 年度の両年で、9 目 25 科 86 種の生息を確認したが、2008 年度の調査で未同定種 2 種を含む 8 種が新たに確認され、合計で 10 目 7 科 94 種になった。今年度に新たに確認された種はウグイ、キツネメバル、ハコダテギンポ属の 1 種、アゴハゼ、タウエガジ属の 1 種、ヒラメ、マコガレイおよびクロガシラガレイである。1990 年代に斜里町を中心に実施された魚類採集調査、および 2001 年までに斜里町立知床博物館に持ち込まれた標本を整理すると知床半島沿岸域から確認された魚類は 223 種であった。これらの種に加え、2002 年以降に斜里町立知床博物館に持ち込まれた標本、および 3 年間にわたる本調査結果で採集した魚類を整理すると 264 種が知床半島沿岸域から確認されたことになる。
- 定量調査では、3 綱 7 目 11 科 11 属の貝類が観察された。2008 年調査における出現種数を 2007 年 5 月調査、および 2007 年 8 月調査とそれぞれ比較したところ、いずれの調査期および調査地においても、2 種以内の増減であった。調査地と出現種の関係は種ごとに異なっており、例えばクロタマキビは本調査の全調査地で観察されたが、ノミハマグリは羅臼側の化石浜、相泊、サシルイでのみ観察された。また、ムラサキガイ類は、ウトロ側のチャシコツ崎と半島先端部の文吉湾以外では出現していなかった。これはコドラートがパッチ状分布を捉えていなかった可能性があるが、調査地と出現種の関係は、2007 年までの調査とほぼ一致しているため、コドラート内で出現しなかった種の個体数は、出現した種に対して、相対的に極めて少ないと考えられた。

○今後の予定

- 平成 21 年度には、年 1 回の現地採集調査を実施するとともに、4 年間の総括を行う予定。

番号	52
事業名	平成 20 年度知床半島沿岸域における海洋観測ブイを用いた海洋観測等に係る業務

○事業の背景・目的

- 知床は、北半球で最も低緯度に位置する季節流氷域であり、海洋生態系と陸上生態系の相互関係の顕著な見本であるとともに、世界的に希少な鳥類を始めとする多くの動植物の生息・生育にとって重要な地域である。
- 本地域沿岸における水温、塩分、クロロフィル等の基礎的環境データを継続的に収集することは、地球温暖化の影響評価、海域における各種研究及び管理、サケマス研究などの水産資源管理に資するものであり、知床世界自然遺産地域の海域管理計画に位置付けられた各種施策を実施していく上で重要な基礎データとなる。
- そのため、本業務は平成 18 年度および平成 19 年度に整備した海洋観測ブイ 2 基を用いて海洋観測等を行うものである。

○事業実施体制

- 本調査は環境省からの請負事業として（株）エコニクスが実施したものである。海洋ブイの設置等にはウトロ漁業協同組合及び羅臼漁業協同組合の協力を得て実施した。また、観測に用いた海洋ブイは北翔電子製のものである。

○事業の手法・概要

- 北海道斜里郡斜里町ウトロ沖、北海道目梨郡羅臼町トッカリムイ沖およびキキリベツ沖にて下記調査を実施した。また、有識者へのヒアリングを実施した。

調査年度	設置箇所	水温	流向・流速	塩分	クロロフィル
20 年度	ウトロ側	1、5、10、15、20、25、30、35m	5、20m	5m	5m
	羅臼側	1、5、10、15、20、25、30、35m	なし	5、25m	5、25m

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
現地観測												
ウトロ側		設置	点検・清掃				回収・搬送					
羅臼側	設置	回収	補修	再	設			回収・搬送				

- 観測結果について報告書を参照のこと。有識者へのヒアリング結果は下記のとおり。

知床観測ブイに関するヒアリング結果のまとめ

まとめ
(1)サケ稚魚の放流時期の判断には水温を用いるのが妥当で、現在の観測方法（位置、層など）が良い。
(2)クロロフィルはヒドロ虫の付着による異常値が多いため、観測方法や維持管理方法を検討した方が良い。
(3)同じくクロロフィルは採水等でデータの校正をする必要がある。
(4)人工衛星データ、他の期間のデータと統合することにより価値を高める事ができる。
(5)地球温暖化のモニターとしては現時点では利用しづらい
(6)ホタテガイ、スケトウダラなどの資源生物の初期成長の研究にも利用できる可能性がある。
(7)貴重なデータなので長く続けることが重要である。

○今後の予定

- 平成 21 年度も実施。

2. 巡視活動の状況

区分	環境省	林野庁	北海道
巡視区域	知床世界遺産地域	知床世界遺産地域及び隣接地域	知床世界遺産地域及び隣接地域（斜里・羅臼町内）
巡視体制	環境省職員 4 人 アクティブレンジャー *1 4 人 サブレンジャー *2 人 自然公園指導員 *3 人 国指定鳥獣保護区管理員 *4 2 人	林野庁職員 人 グリーンサポートスタッフ *5 人	自然保護巡視員 *6 6 人 鳥獣保護員 *7 4 人
巡視実績	環境省職員 延べ 119 人日 アクティブレンジャー 延べ 483 人日 サブレンジャー 延べ 人日 自然公園指導員 人日 国指定鳥獣保護区管理員 延べ 人日	林野庁職員 延べ 人日 グリーンサポートスタッフ 延べ 人日	自然保護巡視員 延べ 163 人日 鳥獣保護員 延べ 115 人日
巡視内容	適正な利用や管理についての指導や施設の点検、清掃等	森林現況の把握、標識等の点検・修理、美化啓発、山火事予防啓発、危険木の処理等の国有林の管理及び入林者の指導	適正な利用や管理についての指導

*1 アクティブレンジャー：環境省職員（自然保護官）の業務を補佐する職員。

*2 サブレンジャー：利用者が集中する夏期に雇用する巡視員（カムイワッカ地区）。

*3 自然公園指導員：随時利用者等への指導を行い、あわせて適切な情報の収集を行うボランティア。

*4 国指定鳥獣保護区管理員：密猟の防止等のための巡回、利用者の指導、鳥獣の生息状況の調査等を行うため委嘱。

*5 グリーンサポートスタッフ：「森林・登山道等の植生荒廃等把握のための巡視」、「植物などの観察」、「観光客などの入り込み者へのマナー指導や普及啓発活動」などの森林保護活動を行うために雇用した臨時職員。

*6 自然保護監視員：施設の維持管理・衛生状態・利用状況等の管理に関する業務、標識の保全に関する業務を実施

*7 鳥獣保護員：鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律により設定された道指定鳥獣保護区、特定猟具使用禁止区域（銃）・猟区を監視する業務、狩猟の取締及び狩猟者の指導を実施

林野庁の実績については、平成 21 年度以降、情報収集・整理を行う。

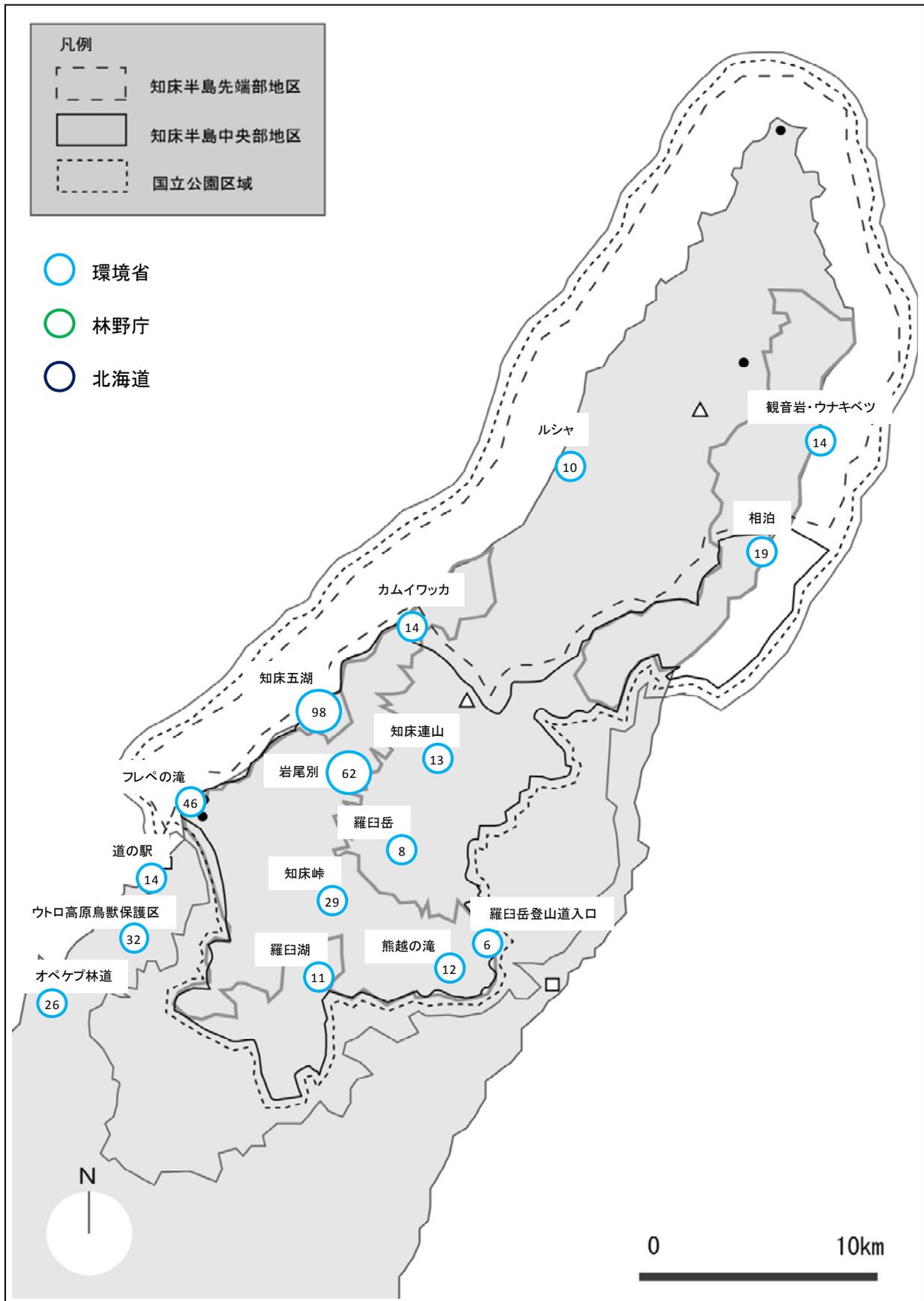


図 巡視箇所位置図

(1) 環境省

表 月別・箇所別巡視回数

巡視等箇所		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ウトロ自然保護官事務所	フレベの滝	2	5	4	4	6	5	6	3	5	2	3	3	48
	知床五湖	6	17	6	12	22	16	11	8	0	0	0	0	98
	知床連山登山口(岩尾別口)	2	5	4	11	16	8	7	6	3	0	0	0	62
	羅臼岳・知床連山	0	1	1	4	5	0	0	0	0	0	0	0	11
	カムイワッカ	0	1	0	4	6	3	0	0	0	0	0	0	14
	知床峠	2	2	3	4	5	5	3	0	0	0	0	0	24
	国指定知床鳥獣保護区	1	2	2	3	4	3	3	3	4	2	5	2	34
	遠音別原生自然環境保全地域付近 (オベケブ林道)	0	1	5	3	3	4	2	4	4	0	0	0	26
	ルシヤ	0	1	1	2	2	2	1	1	0	0	0	0	10
	知床岬	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	海鳥等油被害状況確認調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	4	4	13
	オジロワシ・オオワシ飛来状況調査	4	0	0	0	0	0	0	4	4	3	4	2	21
	冬期利用状況調査	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	3	10
	セイヨウオオマルハナバチ防除活動	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
	その他	2	4	4	2	10	2	1	2	0	0	1	0	28
羅臼自然保護官事務所	羅臼湖	1	1	3	1	1	2	1	1	0	0	0	0	11
	羅臼岳	2	1	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	8
	知床連山登山口(湯ノ沢口)	0	0	0	2	1	1	1	1	0	0	0	0	6
	観音岩・ウナキベツ	0	2	2	2	2	2	2	1	0	1	0	0	14
	熊越の滝	1	2	0	1	1	1	1	2	1	1	0	1	12
	相泊	3	2	1	2	2	1	2	3	1	1	1	0	19
	知床峠	0	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0	0	5
	知床連山	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	冬期利用状況調査	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
	知床岬	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	オオワシ・オジロワシ飛来状況調査	0	0	0	0	0	0	0	1	3	5	5	4	18
	外来種駆除活動(羅臼町内)	0	0	0	2	1	3	1	0	0	0	0	0	7
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	

※羅臼自然保護官事務所の知床連山巡視2回は、いずれもウトロと合同

表 巡視箇所の説明

	巡視箇所	内容
ウトロ自然保護官事務所	フレベの滝	知床国立公園の利用拠点であるため、週に1回程度巡視を実施。利用状況の確認、自然情報の把握、利用者カウンターの設置及び管理、施設の状況確認等を実施。
	知床五湖	知床の最大の利用拠点でもあり、環境省の直轄施設の高架木道があるため、ハイシーズンには1日おき程度に巡視を実施。利用状況の確認、自然状況の把握、利用者カウンターの設置及び管理等を実施。
	知床連山登山口(岩尾別口)	利用者カウンターの設置及び管理、登山口掲示板での情報提供、携帯トイレ回収ボックスの利用状況確認、また、登山口へのアクセス路の岩尾別温泉道路でのキャンパー指導、ヒグマ撮影目的のカメランへの注意喚起等を実施。
	羅臼岳・知床連山	利用者の多い羅臼岳登山道の巡視は月2回程度(縦走路の巡視とあわせて行ったものも含む)、縦走路は月1回程度実施。利用状況の確認、登山道・野営地の状況確認、定点観測調査、標識・フードロッカー等の施設の確認、トイレ紙拾い、自然情報の収集等を実施。
	カムイワッカ湯の滝	シャトルバス運行期間中(7月13日～9月20日)、週に1回程度実施。1の滝までの利用状況の確認、自然情報の収集等。
	知床峠	羅臼岳や国後島が見渡せる景勝地であるため、滞在時間は短い利用者が多い地区。週に1回程度巡視を実施。利用状況及び施設の状況の確認、ゴミ拾い、自然情報の収集。
	国指定知床鳥獣保護区	国指定知床鳥獣保護区のうち、国立公園からは外れて、飛び地になっているウトロ高原周辺地域について、利用者(特に狩猟者)の状況や自然状況の把握を実施。
	遠音別原生自然環境保全地域付近(オベケブ林道)	遠音別原生自然環境保全地域の隣接地域を走る林道について、車の乗り入れの状況や、自然状況を把握。
	ルシャ地区	鳥獣保護区の特別保護指定区域として、車の乗り入れや写真の撮影が禁止されている地域であり、利用の心得においても立ち入り・野営禁止とされているルシャ地域について、利用の痕跡(轍の跡)や自然状況を把握。
	知床岬	年に1回、関係機関等による合同巡視を実施し、自然状況、利用状況等を確認。(このリストに、他の調査への同行や、許認可の状況確認調査は含まない。)
	海鳥等油被害状況確認調査	ウトロ港、幌別海岸、岩尾別海岸等において、油の流出、海鳥の死体の漂着、油燻した海鳥がないかを確認。油の付着した海鳥の漂着が多いとされる冬期を中心に実施し、その他の時期は、近隣で海鳥の異常についての情報があつた場合に実施。
	オジロワシ・オオワシ飛来状況調査	知布泊港～岩尾別ゲート間の国道、道道沿線において確認できる、オオワシ・オジロワシの個体数をカウント。オオワシ・オジロワシの越冬期間である11月～4月に実施。
	冬期利用状況調査	100㎡運動地のスキーコース入り口、フレベの滝遊歩道入り口自然センター裏駐車場(男の涙方面)、道道の岩尾別ゲート(知床五湖方面、岩尾別登山口方面)において、スノーモービルの乗り入れが行われていないかを確認するとともに、その他の利用の形跡(足跡)
	セイヨウオオマルハナバチ防除活動	通常の巡視箇所からは外れているが、セイヨウオオマルハナバチが比較的多く確認されているウトロ市街地においてセイヨウオオマルハナバチの防除を実施。
その他	国立公園区域外の利用地域(オシンゴシンの滝、オロンコ岩等)や、国立公園内でも利用者が少ない地域(ポンホロ沼、男の涙等)については、不定期に巡視を実施。	
羅臼自然保護官事務所	羅臼湖	月2回程度、利用者カウンターの設置及び管理、ならびに利用状況及び自然状況を確認。その他、関係機関との歩道維持管理活動も実施。
	羅臼岳	登山道巡視を月2回程度(11月～3月は除く)実施。登山道の利用状況、登山道及び野営地、標識・フードロッカー等の施設やトイレ痕の状況を確認する他、自然情報の収集等を実施。その他、迷い込み防止ロープ設置なども実施。
	知床連山登山口(湯ノ沢口)	利用者カウンターの設置及び管理のほか、入山簿記入状況及び携帯トイレ回収ボックスの利用状況の確認、ならびに登山口掲示板での情報提供。その他、羅臼温泉キャンプ場の利用状況を把握し、必要に応じ利用者への指導を実施。
	観音岩・ウナキベツ	利用者カウンター(知床半島先端部地区の利用者数把握)の設置及び管理のほか、海岸線利用状況及び自然状況を確認。月2回程度。
	熊越の滝	利用者カウンターの設置及び管理のほか、利用状況の把握、自然状況を確認。冬期(11月～4月)は下流の河川敷にも巡視範囲を広げ、飛来する水鳥の鳥インフルエンザ発生状況を監視。月2回程度。
	相泊	湯ノ沢～相泊までの道道87号線(知床公園羅臼線)沿いの施設状況、自然状況、利用者状況を確認するほか、特に国指定知床鳥獣保護区については、狩猟の状況や制札の状況確認及び管理を実施。月2回程度。
	知床峠	羅臼岳や国後島が見渡せる景勝地であるため、滞在時間は短い利用者が多い地区。利用状況の確認、施設の状況確認、ゴミ拾いなど。月2回程度実施。
	知床連山	羅臼岳～硫黄山。利用が最も集中する時期に、登山道、野営地の利用状況の把握、利用者指導、フードロッカーの利用確認、定点撮影調査、トイレ痕の状況確認及びゴミ回収などを実施。
	冬期利用状況調査	遠音別原生自然環境保全地域へスノーモービルの乗入がないかを確認するため、春刃古担川林道、精進川林道を中心に巡視。また、その他の利用の形跡(足跡、スキー、スノーシューの跡)についても確認。積雪期(12月～4月)に実施。
	知床岬	年に1回、関係機関等による合同巡視を実施し、自然状況、利用状況等を確認。
	オオワシ・オジロワシ飛来状況調査	海岸線における海ワシ類飛来状況把握のため、於麻布漁港～相泊間の道道87号線(知床公園羅臼線)沿いで確認できる、オオワシ・オジロワシの個体数をカウント。越冬期間にあたる11月～4月で週1回実施。
	外来種駆除活動	知床国立公園内及び国指定知床鳥獣保護区内において繁殖し問題となっている、セイヨウオオマルハナバチ、アメリカオニアザミ、ホソバウンランなどの駆除。
	その他	国立公園内でも利用者が少ない地域(羅臼温泉園地歩道)については、不定期に巡視を実施。

(2) 林野庁

平成 21 年度以降に情報収集・整理を行う。

(3) 北海道

表 月別巡視回数

自然保護巡視員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
網走支庁	4	7	9	10	10	9	9	6	4	4	3	4
根室支庁	0	8	10	15	15	15	11	6	2	2	0	0
合計	4	15	19	25	25	24	20	12	6	6	3	4

鳥獣保護員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
網走支庁	2	3	4	4	4	4	8	9	8	7	6	2
根室支庁	2	2	2	2	2	2	7	9	9	9	6	2
合計	4	5	6	6	6	6	15	18	17	16	12	4

3. 野生生物との共生と適正利用に関わる保護管理の状況

(1) ヒグマの出没状況とヒグマ対策活動の実施状況

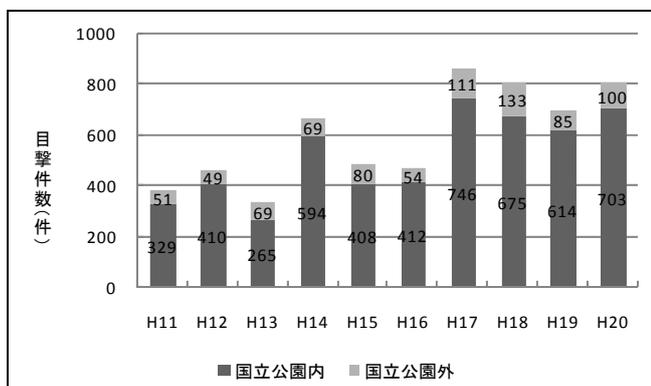
- 知床五湖園地地区やカムイワッカ地区ではヒグマの出没が頻発し、人身事故に繋がりがねない危険な目撃事例が発生するなど、人とヒグマの軋轢は依然として高い頻度で発生している。

1) ヒグマ出没状況

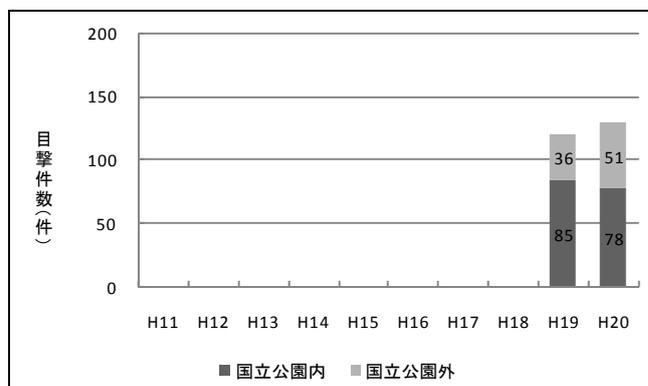
- 知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区におけるヒグマ目撃件数は、斜里側 750 件（昨年度 656 件）、羅臼側 75 件（昨年度 85 件）の計 825 件であった。昨年度と比較し、羅臼側の目撃件数は減少しているものの、目撃件数は依然として高い水準にある。

2) ヒグマ対策活動

- 知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区におけるヒグマ対策活動件数は斜里側 409 件（昨年度 400 件）、羅臼側 56 件（昨年度 58 件）の計 465 件であった。



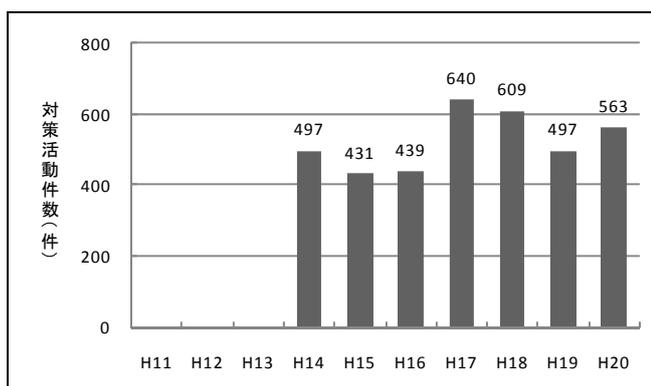
斜里町におけるヒグマ目撃件数



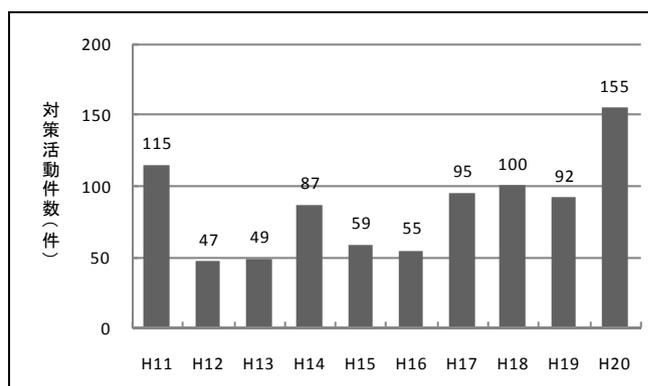
羅臼町におけるヒグマ目撃件数

※平成 18 年度以前の羅臼町における目撃件数データは集計されていないが、目撃情報に基づいて対策活動が行われるケースがほとんどであったため、目撃件数＝対策活動件数と解釈できる。

資料：財団法人知床財団



斜里町におけるヒグマ対策活動件数



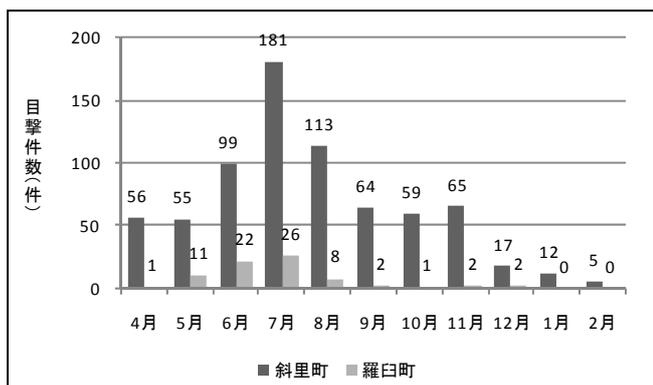
羅臼町におけるヒグマ対策活動件数

※羅臼町内においては国立公園内にも多数の漁業番屋等があり、人間の活動が盛んなため、公園内外でヒグマに対する対応方法を大きく変えていない。また古いデータに関しては公園内外を分けた集計がなされていないため、町内全域のヒグマ対策活動件数に統一して示している。

資料：財団法人知床財団

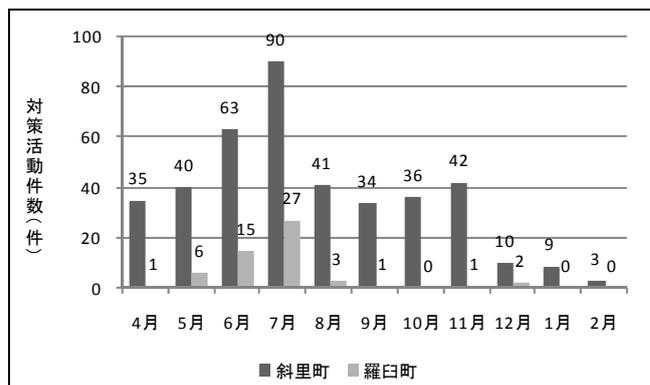
経年変化データの集計にあたり、期間を年度とするか年次とするか調整が必要である（今回は年度で集計）。

平成 13 年度以前の斜里町におけるヒグマ対策活動データの整理が必要。



平成 20 年度月別ヒグマ目撃件数

※知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内



平成 20 年度月別ヒグマ対策活動件数

※知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内

※平成 20 年 4 月から平成 21 年 2 月まで

資料：平成 20（2008）年度国立公園等民間活用特定自然環境保全活動（グリーンワーカー）事業「知床世界遺産地域における利用の適正化と野生生物との共生推進業務」報告書

3) 有害捕獲個体

- 平成 20 年度におけるヒグマ有害捕獲頭数は、斜里側 1 頭、羅臼側 9 頭の計 10 頭であった。

表 平成 20 年度有害捕獲個体一覧

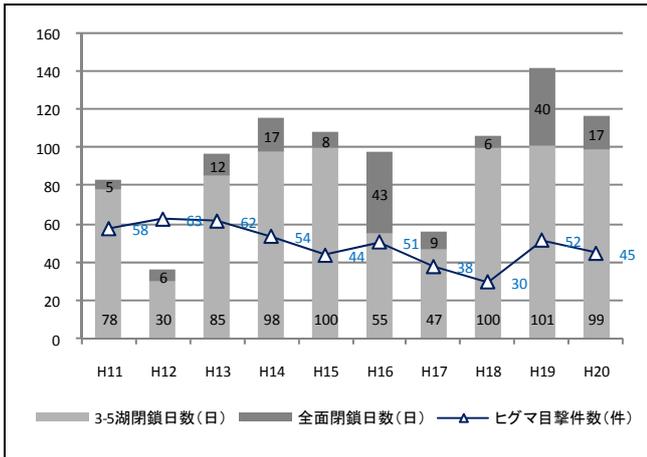
捕獲場所	捕獲日	推定年齢	性別	体重 (kg)	捕獲環境	捕獲要因
斜里側						
幌別川左岸	11/9	3歳	♀	170	漁業者作業場	国道脇に頻繁な出没、車に接近
羅臼側						
セセキ	6/2	1歳	♀	38	天然林	道道脇に頻繁に出没、人間に接近
昆布浜	6/18	2歳	♂	84	海岸	露天風呂・番屋周辺に出没
赤岩	6/28	2歳	♂	69	海岸	番屋周辺に頻繁に出没、飼い犬に被害
湯ノ沢	7/20	成獣	♀	71	天然林	キャンプ場周辺に出没
湯ノ沢	7/20	成獣	♀	97	天然林	キャンプ場周辺に出没
相泊	8/30	成獣	♀	105	漁港内斜路	漁港内に侵入
昆布浜	12/3	成獣	♀	120	天然林	道道脇に頻繁に出没、追い払いに無反応
昆布浜	12/3	0歳	♂	32	天然林	同上
昆布浜	12/3	0歳	♂	31	天然林	同上

資料：平成 20（2008）年度国立公園等民間活用特定自然環境保全活動（グリーンワーカー）事業「知床世界遺産地域における利用の適正化と野生生物との共生推進業務」報告書

経年変化データについても整理しておくことが望ましい。

4) 知床五湖遊歩道の状況

- 知床五湖園地地区におけるヒグマの目撃件数は 45 件（昨年度 52 件）、ヒグマ対策活動件数は 79 件であった。なかには、10m 以内の至近距離で人とヒグマが遭遇するといった人身事故に発展しかねない事例も含まれていた。
- 遊歩道の供用状況は全 214.5 日中、全面開放 98.5 日、一部閉鎖 99 日、全面閉鎖 17 日（午前と午後をそれぞれ 0.5 日として計算）で、昨年度（昨年度は全 213 日中、全面開放 73 日、一部閉鎖 100 日、全面閉鎖 40 日）と比較し、全面閉鎖日数が減少、全面開放日数が増加した。



知床五湖遊歩道閉鎖日数の推移

平成 20 年度知床五湖遊歩道供用状況

月	全面開放日数	3-5湖周回路閉鎖日数	全面閉鎖日数	合計
4月	0	6.0	0	6.0
5月	1.0	27.0	3.0	31.0
6月	16.5	8.5	5.0	30.0
7月	0 (0)	25 (16.5)	6.0 (6.0)	31.0 (22.5)
8月	11.5 (0)	19.5 (19.5)	0 (0)	31.0 (19.5)
9月	25.0	5.0	0	30.0
10月	21.0	7.0	3.0	31.0
11月	23.5	1.0	0	24.5
合計	98.5	99.0	17.0	214.5

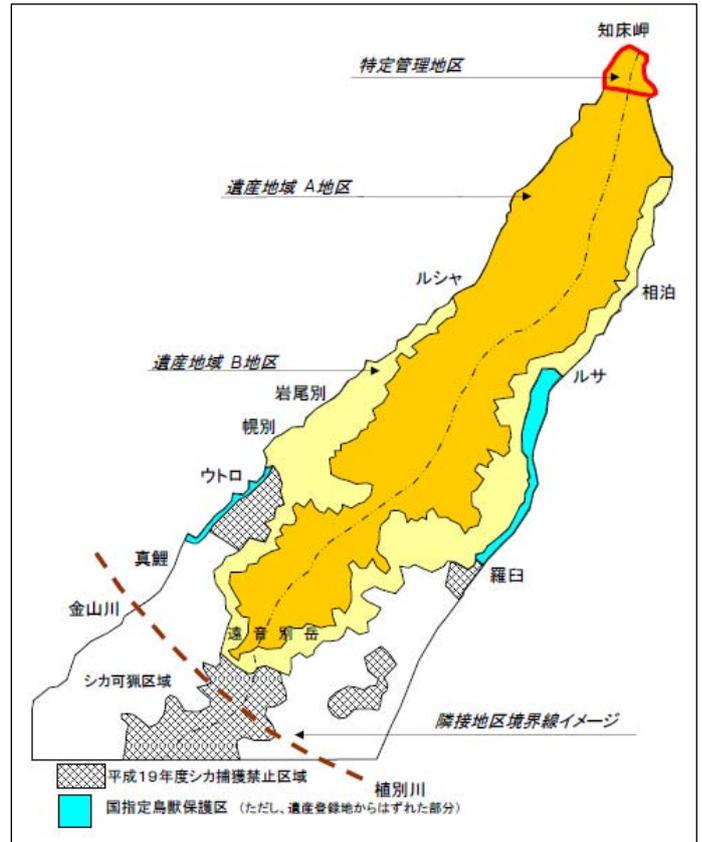
※ 4月25日午前から11月25日午前まで、午前・午後をそれぞれ0.5日として計算
 ※※ () 内の数字は電気柵設置期間中の日数を表す
 ※※※知床五湖園地開園日：2008年4月25日11時
 知床五湖園地閉園日：2008年11月25日11時
 積雪による閉鎖：計32.5日間（4月25日～5月29日の3-5湖周回路閉鎖）
 電気柵稼働期間：42日間（7月9日～8月20日）

資料：平成 20（2008）年度国立公園等民間活用特定自然環境保全活動（グリーンワーカー）事業「知床世界遺産地域における利用の適正化と野生生物との共生推進業務」報告書

(2) エゾシカ管理の状況

1) エゾシカ管理の概要

- エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響を軽減するため、5年を1期とする「知床半島エゾシカ保護管理計画」（平成18年11月、環境省）が策定され、地区ごとに管理方針が設定されている。
- 「知床半島エゾシカ保護管理計画」は、北海道が定める特定鳥獣保護管理計画「エゾシカ保護管理計画」の地域計画に位置づけられる。
- 「防御的手法」、「越冬環境改変」、「個体数調整」の3つの手法を組み合わせ管理を進めるとともに、その結果を適切にモニタリング・評価・検証しつつ、管理方針に反映させていく順応的管理手法を採用している。
- 「知床半島エゾシカ保護管理計画」実施にあたっての具体的な計画や手法を「知床半島エゾシカ保護管理計画実行計画」に定めている。



「知床半島エゾシカ保護管理計画」における地区区分

2) 平成20年度（H20シカ年度）知床半島エゾシカ保護管理計画実行計画

- 「知床半島エゾシカ保護管理計画」が第1期（平成19～23年度）であり、未確定事項や実験的要素を多数含むことを踏まえ、当面は単年度ごとに実行計画を定めることとしている。本実行計画は平成20年度、及び、平成21年4～5月（H20シカ年度）の計画である。

a. 管理事業

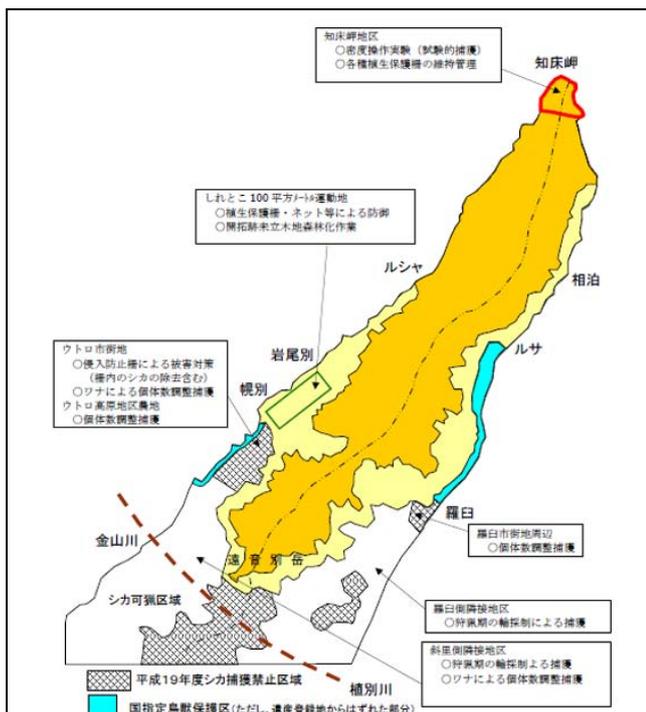
- 「知床半島エゾシカ保護管理計画」の中で定めた3つの管理手法（防御的手法、越冬環境改変、個体数調整）を各地区の管理方針に基づいて優先順位の高いものから順に実施。

管理手法	実施状況
防御的手法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知床岬などに設置されている各種植生保護柵による防御を継続。 ・ 幌別・岩尾別地区では植生保護柵や単木保護ネットの補修を実施してシカ樹皮食い防止対策を継続。 ・ ウトロ地区では、市街地を取り囲む侵入防止柵の維持管理や被害対策について、継続実施。
越冬環境改変	<ul style="list-style-type: none"> ・ 100平方メートル運動の森・トラストによる、開拓跡地の森林復元作業を引き続き進める。
個体数調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成19年度については、知床岬地区で密度操作実験（試験的捕獲）が開始され、隣接地区においても狩猟捕獲（輪探制システム）等による密度操作が試行された。H20シカ年度については、引き続き知床岬地区において、密度操作実験を実施するとともに隣接地区においても捕獲（狩猟・個体数調整）による密度操作を実施。実施にあたっては、希少鳥類への影響に配慮。

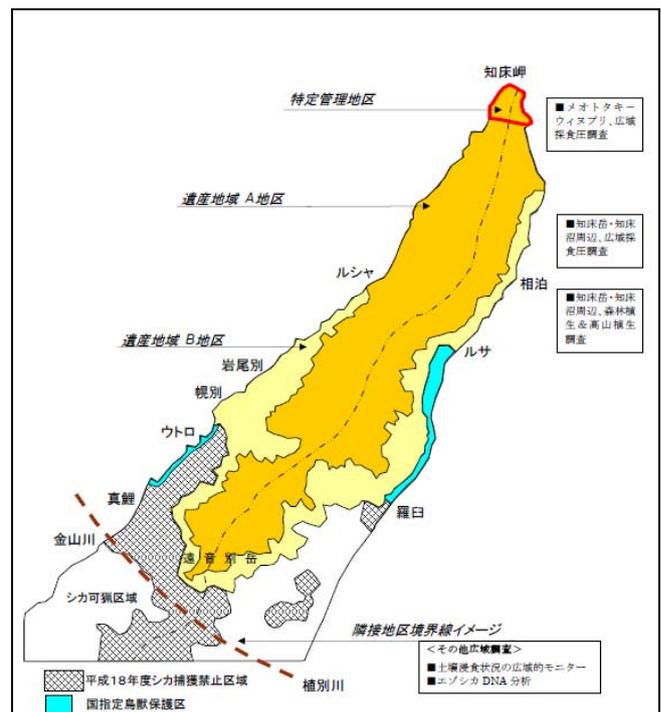
b. モニタリング調査

- 「知床半島エゾシカ保護管理計画」の中で定めた3区分（植生、エゾシカ個体数・個体数指数、土壌浸食）ごとに必要なデータを収集。

調査項目	実施状況
植生	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度の各種調査では、特に急激な植生変化は確認されていない。 ・既存の植生保護柵内外の継続調査のほか、密度操作実験対象地におけるシカ採食圧調査区、広域的なシカ採食圧評価のための混合ベルト調査区、また海岸部の在来種・希少種の分布把握等を引き続き実施。これらの調査にあたっては、調査手法等の統一が必要なものも含まれているため、植物分野の専門家を中心に引き続き整理。
エゾシカ個体数・個体数指数	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度の調査では、春期の自然死亡数が極めて少なかったが、ライトセンサス等によるシカ個体数・個体数指数の急激な増減は確認されなかった。 ・主要越冬地での生息動向を、航空カウント、ロードセンサス（ライトセンサスや日中センサス）などの手法を用いて引き続き把握することに加え、自然死亡状況についても情報収集。 ・越冬群の季節移動状況がまだ把握されていないルサ-相泊地区において、電波発信器等を用いた追跡調査を実施 ・広域的にエゾシカ越冬群の移動分散や季節移動等に関する解析を補完するために、ミトコンドリアDNA多型を用いた遺伝学的調査を検討。
土壌浸食	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度の調査では、シカによる土壌浸食の顕著な拡大は確認されていない。 ・知床岬の詳細調査区（平成18年度設置）で土壌浸食線の変動状況をモニターするほか、広域採食圧調査実施の際に、広域的な視点でシカによる土壌浸食の有無のモニターを実施。



管理事業の実施状況



モニタリング調査の実施状況

資料：「知床半島エゾシカ保護管理計画」、平成20（2008）年度エゾシカ保護管理計画 実行計画策定業務報告書

(3) 鳥獣による農林水産業等に係る被害状況

- 両町ともエゾシカやヒグマ等による農林水産業への被害があり、「鳥獣被害防止計画」を策定している。

表 鳥獣による農林水産業等に係る被害状況

	鳥獣の種類	品目	被害数値	被害金額	備考
斜里町 (H19年度)	エゾシカ	澁原馬鈴薯	9.28ha	1,634万円	
		種子馬鈴薯	0.6ha		
		てんさい	12.31ha		
		秋小麦	6.66ha		
		人参	0.25ha		
		デントコーン	0.4ha		
		小豆	0.6ha		
	ヒグマ	澁原馬鈴薯	1.26ha	695万円	
		てんさい	7.45ha		
		秋小麦	4.61ha		
羅臼町 (H18年度)	エゾシカ	牧草	34ha	340万円	
		昆布	干場の清掃作業の負担		
		庭木、花壇、家庭菜園	庭を網で囲まなければ全滅する		
		交通事故	物損10件	金額不明	警察に届出のあった件数
	ヒグマ	孵化場の親魚(カラフトマス)	70匹	3万円	
		人家近くへの出没	100件(役場出勤回数)		
	アザラシ	サケ、イカ、マダラ、スケトウ、タコ	490t	2,272万円	トド被害も含む
		漁具	2,468件	金額不明	

資料：斜里町鳥獣被害防止計画、羅臼町鳥獣被害防止計画

(4) 稀少猛禽類の収容状況

表 平成20年度稀少猛禽類の収容状況

種類名	幼・成	性別	発見・保護日	保護場所	原因	状態	収容後の状況
オジロワシ	成	不明	平成20年4月27日	斜里町	感電	負傷衰弱	飼育中
シマフクロウ	幼	不明	平成20年6月1日	-	不明	死亡	解剖検査未実施
シマフクロウ	亜成	オス	平成20年12月29日	-	感電	死亡	解剖検査未実施
オジロワシ	幼	不明	平成21年2月6日	斜里町	不明	死亡	解剖検査未実施
オオワシ	成	不明	平成21年3月2日	羅臼町	不明	死亡	解剖検査未実施
オオワシ	成	不明	平成21年3月17日	羅臼町	不明	死亡	解剖検査未実施

4. 各種会議等の実施状況

(1) 知床世界自然遺産地域連絡会議

- 知床の世界自然遺産（候補地）の適正な管理のあり方を検討し、地域の関係機関との連絡・調整を図るため、平成15年10月に設置された会議。
- 平成17年7月の世界自然遺産正式登録を受けて、名称が「世界自然遺産候補地地域連絡会議」から「世界自然遺産地域連絡会議」に変更。

a. 構成機関・団体

構成機関 (遺産地域の保全・管理にかかる法律、条例、規則等を所管する関係行政機関)	オブザーバー (遺産地域の保全・管理の推進に関わる地元関係団体)
<ul style="list-style-type: none"> ● 環境省釧路自然環境事務所 ● 林野庁北海道森林管理局 ● 北海道環境生活部 ● 網走支庁及び根室支庁 ● 北海道教育庁 ● 網走教育局及び根室教育局 ● 斜里町 ● 羅臼町 	<ul style="list-style-type: none"> ● 羅臼町・知床世界自然遺産協議会 ● 斜里第一漁業協同組合 ● ウトロ漁業協同組合 ● 羅臼漁業協同組合 ● 網走漁業協同組合 ● ウトロ地域自然保護と利用に関する協議会 ● 知床ガイド協議会

b. 事務局

- 環境省釧路自然環境事務所、北海道森林管理局及び北海道
- 対外的な連絡窓口は環境省釧路自然環境事務所

c. 会議の開催状況

	開催日時	開催場所	議題
平成20年度 第1回	平成20年11月20日（木） 10:00～12:00	羅臼町商工会館 2階ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産委員会等からの勧告について ・科学委員会の経過及び今後の予定について ・平成20年度調査・事業計画について ・利用の適正化に係る検討状況について ・知床世界自然遺産地域管理計画の策定について ・知床世界遺産シンボルマークの策定について ・地域連絡会議等の今後の予定について ・その他
平成20年度 第2回	平成21年2月26日（木） 13:30～16:00	斜里町産業会館 2階大ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・科学委員会の経過及び今後の予定について ・平成20年度調査・事業実施状況について ・知床世界自然遺産地域管理計画の策定について ・知床世界遺産シンボルマークの策定について ・知床世界遺産センター及びルサフィールドハウスについて ・地域連絡会議等の今後の予定について ・その他

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME > 会議資料 > 地域連絡会議

(2) 知床世界自然遺産地域科学委員会

- 知床の自然環境を把握し、科学的なデータに基づいて海域と陸域の統合的な管理を行うために必要な科学的助言を得るために、平成16年7月8日に設置された学識経験者や行政機関で構成される会議。
- 本委員会の下には、急務の課題に対応するため、目的別にワーキンググループを設置。

1) 科学委員会

a. 知床世界自然遺産科学委員会委員

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 石川 幸男（専修大学北海道短期大学みどりの総合科学科教授） ● 大泰司 紀之（北海道大学名誉教授） 【委員長】 ● 帰山 雅秀（北海道大学大学院水産科学研究院教授） ● 梶 光一（東京農工大学教授） ● 金子 正美（酪農学園大学教授） ● 工藤 岳（北海道大学大学院地球環境科学研究院准教授） ● 小林 昭裕（専修大学北海道短期大学教授） | <ul style="list-style-type: none"> ● 小林 万里（東京農業大学講師） ● 小宮山 英重（野生鮭研究所長） ● 桜井 泰憲（北海道大学大学院水産科学研究院教授） ● 佐野 満廣（北海道立稚内水産試験場長） ● 高橋 英樹（北海道大学総合博物館教授） ● 中川 元（斜里町立知床博物館長） ● 中村 太士（北海道大学大学院農学研究院教授） ● 服部 寛（東海大学生物理工学部教授） ● 松田 裕之（横浜国立大学環境情報研究院教授） ● 矢島 崇（北海道大学大学院農学研究院教授） |
|---|---|

※以上、50音順 敬称略

b. 事務局

- 環境省釧路自然環境事務所、北海道森林管理局及び北海道
- 対外的な連絡窓口は環境省釧路自然環境事務所

c. 会議の開催状況

	開催日時	開催場所	議題
平成20年度 第1回	平成20年11月19日(水) 13:00~16:00	羅臼町商工会館	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産委員会等からの勧告について ・各ワーキンググループの検討状況及び河川工作物の改良等について ・平成20年度調査・事業計画について ・利用の適正化にかかる検討状況について ・知床世界自然遺産地域管理計画の策定について ・今後のモニタリングの進め方について ・科学委員会等の今後の予定について ・その他
平成20年度 第2回	平成21年2月3日(火) 13:00~16:00	北海道自治労会館 (札幌市)	<ul style="list-style-type: none"> ・各ワーキンググループの検討状況及び河川工作物の改良等について ・平成20年度調査・事業実施状況について ・知床世界自然遺産地域管理計画の策定について ・今後のモニタリングの進め方について ・知床データセンター等における情報の集約・提供について ・科学委員会等の今後の予定について ・その他

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME>会議資料>科学委員会+各WG

2) エゾシカワーキンググループ

- 知床世界遺産地域におけるエゾシカの保護管理の推進と「知床半島エゾシカ保護管理計画」見直しに当たっての科学的な立場からの助言。

a. エゾシカワーキンググループメンバー

- 石川 幸男（専修大学北海道短期大学みどりの総合科学科教授）
- 宇野 裕之（北海道環境科学研究センター道東地区野生生物室長）
- 梶 光一（東京農工大学教授） 【委員長】
- 常田 邦彦（財団法人自然環境研究センター研究主幹）
- 松田 裕之（横浜国立大学環境情報研究院教授）

※以上、50音順 敬称略

b. 事務局

- 環境省釧路自然環境事務所

c. 会議の開催状況

	開催日時	開催場所	議題
平成20年度 第1回	平成20年6月25日（水） 13:30～16:00	釧路地方合同庁 舎5階 第1会議 室	・ユネスコ世界遺産センターによる保全状況調査報告書について ・平成19年度・H20 シカ年度(4～5月)知床半島エゾシカ保護管理計画実行計画の実施結果について ・H20 シカ年度知床半島エゾシカ保護管理計画実行計画(改訂案)について ・その他
平成20年度 第2回	平成21年1月13日（火） 13:30～16:30	釧路市観光国際 交流センター視 聴覚室	・知床世界自然遺産地域管理計画について（報告） ・H20 シカ年度知床半島エゾシカ保護管理計画実行計画の実施状況について ・次期シカ年度事業について ・知床におけるエゾシカに関する指標開発について ・その他 次回のエゾシカワーキングスケジュールについて

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME>会議資料>科学委員会+各WG

3) 海域ワーキンググループ

- 「海域管理計画」の推進状況及び見直しに対する科学的立場からの助言。

a. 海域ワーキンググループメンバー

- 帰山 雅秀（北海道大学大学院水産科学研究院教授）
- 小林 万里（東京農業大学生物産業学部講師）
- 桜井 泰憲（北海道大学大学院水産科学研究院教授） 【委員長】
- 佐野 満廣（北海道立稚内水産試験場長）
- 永田 光博（北海道立水産孵化場道東支場長）
- 服部 寛（東海大学生物理工学部教授）
- 牧野 光琢（水産総合研究センター中央水産研究所研究員）
- 松田 裕之（横浜国立大学環境情報研究院教授）
- 丸山 秀佳（北海道立釧路水産試験場資源管理部長）

※以上、50音順 敬称略

b. 事務局

- 北海道環境生活部、環境省釧路自然環境事務所

c. 会議の開催状況

	開催日時	開催場所	議題
平成20年度 第1回	平成21年1月22日（木） 14:00～	プレスト1・7 2階会議室A～C	・知床世界自然遺産地域管理計画について ・海域管理計画定期報告書について ・モニタリングについて ・その他

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME>会議資料>科学委員会+各WG

(3) 知床国立公園利用適正化検討会議

- 平成 13 年度に策定された知床国立公園適正利用基本構想に基づき、知床国立公園の適正な保護と利用の推進を図る。

a. 知床国立公園利用適正化検討会議検討委員

- 小川 巖（エコネットワーク代表）
- 小林 昭裕（専修大学北海道短期大学教授）
- 新庄 久志（釧路国際ウェットランドセンター主任技術委員）
- 辻井 達一（財団法人北海道環境財団理事長） 【座長】
- 中川 元（知床博物館館長）
- 中易 紘一（財団法人北海道林業会館理事長）

※以上、50 音順 敬称略

b. 事務局

- 環境省釧路自然環境事務所

c. 会議の開催状況

	開催日時	開催場所	議題
平成 20 年度 第 1 回	平成 20 年 7 月 22 日(火) 13:30~15:30	斜里町産業会館 2 階大ホール	(中央部地区作業部会同時開催) ・知床半島中央部地区利用の心得について ・平成 20 年度知床半島中央部地区利用適正化実施計画について ①羅臼岳登山者における携帯トイレ利用促進について ②知床国立公園マイカー規制に係る利用者動態予測調査について ・報告事項 知床国立公園ガイドブック(日本語版・英語版)の作成について
平成 20 年度 第 2 回	平成 21 年 3 月 17 日(火) 13:30~15:45	釧路地方合同庁舎 5 階共用第 1 会議室	・平成 20 年度知床国立公園利用状況報告 ・平成 21 年度利用適正化実施計画の策定について ①知床五湖地区の利用の適正化の推進 ②羅臼岳登山における携帯トイレの利用促進等 ・その他

※ 会議資料(議事次第・配布資料・議事概要)は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME>会議資料>利用適正化検討会議

(4) その他関連する会議

1) 知床^{とわ}永久^{もり}の森林づくり協議会

- 個人や企業・団体等の多様な主体の参画の下、知床における国民参加の森林づくり活動や森林環境教育活動を継続的に推進するための体制や仕組みづくりを検討することを目的に平成 19 年 7 月に設置。
- 国民参加の森林づくりの新たな仕組みづくりを効率的に進めるため、協議会の一部委員および関係者によって構成される「部会」を設置し、より具体的な検討。
- 平成 20 年度の実行体制検討部会は、受入体制検討チーム（プログラムの企画・実施、地元の連携・協力体制 など）、新たな体制検討チーム（活動支援の仕組みづくり、情報発信・PR 活動 など）を設置。

a. 知床永久の森林づくり協議会委員（平成 20 年度）

- 秋山 英敏（NPO法人富士山クラブ活動運営検討委員会委員長）
- 上野 洋司（知床斜里町観光協会会長）
- 楓 千里（(株) JTBパブリッシング法人事業部部長）
- 菅野 光洋（北海道旅客鉄道（株）開発事業本部副本部長）
- 黒瀧 秀久（東京農業大学教授オホーツク実学センター長）
- 鈴木 順策（オホーツクみどりネットワーク代表）
- 鈴木 幸夫
- 田澤 由利（(株) ワイズスタッフ代表取締役）
- 辻井 達一（(財)北海道環境財団理事長）
- 辻中 義一（知床羅臼町観光協会会長）
- 中川 元（斜里町立知床博物館館長）
- 丹羽 祐而（(株)丹羽企画研究所代表取締役）
- 坂東 元（旭川市旭山動物園副園長）
- 村田 均（斜里町長）
- 森 信也（(財)知床財団理事長）
- 宗 敏光（(株)ANA総合研究所主席研究員部長）
- 脇 紀美夫（羅臼町長）

※以上、50音順 敬称略

b. 実行体制検討部会メンバー

受入体制検討チーム	新たな体制検討チーム
<ul style="list-style-type: none">● 綾野 雄次（知床ガイド協議会副会長（斜里側代表））● 上野 洋司（知床斜里町観光協会会長）● 黒瀧 秀久（東京農業大学教授オホーツク実学センター長）● 鈴木 幸夫● 関口 均（NPO法人知床自然学校主宰）● 寺山 元（知床財団普及研修係長）● 坂東 元（旭川市旭山動物園副園長）● 三浦 里沙（知床羅臼観光協会）● 山口 要（網走支庁産業振興部商工労働観光課観光室長）	<ul style="list-style-type: none">● 秋山 英敏（NPO法人富士山クラブ活動運営検討委員会委員長）● 鈴木 幸夫● 関口 均（NPO法人知床自然学校主宰）● 丹羽 祐而（(株)丹羽企画研究所代表取締役）● 村田 均（斜里町長）● 脇 紀美夫（羅臼町長）

※以上、50音順 敬称略

c. 事務局

- 北海道森林管理局

d. 協議会の開催状況

	開催日時	開催場所	議題
第4回知床永久の森林づくり協議会	平成20年7月9日(水) 13:00~15:30	北海道森林管理局 大会議室(3階)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の協議会の進め方について ・育樹祭ツアー(9月開催)の企画・検討状況について ・ホームページの開設について ・国民参加の森林づくり活動を進める上での課題等について(委員によるプレゼン) ・その他
第5回知床永久の森林づくり協議会	平成21年2月24日(火) 13:15~16:00	北海道森林管理局 大会議室(3階)	(1) 平成20年度の取組報告 <ul style="list-style-type: none"> i) 受入体制検討チームの検討結果 ii) 新たな体制検討チームの検討結果 iii) 生物多様性委員会による現地検討実施結果 iv) 具体的活動実績報告 <ul style="list-style-type: none"> ① 知床ボランティア活動施設の活動実績報告 ② ホームページの開設状況 ③ モデルツアーの実施等 (2) 平成21年度の取組・体制について <ul style="list-style-type: none"> i) 委員及び部会について ii) 協議会の進め方等について

※ 会議資料(議事次第・配布資料・議事概要)は、「知床永久の森林づくり協議会」ホームページで公開されている。

<http://www.shiretoko.go.jp/moridukuri/>

e. 実行体制検討部会の開催状況

	開催日時	開催場所	議題
第1回実行体制検討部会(新たな体制検討チーム)	平成20年9月4日(木) 14:30~16:30	知床ボランティア活動施設	<ul style="list-style-type: none"> ・知床永久の森林づくり活動予定地について ・企業からの支援の確保について ・一般からの支援の確保について ・その他
第1回実行体制検討部会(受け入れ体制検討チーム)	平成20年9月5日(金) 13:00~15:00	知床ボランティア活動施設	<ul style="list-style-type: none"> ・受入体制について ・森林づくり活動への参加の動機付けについて ・その他
第2回実行体制検討部会(受け入れ体制検討チーム)	平成20年11月13日(木) 12:45~14:45	知床森林センター	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れの形態や手法について ・長期的な目標や計画などの設定について ・ターゲットの設定と集客方法について ・その他
第2回実行体制検討部会(新たな体制検討チーム)	平成20年11月28日(金) 13:15~15:15	北海道森林管理局 中会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・エコロジカル体験ツアーにおける今後の展開について ・NPOによる国民参加型の活動事例 ・受入体制の整備について ・その他
第3回実行体制検討部会(受け入れ体制検討チーム)	平成21年1月22日(木) 13:00~15:00	知床森林センター	<ul style="list-style-type: none"> ・集客・ターゲット層について ・プログラムやメニューの具体化について ・国有林フィールドの活用について ・その他

※ 会議の概要は、「知床永久の森林づくり協議会」ホームページで公開されている。

<http://www.shiretoko.go.jp/moridukuri/>

2) 知床エコツーリズム推進協議会

- 知床の自然の営みとそこに暮らす人々との関わりを、訪れる人達がより深く体験するとともに、関係する全ての人々がこれらの保全と利用に責任を持つことができるよう、知床ならではのエコツーリズム事業を地域住民とともに推進することを目的とするもの。

a. 協議会における協議事項

- ガイド技術の向上をはかるための事業について
- 先進地視察と報告ワークショップの開催について
- 地域産業と連携したエコツーリズムの展開について
- エコツーリズム推進方策の検討について
- 滞在型モデルツアーの推進に関する事。
- 海外からの旅行者の誘致推進に関する事。
- 知床型エコツーリズムのあり方の検討について
- その他協議会の目的を達成するために必要な事項

b. 協議会構成機関

コアメンバー	ワーキングメンバー	
<ul style="list-style-type: none"> ● 知床斜里町観光協会 ● 知床温泉旅館協同組合 ● 知床民宿協会 ● 知床羅臼町観光協会 ● 羅臼町旅館組合 ● 知床ガイド協議会 ● 知床財団 	<ul style="list-style-type: none"> ● 斜里町商工会 ● 斜里第一漁業協同組合 ● 宇登呂漁業協同組合 ● 斜里町農業協同組合 ● 斜里バス ● 斜里ハイヤー ● 斜里山岳会 ● 北海道ウタリ協会斜里支部 ● 知床自然保護協会 ● 羅臼町商工会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 羅臼漁業協同組合 ● 羅臼遊漁船組合 ● 羅臼町酪農振興協議会 ● 阿寒バス ● 羅臼ハイヤー ● 羅臼山岳会 ● 北海道ウタリ協会羅臼支部 ● 羅臼町・知床世界自然遺産協議会 ● 道東観光開発 ● 自然公園財団知床支部

c. 事務局

- 知床斜里町観光協会、知床羅臼町観光協会

d. 会議の開催状況

	開催日時	開催場所	議題
平成 20 年度 第 1 回	平成 20 年 5 月 29 日 (木) 13:00~	ウトロ漁村センター	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 19 年度事業実施報告 ・平成 20 年度事業計画案
平成 20 年度 第 2 回	平成 20 年 6 月 17 日 (火) 14:00~	羅臼町商工会館	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 19 年度決算報告 ・平成 19 年度監査報告 ・平成 20 年度事業予算案

3) 知床五湖の利用のあり方協議会

- 知床五湖地区のすぐれた自然環境を将来にわたって維持しつつ、多様な利用者に適切な利用機会を提供していくために、環境省、北海道、斜里町の3行政機関、同地区の各団体、事業者、関係者が、円滑な実施協力に向けた合意形成を図るために、利用調整の計画等を検討・協議。

a. 協議会における協議事項

- 知床五湖地上歩道の利用調整の運営体制
- 知床五湖利用調整の詳細
 - 例) ヒグマ活動期における安全管理対策
 - ヒグマ活動期の引率者の認定方法・講習内容
 - 植生保護期に利用者に行うレクチャーの内容
 - 利用者の負担額
- 利用調整の実施状況の評価と見直しの方法・体制
- 知床五湖地区の施設計画
- その他

b. 協議会構成員

- ・ ウトロ地域協議会
- ・ ウトロ自治会
- ・ (財)自然公園財団知床支部
- ・ 知床エコツーリズム推進協議会
- ・ 知床温泉旅館組合
- ・ NPO 法人知床斜里町観光協会
- ・ 知床ガイド協議会
- ・ しれとこ・フォーラム 21
- ・ 知床民宿協会
- ・ (財)知床財団
- ・ 斜里バス(株)
- ・ (株)ユートピア知床
- ・ 環境省釧路自然環境事務所
- ・ 北海道網走支庁
- ・ 斜里町

c. 事務局

- 環境省ウトロ自然保護官事務所、北海道網走支庁環境生活課、斜里町総務環境部環境保全課

d. 会議の開催状況

	開催日時	開催場所	議題
平成 20 年度 第 1 回	平成 21 年 2 月 19 日 (木) 13:00~15:00	ウトロ漁村センター 2 階会議室	・ 知床五湖の利用のあり方協議会について ・ 知床五湖の利用適正化の推進について ・ 協議会のスケジュール ・ ヒグマ活動期の利用のあり方について ・ その他

※ 会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME>会議資料>利知床五湖の利用のあり方協議会

4) カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

- 知床国立公園幌別以奥の自然環境を保全し、利用の快適性と安全確保をはかるため、自動車利用の適正化を推進。

a. 協議会構成機関・団体

- 北海道開発局網走開発建設部網走道路事務所
- 北海道森林管理局網走南部森林管理署
- 北海道運輸局北見運輸支局
- 北海道警察北見方面本部交通課斜里警察署
- 北海道網走土木現業所斜里出張所
- ウトロ自治会
- 株式会社ユートピア知床
- 北見地区ハイヤー協会
- 北見地区バス協会
- 財団法人自然公園財団知床支部
- 財団法人知床財団
- 知床温泉旅館協同組合
- 知床自然保護協会
- 知床斜里町観光協会
- 知床民宿協会
- 環境省釧路自然環境事務所ウトロ自然保護官事務所
- 北海道網走支庁
- 斜里町

b. 事務局

- 環境省ウトロ自然保護官事務所、北海道網走支庁環境生活課、斜里町総務環境部環境保全課

c. 会議の開催状況

	開催日時	開催場所	議題
平成 20 年度 第 1 回	平成 20 年 6 月 3 日 (火) 13:00~15:30	ゆめホール知床 公民館ホール	<ul style="list-style-type: none"> 平成 19 年度収支決算報告について 平成 19 年度会計監査報告について 平成 20 年度自動車利用適正化対策の方針及び実施内容について <ul style="list-style-type: none"> ①対応方針及び実施内容について ②道道の工事状況と安全対策について ③通行許可証発行における事項について 平成 20 年度収支予算 (案) について その他 カムイワッカ湯の沢利用対策連絡協議会について
平成 20 年度第 2 回	平成 21 年 1 月 29 日 (木)	ゆめホール知床 公民館ホール	<ul style="list-style-type: none"> 平成 20 年度自動車利用適正化対策の実施結果について <ul style="list-style-type: none"> ①現地管理連絡調整業務報告 ②利用者等動向調査結果 平成 21 年度の対応方針について <ul style="list-style-type: none"> ①対応方針 (案) ②平成 21 年度シャトルバス運行スケジュール案について ③カムイワッカ湯の滝の利用について ④道道知床公園線の工事進捗状況及び実施予定について その他 <ul style="list-style-type: none"> ①平成 23 年度以降の現規制区間のマイカー規制の課題について ②知床国立公園マイカー規制にかかる利用動態予測調査について

※ 会議資料 (議事次第・配布資料・議事概要) は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME > 会議資料 > カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡会

5) しれとこ 100 平方メートル運動地森林再生専門委員会議

- 「100 平方メートル運動の森・トラスト」における森林再生（森づくり）の方針や計画を議論。

a. 森林再生専門委員

- 石川 幸男（専修大学北海道短期大学みどりの総合科学科教授） 【座長】
- 青井 俊樹（岩手大学農学部共生環境課程教授）
- 甲山 隆司（北海道大学大学院地球環境科学院教授）
- 宇野 裕之（北海道環境科学研究センター自然環境部主任研究員）
- 日浦 勉（北海道大学苫小牧研究林長）
- 山崎 猛（運動推進本部副会長）
- 綾野 雄次（運動推進本部役員、知床自然保護協会理事）

※以上、50 音順 敬称略

b. 事務局

- 斜里町総務環境部環境保全課

c. 会議の開催状況

	開催日時	開催場所	議題
平成 20 年度 第 1 回	平成 20 年 12 月 5 日（金） 9:30～16:00	ゆめホール知床 公民館ホール	・平成 20 年度作業実施結果について ・平成 21 年度作業計画案について ・運動地内のシカの取扱いについて ・運動地公開事業について ・100 平方メートル運動の森・トラストへの ・寄付の現状について ・その他（関連事業・会議結果報告等）

※ 会議は公開で開催されている。会議に関する問い合わせは事務局（斜里町総務環境部環境保全課）まで。

6) カムイワッカ湯の沢利用対策連絡協議会

- 世界自然遺産知床に所在する、カムイワッカ湯の沢において、入込者の安全確保と適切な利用を図ることを目的とする。

a. 協議会構成員

< 構成員 >

- 北海道森林管理局網走南部森林管理署
- 環境省釧路自然環境事務所ウトロ自然保護官事務所
- 特定非営利活動法人知床斜里町観光協会
- 斜里町

< オブザーバー >

- 北海道網走支庁
- 財団法人知床財団
- 知床ガイド協議会

b. 事務局

- 斜里町経済部商工観光課観光係

c. 会議の開催状況

	開催日時	開催場所	議題
平成 20 年度 第 1 回 現地調査	平成 20 年 7 月 9 日 (水) 13:30~15:30 (現地時間)	カムイワッカ湯 の滝	①H20/7/13 の供用開始を前にした協議会としての現地確認 ② 4 の滝右岸斜面の定点定時撮影カメラの設置 注：平成 20 年度の利用方針は、H20/1/18 に開催した協議会において既に決定しているため、開始直前に会議を開催せずに現地調査を行ったもの。
平成 20 年度 第 2 回 現地調査	平成 20 年 9 月 22 日 (水) 14:10~15:50 (現地時間)	カムイワッカ湯 の滝	①湯の滝の落石状況(特に 4 の滝右岸斜面)の確認及び定点定時撮影カメラの撤去
平成 20 年度 第 1 回 協議会	平成 21 年 2 月 6 日 (金) 14:00~15:40	斜里町役場 2 階 大会議室	①平成 20 年度シャトルバスの利用状況報告 ②平成 20 年度ヒグマの出没状況報告 ③平成 20 年度湯の滝の監視員報告及び利用状況報告 ④平成 20 年度現地調査結果(落石状況等)の報告及び平成 21 年度現地調査計画の協議 ① 成 21 年度利用対策方針の協議

※ 会議及び会議記録は非公開である。会議に関する問い合わせは事務局(斜里町経済部商工観光課)まで。

7) 羅臼町・知床世界自然遺産協議会

- 世界自然遺産として優れた知床の自然環境を将来に引き継ぐために、地域住民及び民間団体等と行政機関が連携し、自然環境の保全と適正利用等について協議し、各種関係会議及び関係機関等へ意見反映を行うことを目的とする。

a. 協議会における協議事項

- 世界自然遺産として登録された知床国立公園内外の自然環境の保全と適正利用に関する事
- 各種関係会議及び関係機関等への意見反映等に関する事
- その他目的達成に必要な事

b. 事務局

- 羅臼町環境管理課

c. 協議会構成機関・団体

- 知床羅臼町観光協会
- 羅臼町商工会
- 羅臼漁業協同組合
- 羅臼山岳会
- 自然保護監視員
- 鳥獣保護員
- 国指定鳥獣保護区管理員
- 知床ガイド協議会（羅臼側）
- 日本野鳥の会根室支部
- NPO 法人しれとこ ラ・ウシ
- 羅臼町連合町内会
- 羅臼町旅館組合
- 一般町民の参加希望者
- 協議事項に関わりが深く、協議会が参加を承認した団体（個人）

d. 会議の開催状況

	開催日時	開催場所	議題
平成 20 年度 第 1 回	平成 20 年 7 月 17 日（木） 15:00～17:00	羅臼町役場	①第 32 回世界遺産委員会の開催結果について ②ルサ・フィールドハウスについて ③知床世界自然遺産に係る各種取り組み状況・各種会議について
平成 20 年度 第 2 回	平成 21 年 2 月 17 日（火） 14:30～16:00	羅臼町役場	①ルサ・フィールドハウスの運営について ②ルサ・フィールドハウスの名称について ③知床世界自然遺産に係る各種取り組み状況・各種会議について

※ 会議に関する問い合わせは事務局（羅臼町環境管理課）まで。

5. 法令に基づく管理の状況

(1) 自然公園法

- 昭和 39 年（1964 年）6 月に「知床国立公園」に指定された地域のすべてが、遺産地域に含まれている。
- 公園の保護及び利用上重要な地域であって工作物の新改増築、木竹の伐採等の行為は環境大臣の許可が必要とされている「特別地域」、及び公園の核心的部分を厳正に保護する地域であって工作物の新改増築や木竹の伐採等に加え、動植物の採捕及び放出、落葉落枝の採取やたき火等の行為についても環境大臣の許可が必要とされ、より厳正に保護が行われている「特別保護地区」、並びに海面の埋め立て等の行為に環境大臣への届出が必要とされる「普通地域」がそれぞれ国立公園の保護規制計画に基づき指定され、この地域区分に応じて各種行為が規制されている。
- 自然環境を保全しつつ、その適正な利用を図るため、国立公園の利用施設計画に基づき、歩道やビジターセンター等の整備が行われている。

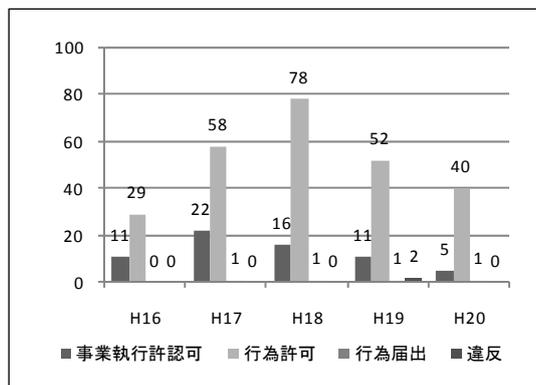


表 公園事業執行状況

施設計画	事業種	名称	事業決定の有無	規模	地種区分	事業執行者	
集団施設地区	博物館展示施設	羅臼温泉	○	3200㎡	S2	環境省	
	宿舎	羅臼温泉	○	8ha	S2	民間3軒	
	野営場	羅臼温泉	○	5.1ha	S2	北海道	
	園地	羅臼温泉	○	31ha	S2	羅臼町 北海道	
	駐車場	羅臼温泉	○	0.2ha	S2	北海道	
道路	道路（車道）	ホロベツ・カムイワッカ線			S2	北海道	
		岩尾別温泉線	○	3.1km	S2, S3	斜里町	
		ウトロ・羅臼線			S1, S2 S2	北海道開発局網走開発建設部 北海道開発局釧路開発建設部	
		ルサ・相泊線	○	8.0km	S3	北海道	
	道路（歩道）	羅臼平・知円別岳線					
		羅臼岳登山線	○	13.5km	S2	林野庁	
		知床五湖周回線	○	3.5km	SP	北海道	
		羅臼湖線	○	3km	SP, S1	北海道	
		北海道自然歩道線	○	5.2km	S1, S2, S3		
		硫黄山登山線	○	6km	SP, S1, S3	羅臼町	
単独施設	園地	知床峠	○	1600㎡	S1	北海道	
		ホロベツ	○	65.5ha	S1, S2	北海道	
		知床五湖	○	4.8ha	SP	環境省 斜里町 北海道	
		カムイワッカ					
	宿舎	岩尾別					
		岩尾別温泉	○	5000㎡	S2	民間	
	野営場	ルサ					
		ホロベツ	○	2.6ha	S2		
		岩尾別温泉					
	駐車場	ホロベツ	○	1.5ha	S2	北海道 斜里町	
	博物館展示施設	ホロベツ	○	5000㎡	S2	斜里町	

※ SP：特別保護地区、S1：第1種特別地域、S2：第2種特別地域、S3：第3種特別地域

表 平成 20 年度公園事業執行認可等内容

申請日	許可日	件名	地種区分	申請者	備考
H20.6.9	H20.6.30	羅臼温泉野営場事業執行同意事項変更協議について	S2	北海道知事	排水溝、カーブミラー等
H20.8.15	H20.8.22	ホロベツカムイワッカ線道路(車道)事業執行同意事項変更協議について	S2	北海道知事	落石防止対策工事
H20.8.27	H20.9.9	ウトロ羅臼線道路(車道)事業執行協議について	S1, S2	網走開発建設部長	落石及び斜面崩壊防止のための落石防護柵の設置等
H20.9.30	H20.10.22	ルサ相治線道路(車道)事業執行同意事項変更協議について	S3	北海道知事	擁壁工、落石防護柵
H20.9.30	H20.10.23	ウトロ羅臼線道路(車道)事業執行協議について	S2	釧路開発建設部長	CCTVカメラ等

※ SP: 特別保護地区、S1: 第1種特別地域、S2: 第2種特別地域、S3: 第3種特別地域

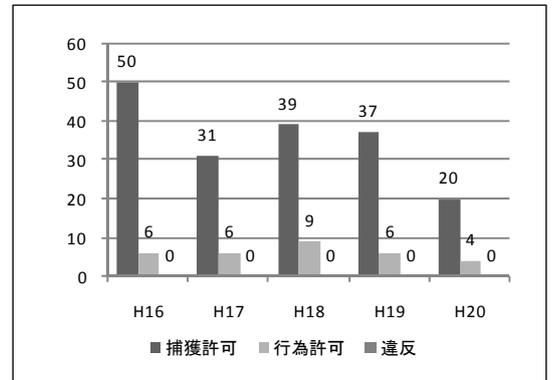
表 平成 20 年度行為許可等内容

申請日	許可日	件名	地種区分	申請者	備考
H20.4.8	H20.4.10	特別地域内工物物の新築及び広告物の設置等許可申請について	S2	民間	イベントテント等
H20.4.8	H20.4.14	特別保護地区内 工物物の新築許可協議について	SP,S1,S2	北海道地方環境事務所	利用者・入山者カウンターの設置のための協議
H20.4.7	H20.4.15	特別保護地区内 工物物の新築許可申請について	SP	民間	知床五湖園地の管理資材保管用物品庫の仮設置
H20.4.14	H20.4.22	特別地域及び特別保護地区内 工物物の新築許可申請について	SP,S1,S2	釧路自然環境事務所所長	利用者動向把握のための利用者カウンターの設置
H20.4.14	H20.4.22	特別地域内工物物の新築許可申請について	S1	北海道知事	仮設トイレ
H20.5.21	H20.5.29	特別保護地区内 工物物の新築許可申請について	SP	北海道知事	河川工物物の管理の一環として実施する雨量計の新築
H20.5.22	H20.5.30	特別地域及び特別保護地区内 木竹以外の植物の採取又は損傷協議について	SP	北海道地方環境事務所	外来植物駆除に伴う植物の採取又は損傷(アメリカオニアザミ・GW事業)
H20.6.4	H20.6.10	特別地域及び特別保護地区内 木竹以外の植物の採取又は損傷協議について	SP	釧路自然環境事務所所長	外来植物駆除に伴う植物の採取又は損傷(アメリカオニアザミ)
H20.6.17	H20.6.24	特別地域内工物物の新築許可申請について	S2	民間	河川落差解消のための導水管の敷設替え及び不要となった水温上昇施設撤去に伴う導水管の敷設替え
H20.6.18	H20.6.26	特別保護地区内 工物物の新築、改装及び増築協議について	SP	第一管区海上保安本部長	風向計及び転落防止柵の新築、太陽光パネル、アンテナ及び手摺の増築、灯台踊場側壁の改装
H20.6.18	H20.6.26	特別地域内工物物の新築許可申請について	S3	民間	電柱
H20.6.20	H20.6.27	特別地域内 工物物の新築許可申請について	S2	斜里町長	使用済み携帯トイレ回収のための仮設回収ボックスの設置
H20.6.23	H20.6.30	特別地域及び特別保護地区内 高山植物の採取、木竹の損傷及び木竹以外の植物の採取協議について	SP,S2,S3	釧路自然環境事務所所長	世界自然遺産地域の生態系モニタリング調査に伴う植物の採取及び損傷
H20.7.1	H20.7.4	知床国立公園 特別保護地区内 工物物の新築許可申請について	SP	斜里町長	知床五湖、ヒグマ電気柵の仮設
H20.6.27	H20.7.4	特別保護地区内木竹の損傷、木竹以外の植物の採取又は損傷及び動物の捕獲協議について	SP	釧路自然環境事務所所長	生態系モニタリング調査のための植物及び昆虫類の採取
H20.6.25	H20.7.8	特別地域内 広告物の設置等許可申請について	S2	民間	自然情報解説のための案内看板の設置
H20.7.2	H20.7.8	特別地域内 工物物の新築許可申請について	S2	斜里町長	斜面崩落状況把握のための定点撮影カメラの設置
H20.7.3	H20.7.8	特別地域内 工物物新築及び広告物の設置等許可申請について	S1,S2	知床国立公園カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会 会長	マイカー規制の実施に必要なトラロップ及び周知用看板の設置
H20.7.15	H20.7.18	特別地域内工物物の新築協議について	SP,S1	釧路自然環境事務所所長	アライグマ生息状況把握のための自動撮影カメラの設置
H20.7.15	H20.7.28	特別地域内土石の採取許可申請について	S1,S2,S3	民間	学術研究
H20.7.28	H20.7.28	特別地域内工物物の新築許可申請について	S2	北海道根室支庁長	ヒグマ用仮設電気柵
H20.7.28	H20.7.31	特別地域内工物物の増築許可申請について	S2	斜里町長	しれとこ200㎡運動森林再生事業のための育林用防塵柵の増築
H20.7.31	H20.8.7	特別地域内工物物の新築及び高山植物等の採取並びに特別地域内工物物の新築、木竹の損傷及び木竹以外の植物の採取協議について	SP,S1,S2,S3	釧路自然環境事務所所長	植生に対するエゾシカの影響を把握する調査のための調査区の新築及び調査区内の植物の採取及び損傷
H20.8.8	H20.8.13	特別保護地域内工物物の新築及び車馬の使用協議について	SP	釧路自然環境事務所所長	生態系モニタリング調査のための工物物の新築及び車馬の使用
H20.8.15	H20.8.19	特別保護地域内車馬の使用について	SP	北海道知事	ルジャ川における調査に伴う車の使用
H20.8.26	H20.9.3	特別地域内土石の採取許可申請について	S2	北海道知事	地質調査
H20.9.9	H20.9.30	特別地域内工物物の新築協議について	S1,S2	第一管区海上保安本部長	ハンドホール脇への見出しポール設置(宇登呂灯台管理道路)
H20.9.30	H20.10.3	特別地域内工物物の新築及び広告物の設置等許可申請について	S1,S2	斜里町長	イベントテント等
H20.10.10	—	特別地域内 非常災害応急措置届出書について	S2	斜里町長	河川に堆積した土砂の移動
H20.9.29	H20.10.16	特別地域内 工物物の新築許可申請について	S1	民間	流水分布研究のための監視カメラの設置
H20.9.29	H20.10.16	特別地域内 工物物の新築許可申請について	S1,S2	民間	横断道路の積雪研究のための監視カメラの設置
H20.10.17	H20.10.21	特別地域内工物物の新築許可申請について	S1	民間	学術研究
H20.10.24	H20.10.29	特別保護地区内 工物物の新築許可申請について	SP	民間	知床五湖園地の利用コントロール実験に関する仮設工物物の設置
H20.10.24	H20.10.29	特別保護地区内 広告物の設置等許可申請について	SP	民間	知床五湖園地の利用コントロール実験に関する看板
H20.11.4	H20.11.7	特別保護地区内 工物物の増設協議について	SP	釧路自然環境事務所所長	シマフクロウ巣箱への捕食者侵入防止アタッチメントの増築
H20.11.4	H20.11.12	特別地域内 工物物の新築協議について	S1	網走南部森林管理署長	エゾシカによる樹皮食害防止のための防塵柵の新築
H20.11.5	H20.11.13	特別地域内土石の採取許可申請について	S2	北海道知事	地質調査
H20.11.26	H20.12.3	特別保護地区内 車馬の使用について	SP	釧路自然環境事務所所長	エゾシカ搬出における荷車の使用
H21.2.13	H21.2.25	特別保護地区内 土石の採取許可申請について	SP	民間	
H21.2.3	H21.3.30	特別保護地区内土石の採取許可申請について	SP	民間	定置網設置用資材
H21.2.3	H21.3.30	特別保護地区内土石の採取許可申請について	SP	民間	定置網設置用資材

※ SP: 特別保護地区、S1: 第1種特別地域、S2: 第2種特別地域、S3: 第3種特別地域

(2) 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律

- 平成 13 年（2001 年）11 月に指定された国指定知床鳥獣保護区及び同特別保護地区が遺産地域と重複している。
- 狩猟が禁止されている「鳥獣保護区」に加えて、特に鳥獣の生息、繁殖の場として重要な場所は一定の開発行為が規制される「特別保護地区」が指定されているとともに、より一層の保護管理を図る区域として、特別保護地区の一部が「特別保護指定区域」に指定されている。
- 「特別保護指定区域」では、木竹以外の植物の採取、動物の捕獲、落葉落枝の採取に加え、犬その他鳥獣に害を加えるおそれのある動物を入れること、鳥獣の営巣に影響を及ぼす可能性のある観察及び撮影等が規制されている。



許可及び違反件数

表 平成20年度行為許可内容

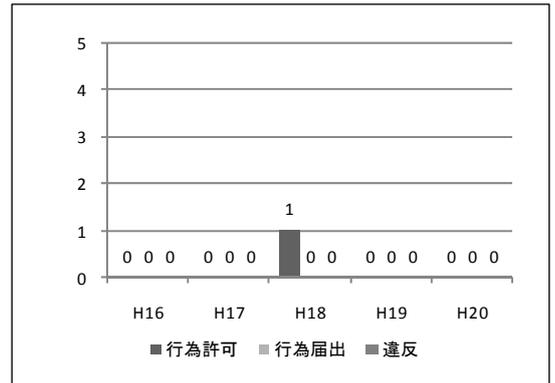
申請日	許可日	件名	申請者	備考
H20.6.9	H20.6.25	国指定鳥獣保護区 特別保護地区内 その他の工作物の新築許可申請について	第一管区海上保安本部長	知床岬灯台への太陽電池パネル、アンテナ、手摺り、風向計及び踊り場壁面の設置
H20.6.26	H20.7.1	国指定鳥獣保護区 特別保護地区内 木竹以外の植物の採取及び損傷許可申請について	北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所長	生態系モニタリング調査のための植物、昆虫等の採取等
H20.8.4	H20.8.18	特別保護指定区域内 車馬の使用及び写真撮影許可申請について	北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所長	生態系モニタリング調査のための車馬の使用及び撮影
H20.8.5	H20.8.21	特別保護指定区域内 車馬の使用及び写真撮影許可申請について	北海道知事	ルンヤ川における調査に伴う車馬の使用及び撮影

表 平成20年度捕獲・危険猟法許可内容

許可日	申請者	人数	捕獲目的	条件	対象種	許可の期間	捕獲区域
H20.4.1	個人(共同)	68名	学術研究(標識調査)	捕獲場所にて放逐	国内希少野生動物種以外の鳥類	H20.4.1～ H21.3.31	47都道府県各一円
H20.4.15	羅臼町長	20名	有害鳥獣捕獲(人身被害防止)		ヒグマ		羅臼町内の国指定知床鳥獣保護区内一円 施行規則第7条第1項第7号に掲げる場所(同号イ及びニを除く)を除く。
H20.4.18	個人(共同)	4名	学術研究		ヒグマ	H20.4.18～ H20.11.30	斜里町内の国指定知床鳥獣保護区内。施行規則第7条第1項第7号に掲げる場所(同号イ及びニを除く)を除く。
H20.4.22	網走支庁網走土木現業所長	2名	有害鳥獣捕獲(人身被害防止)		ヒグマ	H20.5.20～ H20.12.10	斜里町内の国指定知床鳥獣保護区内(道知床公園線カムイワッカ地区)施行規則第7条第1項第7号に掲げる場所(同号イを除く)を除く。
H20.4.25	網走支庁網走土木現業所		有害鳥獣捕獲(人身被害防止)		ヒグマ		
H20.5.20	網走支庁網走土木現業所		有害鳥獣捕獲(人身被害防止)		ヒグマ		
H20.5.22	個人	1名	学術研究		エゾヤチネズミ、ミカドネズミ、エゾアカネズミ、ヒメネズミ、オオアシトガリネズミ、エゾトガリネズミ、カラフトヒメガリネズミ	H20.5.25～ H20.11.25	斜里郡斜里町大字遠音別村字岩尾別。施行規則第7条第1項第7号に掲げる場所(同号イの場所を除く)を除く。
H20.6.17	個人(共同)	15名	有害鳥獣捕獲	作業員が危険にさらされる事態になった場合に限る	ヒグマ	H20.6.19～ H20.12.10	斜里町内の国指定知床鳥獣保護区内(知床五湖園地)。
H20.6.19	個人		有害鳥獣捕獲(人身被害防止)		ヒグマ		
H20.6.25	個人		学術研究		国内希少野生動物種以外の鳥類		
H20.7.23	斜里町長	2名	有害鳥獣捕獲(生活環境、農林水産業の被害防止)		ヒグマ	H20.7.23～ H20.12.31	斜里町内の国指定鳥獣保護区内
H20.7.31	個人	1名	有害鳥獣捕獲(人身被害防止)		ヒグマ	H20.7.31～ H20.11.20	羅臼町相泊・崩浜・ルサ地区の配電線路中心から50mの範囲内 施行規則第7条第1項第7号に掲げる場所(同号イの場所を除く)を除く。
H20.8.1	個人		学術研究(標識調査)		国内希少野生動物種以外の鳥類		
H20.8.18	個人(共同)	4名	学術研究		エゾヤチネズミ、ムクゲネズミ、ミカドネズミ、カラフトアカネズミ、ヒメネズミ、アカネズミ、トウキョウウトガリネズミ、オオアシトガリネズミ、エゾトガリネズミ、ヒメトガリネズミ、ジネズミ	H20.8.18～ H20.11.30	斜里郡斜里町網走南部森林管理署1322、1323、1377、1378 林班一円。施行規則第7条第1項第7号に掲げる場所(同号イの場所)を除く。
H20.10.20	羅臼町長	17名	有害鳥獣捕獲		ヒグマ	H20.10.20～ H21.3.31	羅臼町内の国指定知床鳥獣保護区内一円 施行規則第7条第1項第7号に掲げる場所(同号イ及びニを除く)を除く。
H20.11.17	釧路自然環境事務所長	31名	特定鳥獣保護管理計画に基づく数の調整		エゾシカ	H20.11.17～ H21.6.30	国指定知床鳥獣保護区内(知床岬周辺)
H21.1.23	個人(共同)	12名	越冬個体群の季節移動調査		エゾシカ	H21.1.23～ H21.4.30	羅臼町有林1林班から2林班、国有林255林班、258林班から262林班 施行規則第7条第1項第7号に掲げる場所(同号イの場所を除く)を除く。
H21.2.25	網走支庁網走土木現業所長	24名	有害鳥獣捕獲		ヒグマ	H21.4.7～ H21.12.7	斜里町内の国指定知床鳥獣保護区内(道知床公園線カムイワッカ地区)
H21.2.26	羅臼町長	21名	特定鳥獣保護管理計画に基づく数の調整		エゾシカ	H21.2.26～ H21.3.31	羅臼町有林1～16林班一円 施行規則第7条第1項第7号に掲げる場所(同号イの場所を除く)を除く。

(3) 自然環境保全法

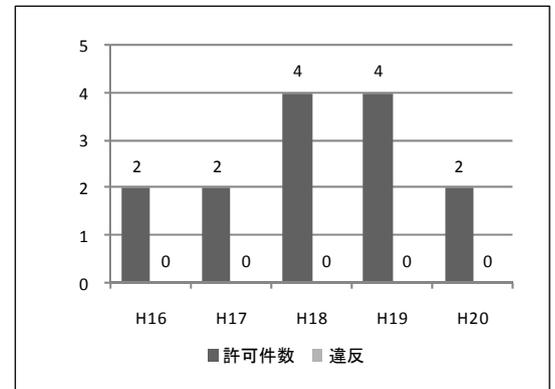
- 昭和 55 年（1980 年）2 月に遠音別岳周辺が知床国立公園の区域から除外され、「遠音別岳原生自然環境保全地域」に指定された。この原生自然環境保全地域の全域が遺産地域に含まれている。
- 原生自然環境保全地域においては、学術研究等特別の事由による場合を除き、工作物の新改増築や木竹の伐採等に加え、動植物の採捕及び放出、落葉落枝の採取やたき火など当該地域における自然環境の保全に影響を及ぼすおそれのある行為が禁止されている。



許可等及び違反件数

(4) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）

- 遺産地域に生息する動物のうち、シマフクロウ、オオワシ、オジロワシ等が国内希少野生動植物種に定められており、捕獲、殺傷、譲渡し等が禁止されている。



許可及び違反件数

表 平成 20 年度行為許可等内容

申請日	許可日	件名	申請者	対象種	許可の期間	備考
H19.12.25		国内希少野生動植物種捕獲等許可申請	民間	アホウドリ、チシマウミガラス、コウホトリ、ジジュウカラガシ、オジロワシ、オオタカ、クマタカ、イヌワシ、ハヤブサ、タンチョウ、カラフトアオアシギ、ウミガラス、エトビリカ、ワシミズク、シマフクロウ、ミユビケラ、ヤイロチョウ	H20.4.1～ H21.3.31	全国を対象とした標識調査
H20.12.22		国内希少野生動植物種捕獲等許可申請	民間	オオワシ、オジロワシ、イヌワシ、クマタカ	H21.1.20～ H22.1.19	学術研究

(5) その他

1) 森林法

- 遺産地域では、森林法の規定による保安林（土砂流出防備保安林、保健保安林等）に指定されている森林が多い。なお、遠音別岳原生自然環境保全地域の森林は、保安林指定対象外となっている。

2) 文化財保護法

- 遺産地域に生息する動物のうち、シマフクロウ、オオワシ、オジロワシ、クマゲラ等の鳥類及び昆虫類1種（カラフトルリシジミ）が天然記念物に指定されている。
- 天然記念物の現状を変更し、またはその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可が必要である。
- 遺産地域内には「北海道文化財保護条例」に基づく「道指定天然記念物」として「羅臼の間歇泉」が指定されており、現状を変更し、またはその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、北海道教育委員会の許可が必要である。

3) 漁業法及び水産資源保護法

- 主要な水産資源については、これらの法に基づく「北海道海面漁業調整規則」及び「北海道内水面漁業調整規則」による規制に加え、漁業者、漁業団体の自主的取組による資源の管理・利用に関する規制や資源の増殖等の管理が行われている。
- 知床半島の主要な水産資源であるシロザケ、カラフトマスについては、これらの法令に基づき、海面や内水面での採捕が制限されている。

4) 海洋生物資源の保存及び管理に関する法律

- スケトウダラについては、毎年、採捕量の上限を設定し、採捕量を管理するほか、漁業者、漁業団体等が産卵親魚を保護するため、自主的に資源管理の取組を行っている。

6. 普及啓発活動の状況

(1) イベント

番号	主体	名称
1	環境省	地元住民向け自然講座「知床らうす自然講座」の開催
2	環境省	羅臼自然保護官事務所主催の自然観察会の実施
3	環境省	羅臼ビジターセンター活動推進業務における四季のイベント開催
4	環境省	知床世界自然遺産地域科学委員会地元報告会
5	環境省	知床世界自然遺産生態系調査報告会の開催
6	林野庁	各種イベントの開催
7	林野庁	羅臼湖ツアーの開催
8	北海道	しれとこ教室の開催
9	北海道	エコツアーガイドスキルアップ研修の実施
10	斜里町	しれとこ100平方メートル運動地における森林再生事業
11	斜里町	しれとこ100平方メートル運動地公しれとこ100平方メートル運動地公開試行事業
12	斜里町	第29回知床自然教室
13	斜里町	第12回しれとこ森の集い
14	斜里町	第12回森づくりワークキャンプ
15	斜里町	世界遺産知床体験学習事業
16	斜里町	流水の海の動物観察会（知床博物館）
17	斜里町・環境省	知床国立公園クリーン事業（知床岬）
18	斜里町・羅臼町・北海道・環境省	羅臼岳携帯トイレ利用促進事業
19	羅臼町	知床岬クリーンボランティア
20	羅臼町	第26回ふるさと少年探検隊
21	羅臼町	ふるさと体験教室
22	羅臼町	オジロ・オオワシ観察会
23	羅臼町	羅臼地区中高一貫教育
24	知床雪壁ウオーク実行委員会	知床雪壁ウオーク
25	知床紅葉ウオーク実行委員会	知床紅葉ウオーク

番号	主体	名称
1	環境省	地元住民向け自然講座「知床らうす自然講座」
開催日	平成20年9月25日～21年1月31日（計7回）	
参加人数	延べ119名	
内容	<p>平成19年度から、羅臼ビジターセンターを拠点として地域住民の意識の高揚を促進。20年度は羅臼ビジターセンターで講座を開催。</p> <p>（各回テーマ）</p> <p>第1回：ヒグマ ～羅臼と斜里の比較でみえてくるもの～</p> <p>第2回：知床のスミレ ～可憐でたくましい妖精たち～</p> <p>第3回：羅臼の海の哺乳類 ～海の生態系、その頂点に立つ生き物たち～</p> <p>第4回：エゾモモンガとその仲間たち ～愛くるしい小動物のたくましい生き方！～</p> <p>第5回：羅臼の磯の生物 ～意外と知らない水の中！～</p> <p>第6回：知床の鳥類 ～希少な鳥と増えすぎている鳥～</p> <p>第7回：知床岬の今！ ～世界遺産の核心地、岬で今なにが？！～</p>	
その他	来年度も継続	

番号	主体	名称
2	環境省	羅臼自然保護官事務所主催の自然観察会の実施
開催日		第1回：平成20年10月5日 第2回：平成21年3月20日
参加人数		延べ29名
内容		第1回：秋の紅葉、サケ・マスの遡上などを観察するほか、間欠泉を見学。 第2回：スノーシューで羅臼温泉周辺を歩き、自然観察を行う。 知床の魅力や冬期のマナー等普及啓発を図る。
その他		来年度も継続予定

番号	主体	名称
3	環境省	羅臼ビジターセンター活動推進業務における四季のイベント開催
開催日		
参加人数		
内容		
その他		

番号	主体	名称
4	環境省	知床世界自然遺産地域科学委員会地元報告会
開催日		斜里町：平成20年11月18日（斜里町立知床博物館） 羅臼町：平成20年11月19日（羅臼町公民館）
参加人数		斜里町：約80名、羅臼町：約70名
内容		○調査の現状と今後の方向性について 報告① 知床の海とその管理 知床世界自然遺産海域の生態系の保全と持続的漁業 桜井 泰憲（海域ワーキンググループ座長） 報告② 河川工作物の改良とサケ科魚類 中村太士（元河川工作物ワーキンググループ座長） 報告③ エゾシカの急増とその影響 梶 光一（エゾシカワーキンググループ座長） ○質疑・懇談（30分程度）
その他		

番号	主体	名称
5	環境省	知床世界自然遺産生態系調査報告会の開催
開催日		平成21年2月4日
参加人数		
内容		○調査結果の発表 陸域生態系（エゾシカ・植生）5名 陸域生態系（鳥類・陸上哺乳類）3名 河川生態系3名 海洋生態系5名 社会環境関連調査3名 ○総合討論
その他		

平成21年度以降、環境省以外の主体が実施したイベントについても、上記項目に沿って情報収集・整理を行う。

(2) 普及啓発用資料の作成

番号	主体	名称	概要	備考
1	環境省	知床世界自然遺産地域の有する世界的に顕著な普遍的価値(OUV)に関する環境教育プログラムの検討	地域在住及び知床を訪れる生徒児童が、知床が有する世界的に顕著な普遍的価値(OUV:OutstandingUniversalValue)について分かりやすく認識することができるような資料を作成する。	地域の小中学校に配布するとともに、世界遺産センター等において活用していく。
2	環境省	羅臼ビジターセンター関連パンフレット等の作成と配布。	羅臼ビジターセンターの館内概要パンフを道東の関連施設や札幌駅構内の観光案内所にも配布している。また館内展示の英訳解説ブックも作成しており、本年度中に配布を開始する予定。	平成21年度は中国語版、韓国語版について検討。
3	環境省	羅臼ビジターセンターウェブサイトの運用	平成19年度11月より新たに羅臼ビジターセンターのホームページを公開した。知床国立公園の主に羅臼側の自然や歩道・道路・野営場といった利用施設について、最新の情報を全国へ発信している。今後も内容の充実を図り、世界自然遺産や利用適正化にかかる情報提供を行う予定。 http://rausu-vc.jp/	平成21年度も引き続き内容の充実を図りながら、情報更新を行っていく。
4	環境省	知床データセンターの整備	平成17年度から運用開始している知床データセンターについて、データの整理、機能の見直し、他のHPとの関係などを含めた知床データセンターの方向性について昨年度行われた検討結果を踏まえ、HPのバージョンアップを行った。	今年度完成予定
5	環境省	知床半島中央部地区利用の心得の策定	利用適正化検討会議での議論を踏まえ、2008年10月に知床半島中央部地区利用の心得を策定した。	今後、関係機関配布用の冊子、普及啓発用のポスター等の作成を行い、普及啓発を図るとともに、世界遺産センターの管内展示でも紹介する。
6	環境省	知床国立公園マイカー規制に係る利用者動態予測の実施	幌別地区から知床五湖までの自動車利用の適正化のあり方を検討するため、利用実態の分析や交通シミュレーション等を実施	平成20年度～
7	林野庁	「知床永久の森林づくり協議会」によるパンフ等の作成	平成19年7月に設置された「知床永久の森林づくり協議会」では、年間2～3回の協議会を開催し、知床における国民参加の森林づくり活動の推進について検討し、これまでに、協議会の取組をPRするパンフレットの他、「森林づくり応援マップ」（斜里版、羅臼版）、「森林環境教育ガイド」などを作成。また、平成20年には同協議会のHPを作成。	今後も継続して協議会を開催する。
8	北海道	Web版しれとこ教室の運営管理	出前授業「しれとこ教室」のストーリーをベースに、ホームページにWeb版を平成20年3月に作成し、運営管理を行っている。	継続
9	北海道	エコツアー地域資源のWeb情報発信	平成18年度に調査したエコツアー地域資源178箇所を広く情報発信するため、ホームページにWeb版「eco旅ナビ」を作成し、管理運営を行っている。	継続
10	北海道	山岳トイレ問題に関する普及啓発資料作成・配布	携帯トイレの普及啓発のため、ポスター及びリーフレットを作成。	継続
11	北海道開発局	知床横断道路「今日の知床峠」、「通行規制情報」のHP掲載	釧路、網走開発建設部HPにおいて、知床横断道路の通行規制情報を掲載している。	継続
12	カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会	知床国立公園マイカー規制に係るチラシの作成・配付	道道知床公園線カムイワッカ方面の通行止め及びシャトルバス運行等についてのチラシを作成。	継続

参考資料

1. 報道発表資料（平成20年度）

(1) 環境省

発表日	内容
平成20年5月29日	北海道東部におけるセイヨウオオマルハナバチの監視・防除に御協力下さい！—DVDを作成しました—
平成20年11月21日	知床岬エゾシカ密度操作実験実施について
平成20年11月27日	知床岬エゾシカ密度操作実験について(平成20年11月27日実施結果・速報)
平成20年12月3日	知床岬エゾシカ密度操作実験について(平成20年12月3日実施結果・速報)
平成21年1月15日	「知床世界自然遺産」シンボルマークの募集について(お知らせ)
平成21年1月27日	平成20年度第2回知床世界自然遺産地域科学委員会の開催について(お知らせ)
平成21年1月27日	平成20年度知床世界自然遺産生態系調査報告会について(お知らせ)
平成21年2月16日	「知床五湖の利用のあり方協議会」第一回会合の開催について(お知らせ)
平成21年3月12日	平成20年度 第2回 知床国立公園利用適正化検討会議の開催について(お知らせ)

資料：環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所ホームページ

環境省以外の関係機関については、平成21年度以降、情報収集・整理を行う。

2. 知床地域に関連する事業一覧（平成20年度）

(1) 環境省

	事業(請負業務)名	概要	契約額	モニタリング項目との対応	報告書の公開
陸上生態系及び自然景観の保全	平成20年度GW事業(知床半島におけるエゾシカの植生への影響調査業務)	知床岳・知床沼での植生・エゾシカ採食圧調査、植生保護柵内外の植生回復状況調査、草原におけるエゾシカ採食量調査、土壌浸食状況把握調査	3,717,000	2.4.5.12	
	シマフクロウの脅威となるアライグマの侵入状況調査事業	アライグマについて、知床国立公園周辺の侵入経路や生育状況調査等を実施	1,890,000	16	
	シマフクロウの脅威となるアライグマの捕獲調査事業	アライグマについて、知床国立公園周辺で箱ワナによる捕獲し低密度化を実施	2,992,500	16	
	知床半島における海鳥生息状況調査委託事業	知床半島ウトロ側に生育する海鳥(ケイマフリ等)について、繁殖状況調査等を実施	1,036,350	28	
	知床岬における鳥類相モニタリング等委託事業	知床岬の鳥類相調査を実施し、知床岬における鳥類相の効率的かつ効果的で定量的な調査手法の検討等を実施	498,800	29	
	平成20年度シマフクロウ保護増殖事業	分布、行動圏、生息・繁殖状況等に関する調査、標識装着による生態情報の収集・整備、給餌及び給餌効果確認、溺死・羅網対策、生息地の監視を実施	9,111,712	18	
	平成20年度オオワシ・オジロワシ保護増殖事業(越冬個体数等調査業務)	上川管内、および道央・道南の各管内を主たる対象に越冬個体数等調査と合わせて餌資源調査を実施	1,995,000	20	
	平成20年度オオワシ・オジロワシ保護増殖事業(海ワシ類河川環境利用調査業務)	北海道の河川で越冬する海ワシが餌場や止まり場、わぐらとして利用している環境の構造や特性について調べ、本来の越冬地として好適な河川の環境条件を把握	840,000	21	
	平成20年度オジロワシ保護増殖事業(オジロワシ営巣実態把握調査業務)	オジロワシの営巣に関して、繁殖状況を継続調査して個体群の繁殖力を評価するとともに、繁殖成功率の低い営巣つがいを選定し要因を検討するための基礎的な情報とまとめと調査計画の立案、実施体制構築を実施。	840,000	23	
	平成20年度知床岬エゾシカ密度操作実験業務	知床世界遺産地域におけるエゾシカの適正管理を目的とし、管理手法を具体的に検討するとともに、エゾシカの密度操作の実験を専門家の意見を聞きながら(エゾシカWG)実施。	22,860,790	10	
	知床世界自然遺産地域における利用の適正化と野生生物との共生推進事業	多様化する利用形態と野生生物との軋轢を緩和するため、入込みや海域利用の実態把握と監視、普及・指導等を実施	7,492,800	35	
	知床岬における外来種対策事業	知床岬周辺に生育しているアメリカオニアザミについて、前年までの成果を踏まえた駆除を行うとともに評価等を実施	3,998,400	15	
	知床国立公園におけるセイヨウオオマルハナバチ重点監視事業	セイヨウオオマルハナバチについて、知床国立公園に係る市民によるネットワークの構築や重点監視等の実施	998,600	17	
	平成20年度シマフクロウ保護増殖事業(巣箱設置等業務)	巣箱設置のための事前調査、及び巣箱の新設・架け替え	987,000	19	
	海域の保全	平成20年度釧路湿原野生生物保護センターにおける希少猛禽類飼育等業務	希少猛禽類の傷病個体について、野生復帰を目指して治療とリハビリを行うとともに、死体剖検を・事故原因究明を実施。シマフクロウの幼鳥等の個体管理業務(血液分析等)を実施。	10,368,143	
平成20年度知床半島浅海域生物相・生態系構造調査業務		海域管理計画に基づき、知床世界自然遺産地域における浅海域の生物相・生態系構造をモニタリングしていく。	6,019,650	42	
自然の適正な利用	平成20年度知床半島における海洋観測業務	海域管理計画に基づき、知床半島における海洋環境を把握し、持続可能な資源利用のあり方の検討に資するために、海洋観測ブイの設置、観測、メンテナンス及び解析を行う。	5,250,000	52	
	平成20年度世界自然遺産登山利用における携帯トイレ普及方策の検討	斜里町・羅臼町等関係機関との連携・協働により、知床連山登山道における携帯トイレの普及方策の検討を行う。	1,890,000		
保全・管理事業の実施	平成20年度知床国立公園利用適正化検討調査業務	知床国立公園の利用の心得・利用の調整の検討	8,925,000		
	知床国立公園自動車利用適正化方針検討調査	将来の知床国立公園におけるマイカー規制のあり方の検討	2,835,000		
	知床五湖地区再整備基本計画策定業務	知床五湖の利用のコントロール実施に向けた再整備計画の策定	9,765,000		
	知床エコツーリズム総合推進事業	知床におけるエコツーリズムの推進のため、知床五湖におけるガイド制導入実験、羅臼町における漁業体験ツアー等を実施	6,248,000		
調査研究・モニタリング	知床国立公園ウトロ地区における登山道等保全管理事業	羅臼岳及び知床連山登山道について、浮石除去、ロープ張り等の植生保護対策の整備・補修を実施	999,900		
	国立公園清掃活動事業	自然公園法第12条に基づき、公園内の公共の場について美化清掃を実施	1,000,000		
情報の共有と普及啓発	平成20年度知床世界自然遺産地域生態系モニタリング調査業務	知床の現状・機能把握のための調査及びモニタリング手法の検討、管理手法の開発の検討	15,193,500	54	
	平成20年度知床世界遺産地域に係る情報収集・提供業務	知床世界遺産地域における科学的データの共有や、情報提供・普及啓発を目的としたデータベースの作成・拡充	5,000,000		
	平成20年度知床国立公園における年次報告書作成業務	知床国立公園(知床世界遺産)の年次報告書を作成する	2,940,000		
	知床国立公園羅臼地区における環境教育事業	羅臼VCIにおいて、地域住民を対象とする自然環境や野生生物等を題材とした環境教育プログラム等の実施	966,000		
会議等の運営	平成20年度知床世界自然遺産地域科学委員会運営業務	知床世界遺産センターで実施する環境教育のプログラム作成、知床世界遺産シンボルマークの決定、世界遺産登録についての地域住民の意識調査等を実施	10,022,250		
	平成20年度知床半島エゾシカ保護管理計画実行計画策定業務	知床世界自然遺産地域において、海域と陸域の統合的な管理を行うために必要な科学的助言を得るための科学委員会の運営業務	5,931,450		
		エゾシカWGの運営、実行計画の策定及び季節移動などエゾシカの動態調査	5,565,000		

環境省以外の関係機関については、平成21年度以降、上記項目に沿って情報収集・整理を行う。

3. 知床世界自然遺産地域に係る法令・計画・利用ルール一覧

(1) 関連法令

- 自然環境保全法（環境省）
- 自然公園法（環境省）
- 国有林野の管理経営に関する法律（林野庁）
- 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律（環境省）
- 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）（環境省）
- 森林法（林野庁）
- 文化財保護法（文部科学省）
- 漁業法（農林水産省）
- 水産資源保護法（農林水産省）
- 海洋生物資源の保存及び管理に関する法律（農林水産省）

(2) 関連計画

1) 知床世界遺産管理計画

- 知床世界自然遺産地域管理計画（策定中：環境省、林野庁、北海道）
- 知床半島エゾシカ保護管理計画（平成 18 年 11 月：環境省）
- エゾシカ保護管理計画実行計画（環境省）
- 知床世界自然遺産地域多利用型統合的海域管理計画（平成 19 年 12 月：環境省、北海道）

2) 利用適正化・エコツーリズム

- 知床国立公園適正化利用基本構想（平成 13 年度：環境省）
- 知床半島先端部地区利用適正化基本計画（平成 16 年 12 月：環境省）
- 知床半島中央部地区利用適正化基本計画（平成 17 年 9 月：環境省）
- 知床半島中央部地区利用適正化実行計画（環境省）
- エコツーリズム推進計画（平成 17 年 6 月：知床エコツーリズム推進協議会）
- エコツーリズム推進実施計画（平成 19 年 3 月：知床エコツーリズム推進協議会）

3) 自然保護

- 知床国立公園公園計画（平成 17 年：環境省）
- 知床国立公園管理計画（平成 5 年 3 月：環境省）
- 遠音別岳原生自然環境保全地域保全計画（昭和 55 年：環境省）
- シマフクロウ保護増殖事業計画（平成 5 年 11 月：環境省、農林水産省）
- オオワシ保護増殖事業計画（平成 17 年 12 月：文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省）
- オジロワシ保護増殖事業計画（平成 17 年 12 月：文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省）
- 国指定鳥獣保護区マスタープラン（平成 15 年 3 月：環境省）

(3) 利用ルール

- 知床半島中央部地区利用の心得（平成 21 年 1 月：環境省）
- 知床半島先端部地区利用の心得（平成 20 年 1 月：環境省）
- 知床五湖・カムイワッカ方面通行規制（カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会）
- 知床エコツーリズムガイドライン（平成 19 年 3 月：知床エコツーリズム推進協議会）

4. 知床地域にみられる希少生物

資料：斜里町立知床博物館(2005)：データブック知床・2005

	種数	法による指定種			環境省レッドデータブック								北海道レッドデータブック							
		特別天然記念物	天然記念物	国内希少種	EX	EW	CR	EN	VU	NT	DD	LP	Ex	Ew	Cr	En	Vu	R	Lp	N
希少植物	98						4	24	42	2	1				1	7	15	33		
希少昆虫	21								3	7								15		6
希少魚類	9		1					1		4			1		1				4	
希少爬虫類	2								1											
希少鳥類	53	1	8	12			6	5	10	8	3				5	5	10	30		1
希少哺乳類	28				1		1	3	9	1	2		2				4	8		

法による指定種

天然記念物

動植物（生息地、繁殖地、渡来地及び自生地を含む）、地質鉱物（特異な自然現象の生じている地域を含む）で我が国にとって学術上価値のあるもののうち重要なものを保存することを目的とし、文部科学大臣が「文化財保護法」に基づき指定するもの

国内希少野生動植物種

本邦に生息又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種であって、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づき、政令で定められるもの

カテゴリーの略語

環境省レッドデータブック

EX：絶滅種 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足

北海道レッドデータブック

Ex：絶滅種 Cr：絶滅危機種 En：絶滅危惧種 Vu：絶滅危急種 R：希少種 N：留意種

水産庁レッドデータブック

EN：絶滅危惧種 VU：危急種 R：希少種

IUCN レッドリスト

CR：深刻な危機 EN：危機 VU：危急 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LR：低リスク
(LRはカテゴリーVer. 2.3)

(1) 知床の希少藻類

和名	学名	水産庁
ヒモヒトエゲサ	<i>Capsosiphon groenlandicus</i>	R
コンブモドキ	<i>Akkesiphycus lubricum</i>	R
アツバスジコンブ	<i>Cymathaere japonica</i>	R

(2) 知床の希少植物

和名	学名	環境省	北海道	IUCN
チシマヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium alpinum</i>	EN	R	-
コスギラン	<i>Huperzia selago</i>	-	R	-
エゾノヒモカズラ	<i>Selaginella sibirica</i>	VU	-	-
イワヒバ	<i>Selaginella tamariscina</i>	-	R	-
ヒメミズニラ	<i>Isoetes asiatica</i>	VU	Vu	-
ヒメハナワラビ	<i>Botrychium lunaria</i>	VU	-	-
カラフトメンマ	<i>Dryopteris coreano-montana</i>	-	R	-
ミヤマイワデンダ	<i>Woodsia ilvensis</i>	-	R	-
リシリビャクシン	<i>Juniperus communis</i> ssp. <i>Nana</i> var. <i>nana</i>	EN	Vu	-
ミヤマビャクシン	<i>Sabina chinensis</i> var. <i>sargentii</i>	-	En	-
タライカヤナギ	<i>Salix taraiensis</i>	VU	-	-
エゾノタカネヤナギ	<i>Salix nakamuraana</i> ssp. <i>yezoaloina</i>	EN	-	-
エゾノミズタデ	<i>Persicaria amphibia</i>	-	Vu	-
ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i>	VU	-	-
メアカンフスマ	<i>Arenaria merckioides</i>	-	R	-
シコタンハコベ	<i>Stellaria ruscifolia</i>	VU	-	-
カツラ	<i>Cercidiphyllum japonicum</i>	-	-	LR/nt
シレトコトリカブト	<i>Aconitum maximum</i> var. <i>misaoanum</i>	VU	-	-
キタミフクジュソウ	<i>Adonis amurensis</i>	VU	Vu	-
フタマタイチゲ	<i>Anemone dichotoma</i>	VU	R	-
クロバナハンシヨウヅル	<i>Clematis fusca</i>	VU	R	-
バイカモ	<i>Ranunculus nipponicus</i> var. <i>submersus</i>	-	R	-
チャボカラマツ	<i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>glabrecens</i>	VU	-	-
ネムロコウホネ	<i>Nuphar pumillum</i>	VU	Vu	-
オクエゾサイシン	<i>Asiasarum heterotropoides</i>	-	R	-
エゾオトギリ	<i>Hypericum yezoense</i>	VU	-	-
コマクサ	<i>Dicentra peregrina</i>	-	R	-
トモシリソウ	<i>Cochlearia oblongifolia</i>	EN	Vu	-
ハマタイセイ	<i>Isatis yezoensis</i>	CR	En	-
ムラサキベンケイソウ	<i>Hylotelephium pallescens</i>	DD	-	-
コモチレンゲ	<i>Orostachys boehmeri</i>	VU	-	-
トカチスグリ	<i>Ribes triste</i>	EN	-	-
メアカンキンバイ	<i>Potentilla miyabei</i>	CR	-	-
カラフトイバラ	<i>Rosa davurica</i> var. <i>alpestris</i>	-	R	-
エゾシモツケ	<i>Spiraea media</i> var. <i>sericea</i>	EN	-	-
エゾモメンヅル	<i>Astragalus japonicus</i>	-	En	-
カラフトゲンゲ	<i>Hedysarum hedysaroides</i>	VU	R	-
チシマウスバスマレ	<i>Viola hultenii</i>	VU	R	-
シレトコスミレ	<i>Viola kitamiana</i>	-	Vu	-
オオタチツボスマレ	<i>Viola kamtschadalarum</i>	VU	-	-
タニマスマレ	<i>Viola repens</i>	CR	Cr	-
ヌマゼリ	<i>Sium suave</i>	EN	-	-
チシマツガザクラ	<i>Bryanthus gmelinii</i>	VU	-	-
エゾコザクラ	<i>Primula cuneifolia</i>	-	R	-
ユキワリコザクラ	<i>Primula farinosa</i> ssp. <i>modesta</i> var. <i>fauriei</i>	-	Vu	-
レブンコザクラ	<i>Primula farinosa</i> ssp. <i>modesta</i> var. <i>matsumurae</i>	VU	R	-
エゾオオサクラソウ	<i>Primula jesoana</i> var. <i>pubescens</i>	-	R	-
ホロムイリンドウ	<i>Gentiana triflora</i> var. <i>japonica</i> form. <i>horomuiensis</i>	-	R	-
ホソバツルリンドウ	<i>Pterygocalyx volubilis</i>	EN	-	-
バシクルモン	<i>Apocynum venetum</i>	EN	Vu	-
ムシャリンドウ	<i>Dracocephalum argunense</i>	EN	Vu	-
ミヤマシオガマ	<i>Pedicularis apodochila</i>	-	R	-
ネムロシオガマ	<i>Pedicularis schistostegia</i>	VU	R	-
エゾヒメクワガタ	<i>Veronica stelleri</i> var. <i>longistyla</i>	VU	-	-

和名	学名	環境省	北海道	IUCN
タヌキモ	<i>Utricularia vulgaris</i> var. <i>japonica</i>	VU	R	-
エゾヒョウタンボク	<i>Lonicera alpigena</i> var. <i>glehnii</i>	EN	-	-
チシマヒョウタンボク	<i>Lonicera chamissoi</i>	VU	-	-
ネムロブシダマ	<i>Lonicera chrysantha</i> var. <i>crassipes</i>	VU	-	-
ベニバナヒョウタンボク	<i>Lonicera maximowiczii</i> var. <i>sachalinensis</i>	VU	-	-
チシマキンレイカ	<i>Patrinia sibirica</i>	EN	-	-
イワヨモギ	<i>Artemisia gmelini</i>	VU	-	-
マシュウヨモギ	<i>Artemisia koidzumii</i> var. <i>tsuneoi</i>	VU	-	-
シコタンヨモギ	<i>Artemisia lasiniata</i>	VU	-	-
エゾノヨモギギク	<i>Tanacetum vulgare</i>	VU	En	-
シコタンタンポポ	<i>Taraxacum shikotanense</i>	EN	-	-
ホソバノシバナ	<i>Triglochin palustre</i>	VU	-	-
クロユリ	<i>Fritillaria camtschaticense</i>	-	R	-
エゾヒメアマナ	<i>Gagea vaginata</i>	VU	R	-
ミヤマイワデンダ	<i>Juncus beringensis</i>	NT	R	-
ミヤマホソコウガイゼキショウ	<i>Juncus kamtschaticensis</i>	-	R	-
エゾノミクリゼキショウ	<i>Juncus mertensianus</i>	EN	R	-
セキショウイ	<i>Juncus prominens</i>	EN	-	-
クモマスズメノヒエ	<i>Luzula arcuata</i> ssp. <i>unalaschkensis</i>	NT	-	-
ホソバウキミクリ	<i>Sparganium angustifolium</i>	VU	R	-
チシマミクリ	<i>Sparganium hyperboreum</i>	EN	R	-
タマミクリ	<i>Sparganium glomeratum</i>	VU	-	-
オハグロスゲ	<i>Carex bigelowii</i>	EN	R	-
タルマイスゲ	<i>Carex buxbaumii</i>	EN	R	-
ネムロスゲ	<i>Carex gmelinii</i>	VU	-	-
タカネハリスゲ	<i>Carex pauciflora</i>	VU	-	-
イトヒキスゲ	<i>Carex remotiuscula</i>	EN	-	-
シュミットスゲ	<i>Carex schmidtii</i>	VU	Vu	-
シコタンスゲ	<i>Carex scita</i> ssp. <i>scabrinervia</i>	VU	-	-
ヒメウシオスゲ	<i>Carex subspathacea</i>	CR	-	-
ミヤケスゲ	<i>Carex subumbellata</i>	EN	R	-
ヌイオスゲ	<i>Carex vanheurckii</i>	VU	-	-
シロミノハリイ	<i>Eleocharis margaritacea</i>	EN	Vu	-
タカネクロスゲ	<i>Scirpus maximowiczii</i>	VU	-	-
キンセイラン	<i>Calanthe nipponica</i>	EN	En	-
サルメンエビネ	<i>Calanthe tricarinata</i>	EN	En	-
コイチヨウラン	<i>Ephippianthus schmidtii</i>	-	En	-
コフラバラン	<i>Listera cordata</i> var. <i>japonica</i>	-	R	-
タカネフタバラン	<i>Listera yatabei</i>	-	Vu	-
アリドオシラン	<i>Myrmecis japonica</i>	-	R	-
ヒメムヨウラン	<i>Neottia asiatica</i>	VU	Vu	-
タカネトンボ	<i>Platanthera chorisiana</i>	VU	-	-
ヒロハノトンボソウ	<i>Platanthera fuscescens</i>	EN	-	-
トキシウ	<i>Pogonia japonica</i>	VU	Vu	-

(3) 知床の希少陸産貝類

和名	学名	環境省
クシロキバサナギガイ	<i>Vertigo kushiroensis</i>	NT
エゾミジンマイマイ	<i>Vallonia patens</i>	DD

(4) 知床の希少昆虫

和名	学名	環境省	北海道	法による指定種
マンシュウイトトンボ	<i>Ischnura elegans elegans</i>	NT	R	-
イイジマルリボシヤンマ	<i>Aeshna subarctica</i>	NT	R	-
サラサヤンマ	<i>Oligoaeschna pryeri</i>	-	R	-
エゾアカネ	<i>Sympetrum flaveolum flaveolum</i>	-	R	-
マイコアカネ	<i>Sympetrum kunkeli</i>	-	R	-
ムカシトンボ	<i>Epiophlebia superstes</i>	-	N	-
カラフトキリギリス	<i>Decticus verrucivorus</i>	-	R	-
オオウスバカゲロウ	<i>Heoclisis japonica</i>	-	R	-
シレトコマルクビゴミムシ	<i>Nebria shibanaii shiretokoana</i>	-	R	-
ゲンゴロウ	<i>Cybister japonocus</i>	NT	R	-
エトロフハナカミキリ	<i>Leptura variicornis</i>	-	R	-
クワヤマトラカミキリ	<i>Xylotrechus rusticus</i>	-	R	-
ケマダラカミキリ	<i>Agapanthia daurica</i>	NT	N	-
ミヤマモギハムシ	<i>Chysolina porosirensis</i>	-	R	-
ギンイチモンジセセリ	<i>Leptalina unicolor</i>	-	N	-
ヒメギフチョウ北海道亜種	<i>Luehdorfia puziloi yessoensis</i>	NT	R	-
アサマシジミ北海道亜種	<i>Lycaeides subsolanus iburiensis</i>	VU	R	-
カラフトリシジミ	<i>Vaccuniina optilete daisetsuzana</i>	NT	R	天然記念物
ゴマシジミ	<i>Maculinea teleius</i>	VU	N	-
ヒョウモンチョウ北日本亜種	<i>Brenthis daphne iwatensis</i>	NT	N	-
オオイチモンジ	<i>Limenitis populi jezoensis</i>	VU	N	-

(5) 知床の希少魚類

和名	学名	環境省	北海道	水産庁	IUCN
シベリアヤツメ	<i>Lethenteron kessleri</i>	NT	R	R	-
ダウリアチョウザメ	<i>Huso dauricus</i>	-	-	-	EN
チョウザメ	<i>Acipenser medirostris</i>	-	EX	EN	VU
ヤチウグイ	<i>Phoxinus phoxinus sachalinensis</i>	NT	-	-	-
シラウオ	<i>Salangichthys microdon</i>	-	R	-	-
イトウ	<i>Hucho perryi</i>	EN	CR	VU	-
オシロコマ	<i>Salvelinus malma</i>	NT	R	-	-
エゾトミヨ	<i>Pungitius tymensis</i>	NT	R	-	-
マツカワ	<i>Verasper moseri</i>	-	-	R	-

(6) 知床の希少爬虫類

和名	学名	環境省	北海道	水産庁	IUCN
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	VU	-	R	EN
オサガメ	<i>Dermochelys coriacea</i>	-	-	EN	CR

(7) 知床の希少鳥類

和名	学名	環境省	北海道	水産庁	IUCN	法による指定種
カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>	-	Vu	-	-	-
チシマウガラス	<i>Phalacrocorax urile</i>	CR	Cr	EN	-	国内希少種
ミソゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	NT	-	-	EN	-
チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	NT	R	R	-	-
コクガン	<i>Branta bernicla</i>	VU	R	R	-	天然記念物
マガン	<i>Anser albifrons</i>	NT	R	-	-	天然記念物
ヒシクイ	<i>Anser fabalis</i>	VU	R	-	-	天然記念物
コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>	-	R	-	-	-
オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	-	R	-	-	-
トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	VU	R	-	VU	-
シノリガモ	<i>Histrionicus histrionicus</i>	-	R	-	-	-
ミコアイサ	<i>Mergus albellus</i>	-	Vu	-	-	-
ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	NT	Vu	-	-	-
オジロワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>	EN	En	-	NT	国内希少種・天然記念物
オオワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>	VU	En	-	VU	国内希少種・天然記念物
オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	VU	Vu	-	-	国内希少種
ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	NT	Vu	-	-	-
ケアシノスリ	<i>Buteo lagopus</i>	-	R	-	-	-
クマタカ	<i>Spizaetus nipalensis</i>	EN	En	-	-	-
イヌワシ	<i>Aquila chrysaetos</i>	EN	En	-	-	国内希少種
ハイロチュウウヒ	<i>Circus cyaenus</i>	-	R	-	-	国内希少種・天然記念物
チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>	VU	Vu	-	-	-
シロハヤブサ	<i>Falco rusticolus</i>	-	R	-	-	-
ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	VU	Vu	-	-	国内希少種
エゾライチョウ	<i>Tetrastes bonasia</i>	DD	R	-	-	-
ウズラ	<i>Coturnix japonica</i>	DD	R	-	-	-
タンチョウ	<i>Grus japonensis</i>	VU	En	-	EN	国内希少種・天然記念物
クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	-	R	-	-	-
ヒメクイナ	<i>Porzana pusilla</i>	-	R	-	-	-
オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	NT	Cr	-	-	-
セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>	EN	R	R	-	-
ウミガラス	<i>Uria aalge</i>	CR	Vu	EN	-	国内希少種
ウミバト	<i>Cephus columba</i>	-	R	-	-	-
ケイマフリ	<i>Cephus carbo</i>	VU	Vu	EN	-	-
マダラウミスズメ	<i>Brachyramphus marmoratus</i>	DD	Cr	R	VU	-
ウミスズメ	<i>Synthliboramphus antiquus</i>	CR	R	EN	-	-
エトピリカ	<i>Lunda cirrhata</i>	CR	Cr	EN	-	国内希少種
シロフクロウ	<i>Nyctea scandiaca</i>	-	R	-	-	-
ワシミミズク	<i>Bubo bubo</i>	CR	Cr	-	-	国内希少種
シマフクロウ	<i>Ketupa blakistoni</i>	CR	Cr	-	EN	国内希少種・天然記念物
トラフズク	<i>Asio otus</i>	-	R	-	-	-
キンメフクロウ	<i>Aegolius funereus</i>	EN	R	-	-	-
ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	-	R	-	-	-
ヤマセミ	<i>Ceryle lugubris</i>	-	R	-	-	-
アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>	-	R	-	-	-
クマガラ	<i>Dryocopus martius</i>	VU	Vu	-	-	天然記念物
オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	-	N	-	-	-
コアカゲラ	<i>Dendrocopos minor</i>	-	R	-	-	-
ツメナガセキレイ	<i>Motacilla flava</i>	-	R	-	-	-
アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>	NT	R	-	-	-
ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	-	-	-	NT	-
シマアオジ	<i>Emberiza aureola</i>	NT	R	-	-	-
ギンザンマシコ	<i>Pinicola enucleator</i>	-	R	-	-	-

(8) 知床の希少哺乳類

和名	学名	環境省	北海道	水産庁	IUCN
トウキョウトガリネズミ	<i>Sorex minutissimus hawkeri</i>	VU	Vu	-	-
ウスリドーベントンコウモリ	<i>Myotis daubentonii ussuriensis</i>	VU	R	-	-
ウスリホオヒゲコウモリ	<i>Myotis gracilis</i>	VU	R	-	-
ヒメホオヒゲコウモリ	<i>Myotis ikonnikovi</i>	EN	Vu	-	-
カグヤコウモリ	<i>Myotis frater</i>	VU	R	-	LR/nt
キタクビワコウモリ	<i>Eptesicus nilssonii</i>	EN	-	-	-
ニホンウサギコウモリ	<i>Plecotus auritus sacrimontis</i>	VU	-	-	-
チチブコウモリ	<i>Barbastella leucomelas</i>	VU	R	-	-
テングコウモリ	<i>Murina leucogaster</i>	VU	R	-	-
コテングコウモリ	<i>Murina ussuriensis silvatica</i>	VU	R	-	EN
エゾオオカミ	<i>Canis lupus hattai</i>	EX	Ex	-	-
エゾクロテン	<i>Martes zibellina brachyura</i>	DD	-	-	-
エゾオコジョ	<i>Mustela erminea orientalis</i>	NT	Vu	-	-
カワウソ	<i>Lutra lutra</i>	CR	Ex	EN	NT
ラッコ	<i>Enhydra lutris</i>	DD	R	EN	EN
トド	<i>Eumetopias jubatus</i>	VU	R	R	EN
オットセイ	<i>Callorhinus ursinus</i>	-	-	-	VU
ゼニガタアザラシ	<i>Phoca vitulina</i>	EN	Vu	VU	-
エゾリス	<i>Sciurus vulgaris orientis</i>	-	-	-	NT
エゾモモンガ	<i>Pteromys volans</i>	-	-	-	LR/nt
マッコウクジラ	<i>Physeter macrocephalus</i>	-	-	-	VU
アカボウクジラ	<i>Ziphius cavirostris</i>	-	-	R	DD
ツチクジラ	<i>Berardius bairdii</i>	-	-	-	LR/nt
オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	-	-	R	DD
ネズミイルカ	<i>Phocoena phocoena</i>	-	-	R	VU
イシイルカ	<i>Phocoena dalli</i>	-	-	-	LR/nt
シャチ	<i>Orcinus arca</i>	-	-	R	LR/nt
ザトウクジラ	<i>Megaptera novaeangliae</i>	-	-	R	VU

5. 知床世界自然遺産に係る新聞報道一覧

掲載年月日	新聞社	掲載面	タイトル
平成20年4月7日	毎日新聞		日露平和公園協会:ラッコの愛称募集、採用者にはコンプ
平成20年4月20日	読売新聞		雪壁の高さ5～6m、知床横断道をウオーク
平成20年7月21日	朝日新聞		女子中学生、テント押すヒグマ撃退 妹と思い蹴る、知床
平成20年10月6日	日本経済新聞		地球温暖化の影響を監視 世界自然遺産3カ所で
平成20年10月14日	読売新聞		自然を踏破する「知床紅葉ウオーク」に250人参加
平成21年1月14日	読売新聞		知床記者の見てある記 私は百姓、自然を守ることは生きること
平成21年1月17日	日本経済新聞		外来ハチ、北海道で急増 在来種駆逐の可能性も
平成21年1月28日	読売新聞		知床記者の見てある記 世界自然遺産誕生、知床を死の川にするな
平成21年2月1日	朝日新聞		オホーツク海沿いを走る「流水ノロッコ号」運行開始 2009-02-01
平成21年2月7日	朝日新聞		日の出に染まる国後島 北方領土の日、島望むエコツアー
平成21年2月11日	読売新聞		知床記者の見てある記 海と森と空をつなぐもの
平成21年2月16日	北海道新聞		氷下、幻想の世界 斜里 群青、濃く淡く
平成21年2月24日	朝日新聞		斜里町、ポイ捨てに「罰金」 知床きれいに
平成21年2月25日	北海道新聞		巨大シヤチ堂々 羅臼で骨格標本を公開
平成21年2月25日	北海道新聞		流水隆々 知床に「山脈」
平成21年2月25日	読売新聞		知床記者の見てある記 絵本で教えるヒグマとの距離
平成21年2月28日	北海道新聞		日ロでオホーツク海生態系保全を 8日に札幌でシンポ
平成21年3月4日	北海道新聞		中国の人氣女優、道東訪ね写真集発刊へ 大ヒット映画の舞台
平成21年3月5日	北海道新聞		朝日浴びてオオワシ悠々 羅臼沖 流水上で羽休め
平成21年3月9日	北海道新聞		中国の人氣女優が道東満喫中 「北海道宣伝したい」
平成21年3月9日	毎日新聞		日露協力シンポジウム：オホーツク海の生態系保全 札幌で初開催
平成21年3月11日	読売新聞		知床記者の見てある記 極彩色の世界、流水の海に潜った
平成21年3月12日	日本経済新聞		流水の季節到来2009
平成21年3月12日	読売新聞		知床から流水接岸-南極観測船ふじに展示
平成21年3月14日	朝日新聞		流水との歩み 本に 郷土史家 菊地さん
平成21年3月18日	朝日新聞		もう「海明け」 流水観光に打撃
平成21年3月29日	読売新聞		温暖化 北海道に異変

6. 知床世界自然遺産に係るテレビ番組

放送日	放送局	番組名	タイトル
平成18年11月12日	テレビ朝日系列	「素敵な宇宙船地球号」	「世界遺産の光と影 Vol.4」～知床一年目のタメ息～
平成19年3月18日	テレビ朝日系列	「素敵な宇宙船地球号」	「世界遺産の光と影 Vol.6」～知床漁師 悲しみの海峡 北の海に生きる男たちの闘い～
平成20年1月4日	テレビ朝日系列	全国ネット「地球危機2008」	何気なく暮らしている暮らしている人たちへ
平成21年2月28日	テレビ東京	「地球街道」	疾走！冬こそ北海道！！知床の滝を目指して
平成21年3月22日	テレビ朝日系列	「素敵な宇宙船地球号」	「空から地球を記録する男2」～世界初！超低空の流水～

7. 知床世界自然遺産に係る映像媒体

タイトル	発売日	発売元	価格	メディア
報道ステーション 矢野健夫 感動絶景シリーズ～知床	平成20年3月19日	ポニーキャニオン	¥3,990	DVD
世界遺産 日本編7 知床Ⅱ	平成19年10月24日	TBS	¥3,990	DVD
virtual trip 釧路・知床—frozen land—	平成19年9月5日	ポニーキャニオン	¥2,940	DVD
北海道 北の大地の息吹 ～日本の美・絶景～	平成19年2月13日	HESHIKI.JP	¥3,680	DVD
高山植物 花々が咲く、名山を歩く	平成18年11月30日	竹緒	¥3,990	DVD
世界自然遺産 知床 花のころ [SPRING & SUMMER]	平成18年8月20日	株式会社エムティアル	¥2,100	DVD
世界自然遺産 知床 風のところ [AUTUMN & WINTER]	平成18年8月20日	株式会社エムティアル	¥2,100	DVD
映像大陸北海道vol. 11 知床7月静かな野生	平成18年6月21日	山崎一	¥500	DVD
四季・知床半島～ヒグマ親子の物語～	平成18年3月24日	NHKエンタープライズ	¥3,990	DVD
知床・音楽紀行	平成18年1月7日	ディスカバリーファーム	¥1,500	DVD
知床の森に巨鳥オジロワシが舞う/石井英二	平成17年12月7日	BMG JAPAN	¥3,675	DVD
世界遺産・知床 地の果てに残る聖域	平成17年11月10日	シンフォレスト	¥3,990	DVD
知床悠久の半島	平成17年9月10日	HTB北海道	¥3,500	DVD
氷のゆりかご 知床 立松和平が行く流水と森の小宇宙	平成17年7月20日	ソニー・ミュージックディストリビューション	¥3,800	DVD
映像大陸北海道vol. 3 ～冬の使者・流水	平成17年	山崎一	¥500	DVD
ユネスコ 世界自然遺産 SPECIAL DV 知床	平成17年	ケンメディア		
未来に残したい日本の自然100選全6巻	平成15年	ユーキャン	¥47,250	DVD/ビデオ
北海道・夏 virtual trip	平成14年5月1日	ポニーキャニオン	¥2,940	DVD

8. 知床世界自然遺産に係る普及啓発資料

大分類	小分類	名称	概要	作成年度	作成者	主な配布先
紙媒体	パンフレット	羅臼ビジターセンターパンフレット	羅臼ビジターセンターの紹介	平成19年度	釧路自然環境事務所	羅臼ビジターセンター
		知床半島先端部地区へ立ち入る方へ	先端部地区利用の心得の普及啓発	平成19年度	釧路自然環境事務所	羅臼ビジターセンター
		世界遺産センターパンフレット(日本語/英語/韓国語/中国語(簡体・繁体))	世界遺産センターとルサフィールドハウスの紹介	平成20年度	釧路自然環境事務所	各ビジターセンター等
	冊子	知床国立公園ガイドブック(日本語/英語/韓国語/中国語(簡体・繁体))	知床国立公園の紹介	平成20年度	釧路自然環境事務所	羅臼ビジターセンター
		知床半島中央部地区利用の心得	知床半島中央部地区利用の心得	平成20年度	釧路自然環境事務所	羅臼ビジターセンター
		知床半島先端部地区利用の心得	知床半島先端部地区利用の心得	平成19年度	釧路自然環境事務所	羅臼ビジターセンター
		羅臼ビジターセンターガイドブック(英語)	羅臼ビジターセンター展示の英語解説	平成20年度	釧路自然環境事務所	羅臼ビジターセンター
		未来に遺すたからものー北の希少な生きものたちー	道内の保護増殖対象種7種について保護の取り組み等を紹介	平成19年度	釧路自然環境事務所	各ビジターセンター等
	チラシ・ポスター	知床連山を登山される方へ	登山をするうえでの注意事項等	平成18年度	釧路自然環境事務所	羅臼ビジターセンター
		羅臼湖を訪れる皆様へのお願い	羅臼湖ハイキングをするうえでの注意事項等	平成18年度	釧路自然環境事務所	羅臼ビジターセンター
		利用の心得ポスター(日本語・英語)	利用の心得(10の約束)を紹介	平成20年度	釧路自然環境事務所	ー
		やさしく野鳥を見守ってー自然の鳥たちと共存していくために	わたしたちが野鳥のためにできること	平成20年度	釧路自然環境事務所	保護官事務所、ビジターセンター等
	その他の媒体	ウェブサイト	知床国立公園	知床国立公園の紹介	ー	環境省
知床世界遺産			知床世界遺産関係HPのポータルサイト	平成20年度	釧路自然環境事務所	http://shiretoko-whc.jp/
知床データセンター			知床に係る計画、会議資料、調査報告書などを掲載	平成17年度	釧路自然環境事務所	http://dc.shiretoko-whc.com/
映像DVD		世界自然遺産知床～流水からはじまる生き物のつながり～	知床世界遺産センター・ガイダンス映像	平成20年度	釧路自然環境事務所	ー
		中央部利用者向けレクチャー／先端部利用者向けレクチャー	知床世界遺産センター・レクチャー映像	平成20年度	釧路自然環境事務所	ー
		世界自然遺産知床～流水からはじまる生き物のつながり～＋中央部利用者向けレクチャー	知床世界遺産センター・ガイダンス＋レクチャー映像	平成20年度	釧路自然環境事務所	ー
		知床・羅臼の四季	羅臼ビジターセンター・ガイダンス映像	平成19年度	釧路自然環境事務所	ー
		セイヨウオオマルハナバチの分布拡大防止に御協力下さいー市民の皆様、あなたの力が必要ですー	セイヨウオオマルハナバチの普及啓発DVD	平成19年度	釧路自然環境事務所	保護官事務所、ビジターセンター等

環境省以外の関係機関については、平成21年度以降、情報収集・整理を行う。

9. 知床国立公園・知床世界自然遺産に係る年表

年代	事項
約 8000 年前～	縄文文化期早期の遺跡(幌別川口遺跡)
約 2000 年前～	続縄文文化期の遺跡(知床岬遺跡など)
約 6～12 世紀	オホーツク文化期(知床岬遺跡・ポンベツ遺跡・相泊遺跡など)
8～13 世紀	擦文文化期が並立(幌別 1 遺跡など)
14 世紀～18 世紀	アイヌ文化期(知床岬遺跡など)
14 世紀	最も新しい羅臼岳の噴火活動
1669 年(寛文 9 年)	シャクシャインの乱にルジャとシレットコタンなどのアイヌが参加(文献上最初の知床に関する記述)
1789 年(寛政元年)	寛政蝦夷の乱に目梨領(羅臼)のアイヌが参加
1790 年(寛政 2 年)	シャリ場所分設
1846 年(弘化 3 年)	松浦武四郎初めて斜里・知床岬間を往復
1858 年(安政 5 年)	松浦武四郎羅臼か半島を一周し斜里へ「知床日誌」にはアイヌ集落の状況や硫黄山噴火を記述
1859～67 年(安政 6 年～慶応 3 年)	会津藩による硫黄採掘事業
1873 年(明治 6 年)	開拓史の雇米人地質学者ライマンが知床硫黄山を調査
1878 年(明治 11 年)	皆月善六による硫黄採掘始まる(明治 36 年まで継続)
1880 年(明治 13 年)	知床硫黄山噴火、明治 22、23、28 年にも硫黄噴出
1910 年(明治 43 年)	岩尾別原野が植民地区画される
1914 年(大正 3 年)	岩尾別に最初の開拓者入植。その後集団入植で開拓者増加するが、大正 8 年頃のバツタの大発生などにより、大正 14 年(1925 年)までに全戸
1936 年(昭和 11 年)	燧燐硫黄山噴火・硫黄噴出(昭和 15 年まで硫黄採掘)
1937 年(昭和 12 年)	岩尾別に再度入植はじまる
1949 年(昭和 24 年)	戦後緊急開拓政策による岩尾別入植
1953 年(昭和 28 年)	知床半島初の学術調査が館脇操、犬飼哲夫氏らにより実施される
1958 年(昭和 33 年)	斜里ウトロ間の道路開通
1959 年(昭和 34 年)	作家戸川幸夫が知床の自然や野生動物を紹介
1961 年(昭和 36 年)	国の自然公園審議会が知床の国立公園指定を答申
1962 年(昭和 37 年)	知床林道着工(1969 年開通)
1963 年(昭和 38 年)	開発道路宇登呂羅臼線(知床横断道路)着工
同年	知床岬に無人灯台完成
同年	知床岬にロッジ建設計画。地元住民の反対などで中止。
1964 年(昭和 39 年)	知床国立公園指定(1984 年、95 年に公園計画の改訂、保護強化)
1965 年(昭和 40 年)	北海道教育委員会による知床半島特別調査実施される
1966 年(昭和 41 年)	岩尾別開拓地に残る最後の 24 戸が集団移転
同年	知床国立公園羅臼管理官事務所開設される
1971 年(昭和 46 年)	「知床旅情」のヒットによる知床ブームで観光客増加
1972 年(昭和 47 年)	斜里町自然保護条例制定
1974 年(昭和 49 年)	斜里羅臼両町による「知床憲章」制定
同年	斜里町の自然保護団体「青い海と緑を守る会(知床自然保護協会の前身)」が発足
1977 年(昭和 52 年)	知床 100 平方メートル運動スタート
同年	知床岬地区(分吉湾)に避難港完成
1978 年(昭和 53 年)	知床博物館開館
1979～80 年(昭和 54～55 年)	北海道による知床半島自然生態系総合調査実施
1980 年(昭和 55 年)	知床横断道路開通
同年	第 1 回知床自然教室開催
同年	遠音別岳原生自然環境保全地域指定
1981 年(昭和 56 年)	地元と道内自然保護団体合同の知床横断道路事後調査実施
1982 年(昭和 57 年)	国設知床鳥獣保護区指定。これ以降斜里猟友会が春グマ駆除自粛
同年	シマフクロウ保護増殖事業開始
1983 年(昭和 58 年)	羅臼ビジターセンター開館
1984 年(昭和 59 年)	環境庁による遠音別岳原生自然環境保全地域調査実施
1986 年(昭和 61 年)	半島先端部のウイヌプリ岳稜線で山火事発生
1986～87 年(昭和 61～62 年)	知床国有林伐採問題
1988 年(昭和 63 年)	知床自然センター開設。自然トピアしれとこ管理財団(現・知床財団)設立。
同年	国有林伐採計画中止。知床森林センター開所
1990 年(平成 2 年)	知床森林生態系保護地域指定
同年	スノーモービル乗り入れ規制開始
1991 年(平成 3 年)	ウトロに国立公園管理官配置
同年	国立公園内民有林の伐採計画不許可処分。(後に道が民有林買い上げ)
1997 年(平成 9 年)	知床 100 平方メートル運動募金目標達成、新運動(知床 100 m ² 運動の森トラスト)開始
1999 年(平成 11 年)	知床五湖・カムイワッカ間の車両規制実施
2002 年(平成 14 年)	国指定知床鳥獣保護区の改訂(面積拡大、特別保護指定区域設定等)
2003 年(平成 15 年)	知床森林生態系保護地域の改訂(保存地区、保全利用地区共に拡大)
2004 年(平成 16 年)	日本政府がユネスコに知床の世界自然遺産登録を推進
2005 年(平成 17 年)	知床が世界自然遺産に登録される(第 29 回世界遺産委員会)
同年	知床国立公園の区域を沿岸 1km から 3km に拡張
2006 年(平成 18 年)	ルジャ川(北海道)、赤イ川(林野庁)のダムの改良
同年	エゾシカ WG での助言をもとに「知床半島エゾシカ保護管理計画」策定
2007 年(平成 19 年)	知床エコツーリズム推進協議会が「知床エコツーリズムガイドライン」策定
同年	海域 WG の助言をもとに「知床世界遺産地域多利用型統合的・海域管理計画」策定
同年	ピリカベツ川(林野庁)、サンルイ川のダムの改良
同年	知床岬エゾシカ密度操作実験を開始
2008 年(平成 20 年)	「知床国立公園先端部地区利用の心得」の策定
同年	ユネスコ世界遺産センター及び国際自然保護連合(IUCN)による現地調査
2009 年(平成 21 年)	ウトロ地区に知床世界遺産センターを開館予定(4 月) ルサ地区にフィールドハウスを開館予定(7 月)

10. 拠点施設の概要

(1) 羅臼ビジターセンター

知床世界自然遺産・知床国立公園の羅臼側の玄関口として自然、文化、利用等に関する情報を模型、標本、映像、写真等により展示・解説し、利用者に対して興味対象などの案内や普及啓発を行うための施設。

場 所	遺産地域内(北海道目梨郡羅臼町湯ノ沢町6番地27)
敷地面積	11,428.32㎡
建築面積	831.38㎡
構 造	RC造一部木造平屋建て
内 容	情報提供スペース、会議室兼レクチャールーム、特別展示室、ライブラリーコーナー
開館年月	平成19年5月(リニューアル)
設 置 者	環境省
管 理 者	環境省
運 営 体 制	環境省、羅臼町 10名
開館時間	9:00～17:00(5月1日～10月31日)、10:00～16:00(11月1日～4月30日)
休 館 日	月曜日及び年末年始

(2) 知床ボランティア活動施設

森林ボランティア団体や教育機関、環境保全に関心の高い企業等多様な主体が森林づくり活動や森林環境教育を実践するための拠点施設。

場 所	遺産地域外(斜里郡斜里町ウトロ香川1377林班(国設知床野営場内))
敷地面積	1,890.30㎡
建築面積	375.05㎡(延べ床面積319.90㎡)
構 造	木造平屋建て
内 容	レクチャースペース、会議室、休養室、倉庫・作業室等
開館年月	平成20年5月
設 置 者	林野庁
管 理 者	林野庁
運 営 体 制	
開館時間	9:00～17:00、9:00～19:00(7月～8月)
休 館 日	水曜日及び年末年始

(3) 知床世界遺産センター

世界遺産地区の入り口施設として、大勢の観光客に対し、原始的な自然が残る知床の魅力を伝え利用ルールやマナーを必ず守るよう啓発を行う。また、地域住民、研究者、学生等が、知床世界遺産の管理について最新の情報を入手できる施設。

場 所	遺産地域外(北海道斜里郡斜里町ウトロ西186番1)
敷地面積	約2,800㎡
建築面積	約750㎡
構 造	木造平屋建て
内 容	情報提供スペース、レクチャールーム、展示スペース、休憩スペース、会議室
開館年月	平成21年4月
設 置 者	環境省
管 理 者	環境省
運 営 体 制	環境省、北海道、斜里町、(財)自然公園財団知床支部 9～10名
開館時間	8:30～17:30(夏期:4月20日～10月20日)、9:00～16:30(冬期:10月21日～4月19日)
休 館 日	火曜日(10月21日～4月19日)、年末年始(12月29日～1月3日) ※夏期は無休

(4) 知床世界遺産ルサフィールドハウス

先端部地区の入り口施設として、先端部地区利用のマナー・ルール並びに野生生物の保護管理をベースとした適切な接し方についての普及啓発を行う。また、知床世界自然遺産地域内における人間活動の今昔とその主な舞台となってきた知床の海についての情報提供を行う施設。

場 所	遺産地域外(北海道目梨郡羅臼町北浜8番)
敷地面積	約1,500㎡
建築面積	約260㎡
構 造	木造一部二階建て
内 容	レクチャースペース、展示室スペース、情報提供スペース、休憩スペース、展望スペース
開館年月	平成21年6月
設 置 者	環境省
管 理 者	環境省
運 営 体 制	環境省、北海道、羅臼町 2名
開館時間	9:00～17:00(5月1日～10月31日)、10:00～16:00(2月1日～4月30日) ※11月1日～1月31日は閉館
休 館 日	火曜日 ※冬期は積雪状況等により臨時休館することがある

(5) 知床自然センター

知床半島の原生的な自然環境の保全及びその再生と賢明かつ持続的な利用の推進を目的として、自然保護思想の普及啓発や利用案内、自然観察、ボランティアの指導育成、安全指導その他の情報発信の拠点施設。

場 所	遺産地域内(斜里郡斜里町岩宇別531)
敷地面積	3,750㎡
建築面積	1,707㎡
内 容	大型映像展示「ダイナビジョン」、インフォメーション、ロビー展示、売店、喫茶・レストラン
開館年月	昭和63年9月
設 置 者	斜里町
管 理 者	財団法人知床財団
運 営 体 制	
開館時間	8:00～17:40(4/20～10/20)、9:00～16:00(10/21～4/19)
休 館 日	12/31

(6) 斜里町立知床博物館

斜里町中心部に位置し、野生生物の調査研究、教育普及活動、天然記念物及び傷病鳥獣の保護管理を行うとともに、資料収集及び収集資料の保管・提供を行う拠点施設。ハマナス、エゾスカシユリなどの海岸草原を代表的する花も間近で観察できる野外観察園を有する。

場 所	遺産地域外(斜里郡斜里町本町49-2)
建築面積	2,887㎡(知床博物館960㎡及び姉妹町友好都市交流記念館1,927㎡)
内 容	常設展示室、収蔵庫、映像展示室、天体観測室
開館年月	昭和53年12月
設 置 者	斜里町
管 理 者	斜里町
運 営 体 制	斜里町 8名
開館時間	9:00～17:00
休 館 日	月曜日(4月～10月、祝日・振休日は開館)、月曜日・祝日・年末年始(11月～3月)

管理組織体制

環境省

- 原生自然環境保全地域、国立公園、鳥獣保護区の管理及び種の保存法に基づく管理

北海道地方環境事務所
釧路自然環境事務所

ウトロ自然保護官事務所

羅臼自然保護官事務所

林野庁

- 知床森林生態系保護地域等の国有林の管理や整備・保全

北海道森林管理局
網走南部森林管理署

北海道森林管理局
根釧東部森林管理署

知床森林センター

北海道

- 国立公園に係る管理の協力
- 野生生物の保護管理等

- 水産業の振興や漁業の許可
- 漁業の操業調整等の漁業資源の管理

- 民有林の適正な整備及び保全を図るための指導

網走支庁・根室支庁
地域振興部環境生活課

網走支庁・根室支庁
産業振興部水産課

網走支庁・根室支庁
産業振興部林務課

斜里町

- 自然保護業務、野生生物の調査研究・保護管理、環境対策、利用者指導やサービス提供、しれとこ100平方メートル運動等についての事務
- これらに関する住民への情報提供や意識啓発の事務
- 羅臼町と共同で(財)知床財団を設置して、野生生物の保護管理やしれとこ100平方メートル運動等の現地業務等

- 水産振興や漁港管理及び民有林の管理・指導の事務

- 文化財の保護及び調査、野生生物の調査研究、教育普及活動、天然記念物及び傷病鳥獣の保護管理

環境保全課

水産林務課

斜里町立知床博物館

羅臼町

- 自然保護業務、野生生物保護管理、廃棄物対策等についての環境保全業務
- それらに関する住民への情報提供や意識啓発の事務
- (財)知床財団の共同設立者として、知床財団の活動を通じた保護と利用の調和を図る活動

- 水産振興や漁港管理及び民有林の管理・指導の事務

- 文化財の保護及び調査、野生生物の調査研究、教育普及活動、天然記念物及び傷病鳥獣の保護管理

環境管理課

水産商工観光課

郷土資料室



知床白書 （平成20年度 知床世界自然遺産地域年次報告書）

平成 21 年●月発行

環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所

〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3

釧路地方合同庁舎 4 階

電 話 (0154)32-7500

F A X (0154)32-7575

U R L <http://hokkaido.env.go.jp/kushiro/>

知床データセンター <http://dc.shiretoko-whc.com/>

知床世界自然遺産センター <http://shiretoko-whc.jp/whc/>

羅臼ビジターセンター <http://rausu-vc.jp/>

知床国立公園 <http://www.env.go.jp/park/shiretoko/>
